

関西考古学の日 2013

記念講演会

「ヤマト王権と地域首長」

日時：平成25年10月12日（土） 10:30～16:00

会場：長岡京市立中央公民館3階市民ホール

記念講演 「ヤマト王権と地域首長」 兵庫県立考古博物館長 石野 博信

報 告 「京都盆地の首長墓群 -乙訓地域を中心に-

公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター 山本 輝雄

「百舌鳥・古市古墳群とその前夜」

公益財団法人大阪府文化財センター 鹿野 壘

「兵庫県内の首長墓の動態」

公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 岸本 一宏

「琵琶湖周辺における首長墓系列の画期」

公益財団法人滋賀県文化財保護協会 細川 修平

「紀伊地域の首長墓系譜について」

公益財団法人和歌山県文化財センター 丹野 拓

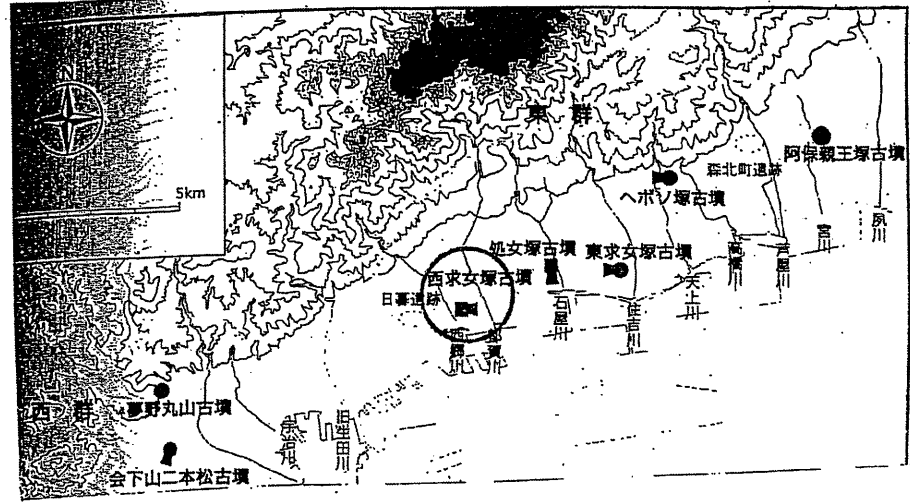
主 催：関西考古学の日実行委員会

事務局：公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター

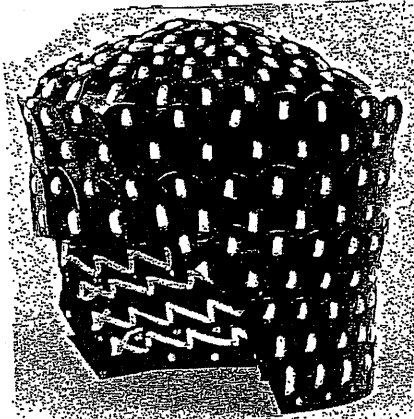
「ヤマト王権と地域首長」

石野博信

1 兵庫県六甲山麓

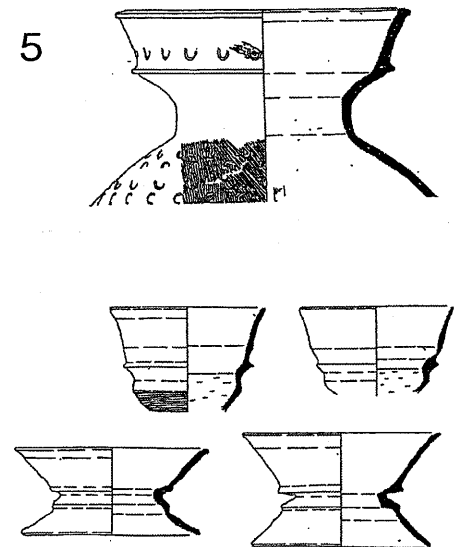


2 雪野山 (滋賀県)

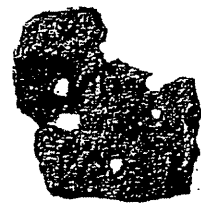


小札革綴青 (復元品)

5



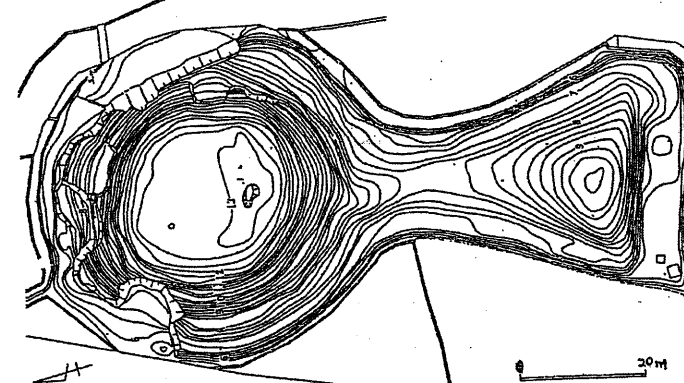
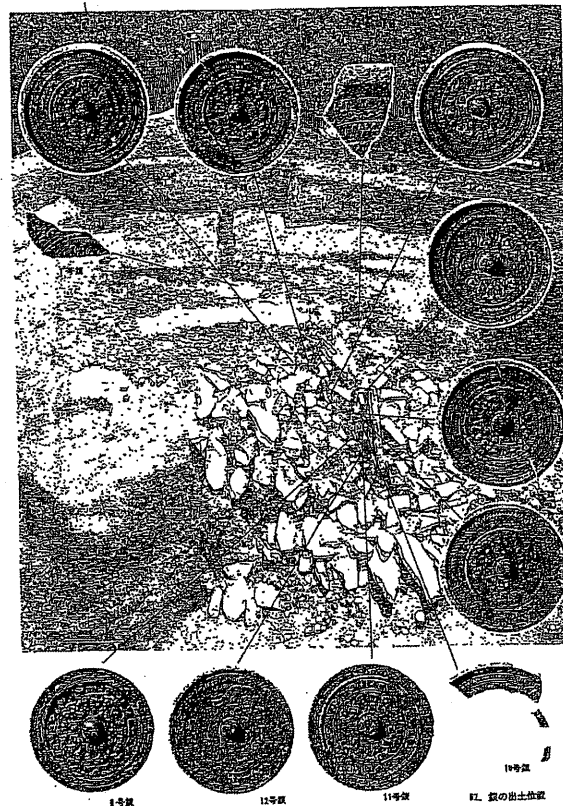
3



革綴青の小札

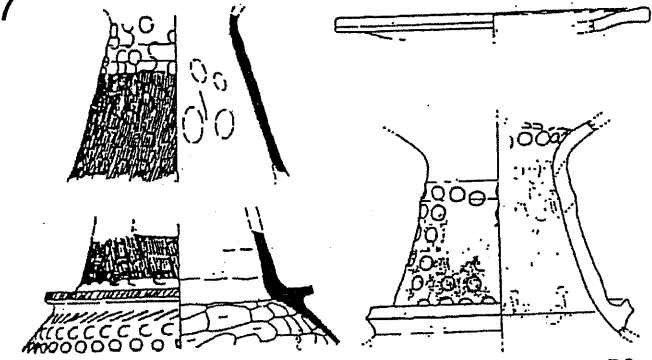
1・3~5
西求女塚古墳 (神戸市埋文セ)

4



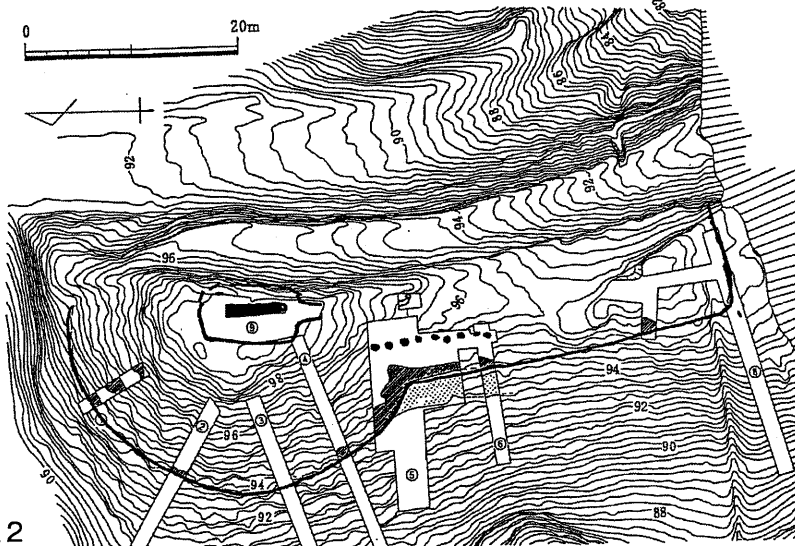
丁瓢塚 (姫路市)

7



50cm

9 玉手山9号墳



玉2

図-29 玉手山9号墳丘測量図 (斜線は葦石残存部、網目は礎敷きのテラス)

11

①	玉手山・松岳山古墳群	石川流域の古墳	大和盆地東部・佐紀扇列・古市古墳群	川西扇部②	一瀬扇部③
1期			玉手山 中塚山 大塚山		1古
2期	玉手山 中塚山	大塚山	玉手山 中塚山 大塚山	I	1中 1新
3期	玉手山 中塚山 大塚山	大塚山	玉手山 中塚山 大塚山	II	2古 2中
4期	玉手山 中塚山	大塚山	玉手山 中塚山 大塚山		2新

玉1

図-71 南河内と畿内中部の古墳編年 (伊藤 1998 を一部修正・加筆)



10

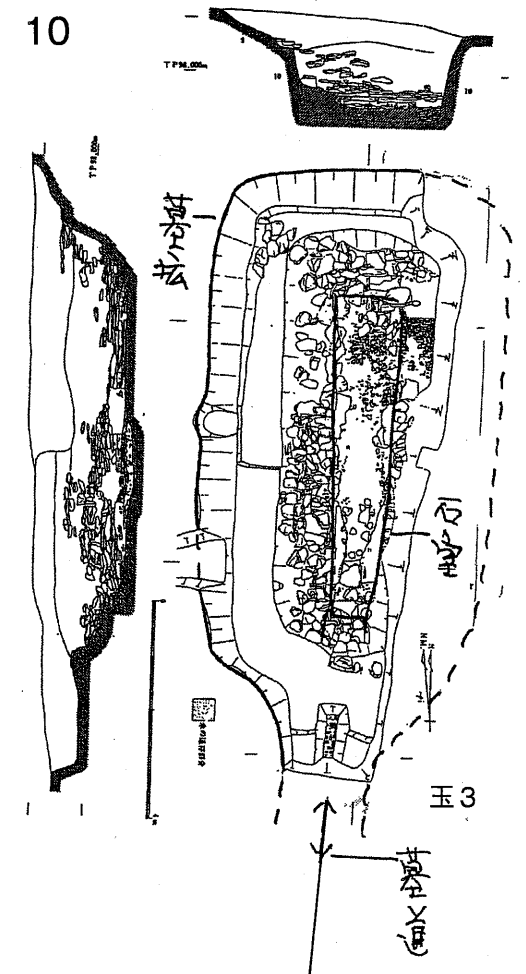
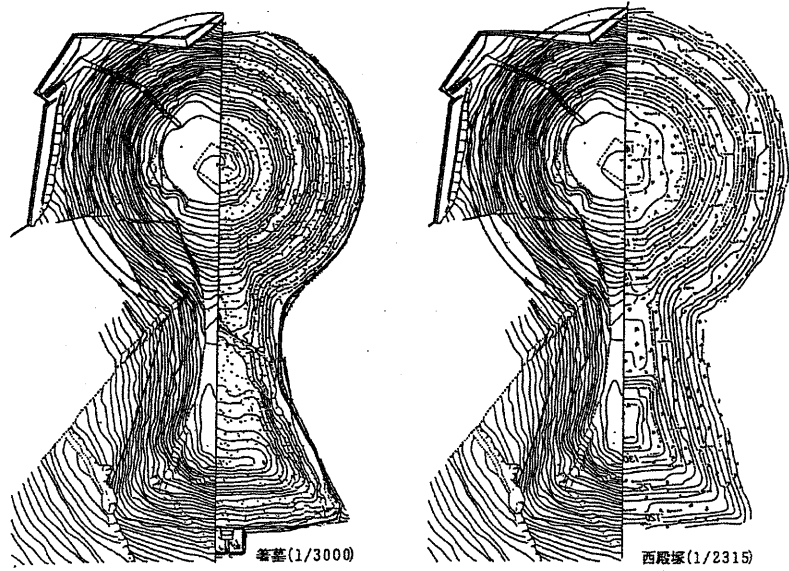


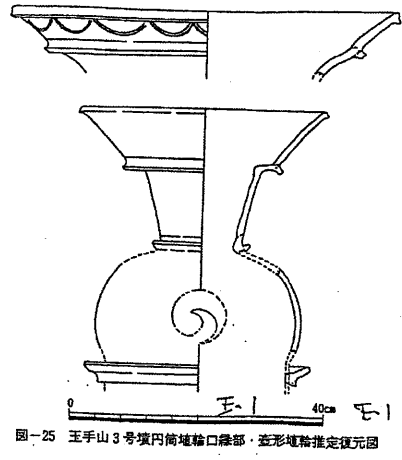
図18 玉手山9号墳・後円部竪穴式石室全体図

12 大阪府 玉手山3号墳

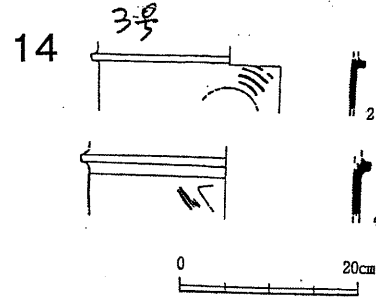


図一 15 玉手山3号墳 (1/1,000) と箸墓・西殿塚古墳の比較 五・二

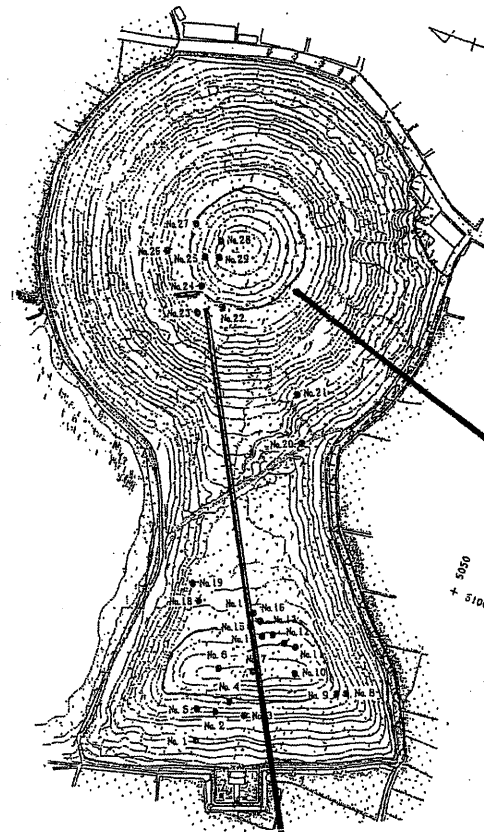
13 玉手山3号



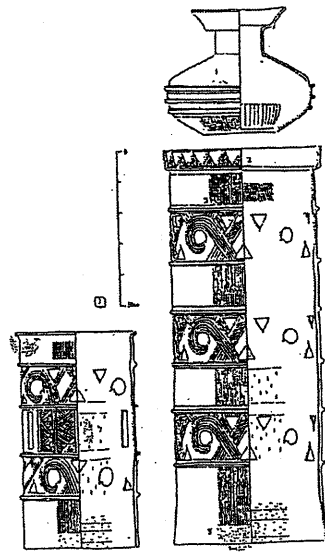
図一 25 玉手山3号墳内南壁輪口縁部・菱形埴輪推定復元図



18 箸中山古墳 (宮内庁)



19 箸中山の特殊器台



20 纏向、辻地区 旧河道

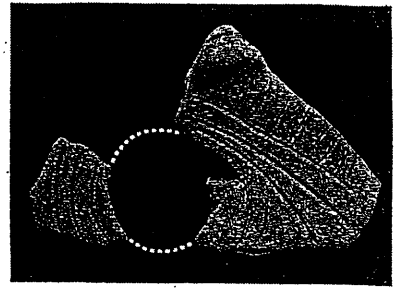
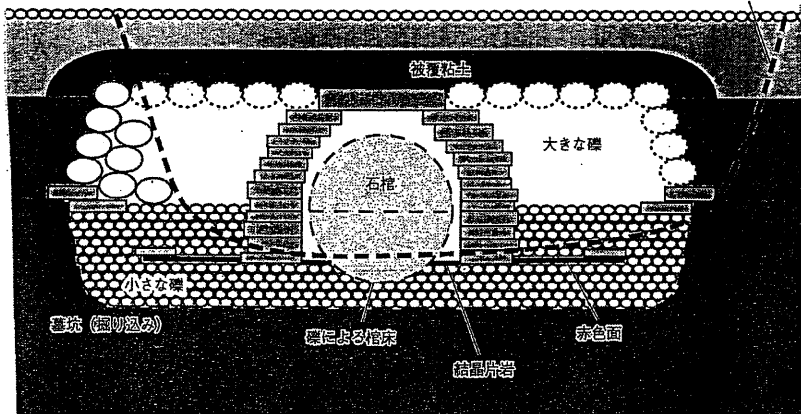


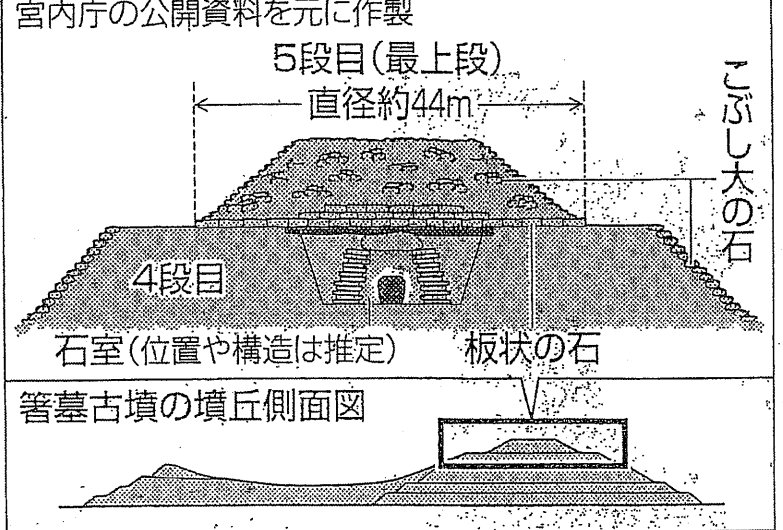
図4・特殊器台
胎土は茶褐色で表面は赤彩。同一器体ではないが、巴形すかし孔の部分を示す。

朝日新聞 2012.09.09

15 玉手山3号 埋葬施設 断面



21 箸墓古墳後円部頂の想像図 (イメージ)



16

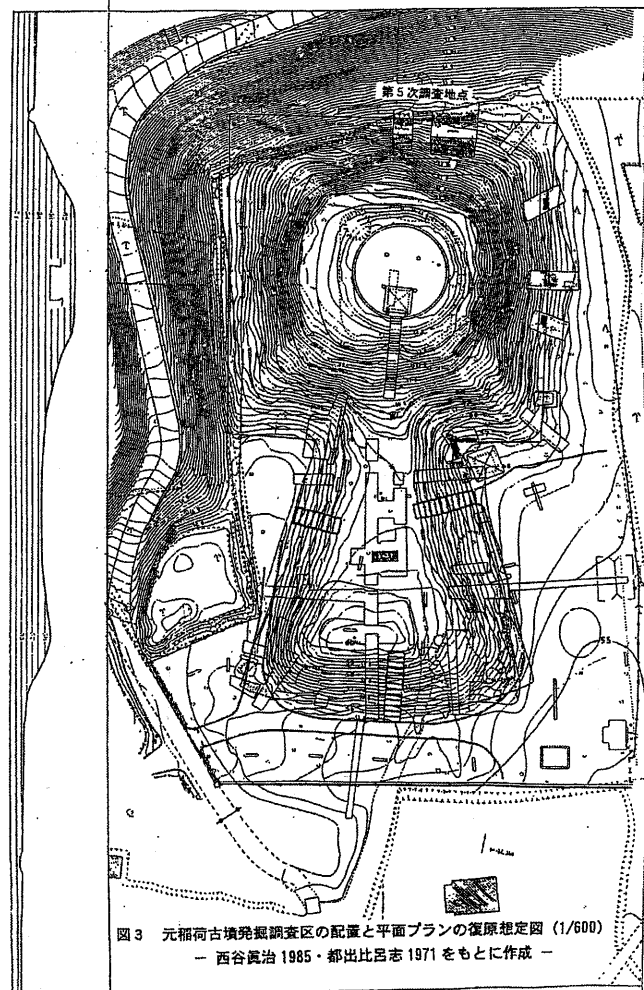


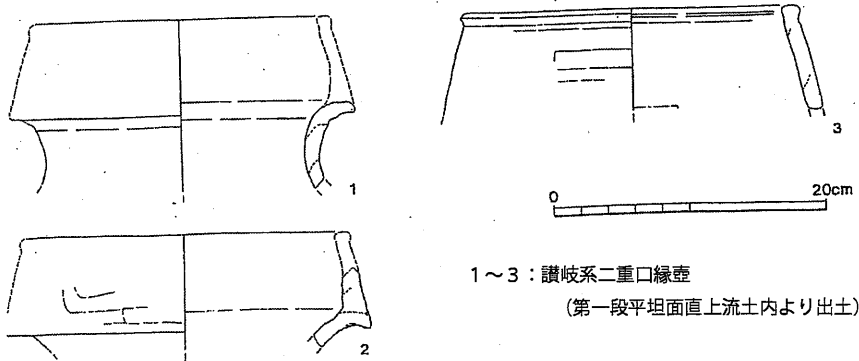
図3 元稲荷古墳発掘調査区の配置と平面プランの復元想定図 (1/600)
- 西谷眞治 1985・都出比呂志 1971 をもとに作成 -

22



朝日新聞

17



1~3: 讃岐系二重口縁壺
(第一段平坦面直上流土内より出土)

図4 元稲荷古墳第五次調査出土遺物実測図 (1/4)

23 石積み頂上高まる関心

奈良・箸墓古墳の宮内庁調査資料

奈良県高市郡高市町の箸墓古墳(古墳)の宮内庁調査資料。この古墳は、古墳時代中期の古墳で、石積みの墳丘を持つ。近年、この古墳の頂上部分に石積みの構造が発見された。この石積みの構造は、古墳の頂上部分にあり、その高さが約10メートルに達している。この石積みの構造は、古墳の頂上部分にあり、その高さが約10メートルに達している。この石積みの構造は、古墳の頂上部分にあり、その高さが約10メートルに達している。

特異な構造 大石の積み

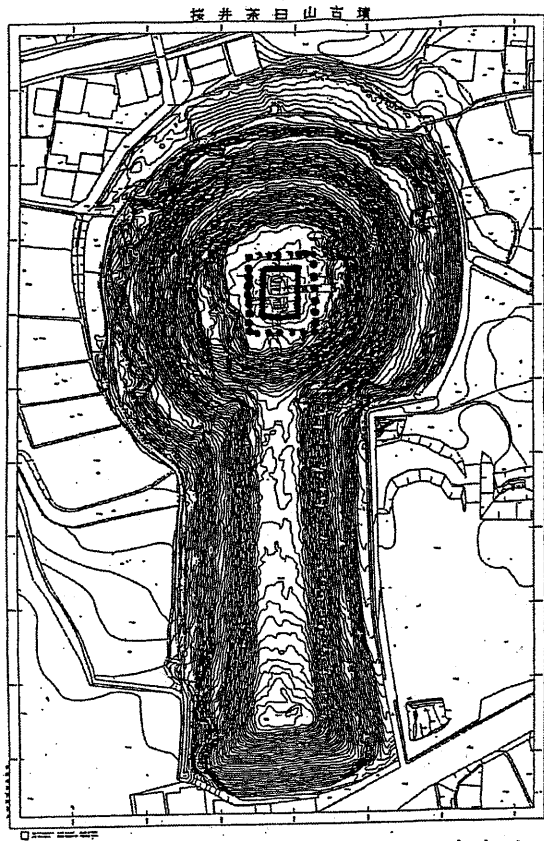
この古墳の頂上部分に、大石の積み構造が発見された。この大石の積み構造は、古墳の頂上部分にあり、その高さが約10メートルに達している。この大石の積み構造は、古墳の頂上部分にあり、その高さが約10メートルに達している。

板石 未盗掘の可能性示す

この古墳の頂上部分に、板石の積み構造が発見された。この板石の積み構造は、古墳の頂上部分にあり、その高さが約10メートルに達している。この板石の積み構造は、古墳の頂上部分にあり、その高さが約10メートルに達している。

朝日新聞

24



—— 丸太壁
 推定 丸太垣

26



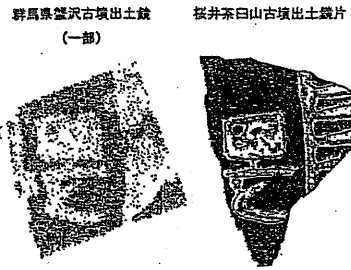
(組合式 U 字底木棺)
 —長持型木棺—

25

出土鏡式一覧

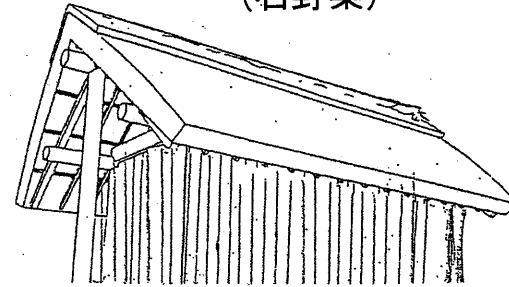
- | | |
|-----------|-------------|
| 1、内行花紋鏡 | 9面 (11.1%) |
| 2、獸型内行花紋鏡 | 10面 (12.3%) |
| 3、麴鏡 | 1面 (1.2%) |
| 4、方格規矩鏡 | 2面 (2.5%) |
| 5、細線獸帯鏡 | 3面 (3.7%) |
| 6、三角縁神獸鏡 | 26面 (32%) |
| 7、盤龍鏡 | 1面 (1.2%) |
| 8、環状乳神獸鏡 | 4面 (4.9%) |
| 9、鳳鏡 | 4面 (4.9%) |
| 10、神獸鏡類 | 16面 (20%) |

- *乳をめぐる蟠龍文をもつ
 同向式神獸鏡を中心とした鏡式 12面 (14.8%)
- *面文帯神獸鏡 1面 (1.2%)
- *斜縁神獸鏡 3面 (3.7%)
- 11、半内形獸帯鏡 5面 (6.1%)



27

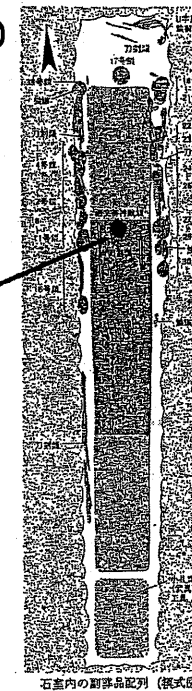
桜井茶臼山
 丸太壁建物
 (石野案)



29

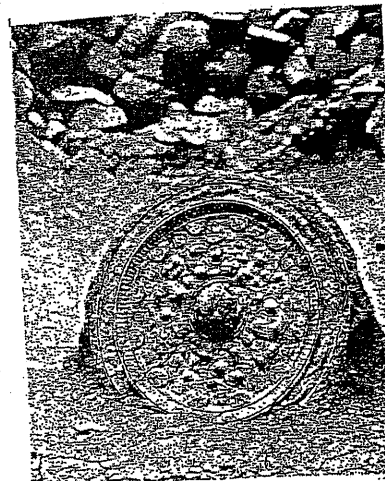


30



28 ~ 30 黒塚古墳

28



京都盆地の首長墓群

— 乙訓地域を中心に —

公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
山本輝雄

1. はじめに

乙訓地域は、京都盆地の西南部に位置する桂川の右岸域で、旧乙訓郡全域と旧葛野郡の一部を含み、現在の向日市、長岡京市、大山崎町、それに京都市の一部が相当する。この地域の地形は、西から山地、丘陵地、高位～低位段丘、そして桂川や小畑川、小泉川沿いに形成された沖積低地が広がり、おおむね北西から南東に向かって階段状に傾斜している。桂川、宇治川、木津川が合流して淀川に注ぐ地点に近いという交通の要衝を背景に、継体大王の弟国宮や桓武天皇による長岡京の造営、さらには山城国府が設置されるなど政治の中心地として歴史の表舞台にたびたび登場する地域である。

2. 首長墓系譜研究のモデルケース

乙訓地域では、古墳時代の前期から後期に至るまで、数多くの首長墓を中心とする古墳が造営されている。この地域の首長墓を研究対象にした都出比呂志氏は、分布する地域や築造年代の異同を詳細に検討し、それに基づいて北から檜原・山田、向日、長岡の3グループに大別される首長墓系譜を抽出するとともに、各系譜の消長や盟主墳と考えられる大規模古墳が各系譜間を移動していることを指摘した。すなわち、前期は古い段階から元稲荷古墳、五塚原古墳、寺戸大塚古墳、妙見山古墳など100m級の前方後円墳（方）墳が連綿と築かれる向日グループが絶対的な優位性をもつが、前期後半段階では各グループが拮抗しつつも天皇ノ杜古墳が築造された檜原・山田グループに盟主墳が移動する。

中期に入ると、これまで大型古墳が認められなかった長岡グループに乙訓地域で最大規模の恵解山古墳が築造されるが、以後墳丘の縮小化が進行しつつも、中期後半は再度檜原・山田グループに再び優位がおとずれる。

後期には、向日グループに物集女車塚古墳、長岡グループに井ノ内稲荷塚古墳など横穴式石室を採用した首長墓が相前後して造られ、長岡グループの今里大塚古墳を最後に明確な首長墓は終焉を向かえる。

こうした首長墓系譜の動向は、単に乙訓という一地域のみ現象ではなく、大和や河内の中枢部における政治的な変動の影響を受けた結果とする評価を下した都出氏の研究業績は、首長墓系譜論のモデルケースとして全国各地に大きな反響を及ぼし、その理論に基づく検討と追究が試みられている。

3. 最近の調査事例

五塚原古墳 前方部に段築なし（後円部3段、前方部1段）、前方部頂から後円部へ上昇す

- 元稲荷古墳** 箸墓古墳をモデルにしつつも、西殿塚古墳と墳形が近似し、西求塚古墳と同形墳であること、讃岐系の大型二重口縁壺の存在を確認。
- 寺戸大塚古墳** 墳形は柄鏡形ではなく、前方部が開く形態であること。
- 鳥居前古墳** 全長54mの帆立貝形古墳で、前方部の段は東側が4段、西側が3段と方向で段数が異なる構造であることが判明。
- 境野1号墳** 全長57.5mの前方後円墳であることが判明し、車輪石や石剣など副葬品の一部が出土。
- 恵解山古墳** くびれ部に形態と規模の異なる造出しを付設すること、埋葬施設に結晶片岩・石英斑岩・竜山石を使用していること、鉄斧・鉄鎌・鋤先などが出土し、複数の副葬品埋納施設を有する可能性が出てきた。
- 井ノ内車塚古墳** 後円部に造出しのない墓道が付設する可能性があり、石見型・人物・馬形など多彩な形象埴輪を有すること。

4. 国指定史跡を目指して

乙訓地域の首長墓は、現在国史跡が2基（天皇ノ杜古墳、恵解山古墳）、府史跡が1基（物集女車塚古墳）、市史跡が1基（井ノ内稲荷塚古墳）であり、他は何の保存処置もとられないままの状態である。

今後、遺存する乙訓地域の首長墓すべてを群として全体に保存していくことが望まれ、現在国史跡へとめざす計画が準備、進行中である。

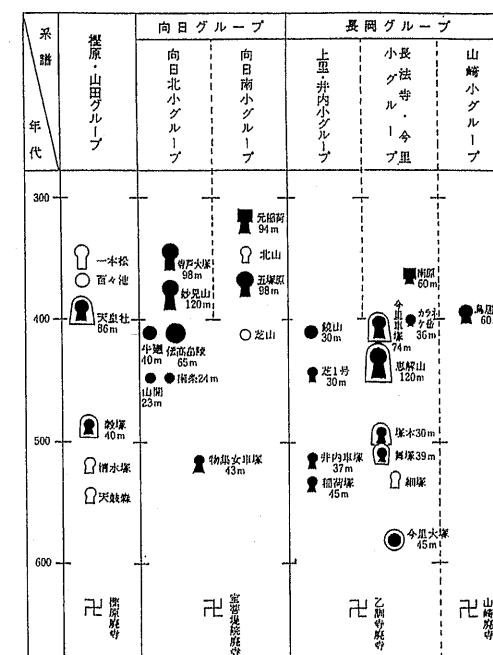


図1 都出編年案（1983年）

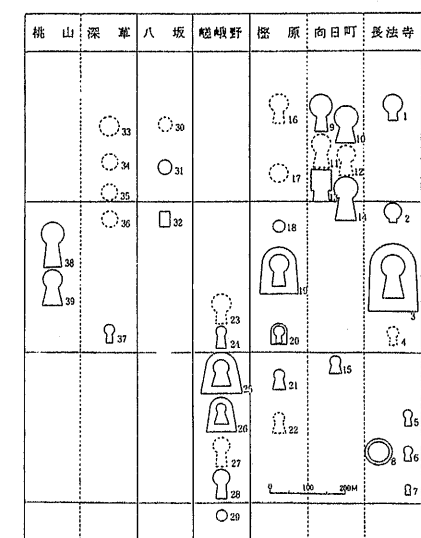


図2 田辺編年（1970年）

前方後円墳編年	榎原・山田		向日	長岡		山崎
	榎原	山田		上里・井ノ内	長法寺・今里	
1期			五塚原●91 元稲荷■94			
2期	一本松塚● 百々池○50?		寺戸大塚●98 北山●?			
3期	天皇ノ杜●83 塚ノ本※?		妙見山●114 南開門 伝高島塚○65	長法寺南原■60 今里車塚●74?	境野1号●57.5 土辺口	
4期			恵比須山○ 御塔道※	鏡山○30? カラネガ岳2号○36		鳥居前○51
5期			物業女(長持形石棺)※?	今里庄ノ洲●30		恵解山●128
6期			山開口			南栗ヶ塚口
7期	巡礼塚●50 山田桜谷2号●		南条3号○23.5		宇津久志口	
8期	敷塚●45 山田桜谷1号●48	山畑口		井ノ内車塚●36 舞塚1号○39	開田口	
9期	清水塚●? 天鼓の森●?	西小路●? 南小路※ 物業女車塚●48 中ノ段※		井ノ内車塚●36 井ノ内稲荷塚●46	塚本●30 丸菱口 長法寺ヒツ屋◎ 稲荷山※	久保口 境野口
10期	大枝山○ 福西○	松尾山○ 西芳寺○	長野内	神足○ 今里大塚●245以上 走田○		
飛鳥			法蓮寺門			

●前方後円墳 ◎帆立貝形 ■前方後方墳 ○円墳 □方墳 ※墳形不明 ?根拠が乏しいもの
太字は首長墳 細字は小規模墳(群)

図3 編年案

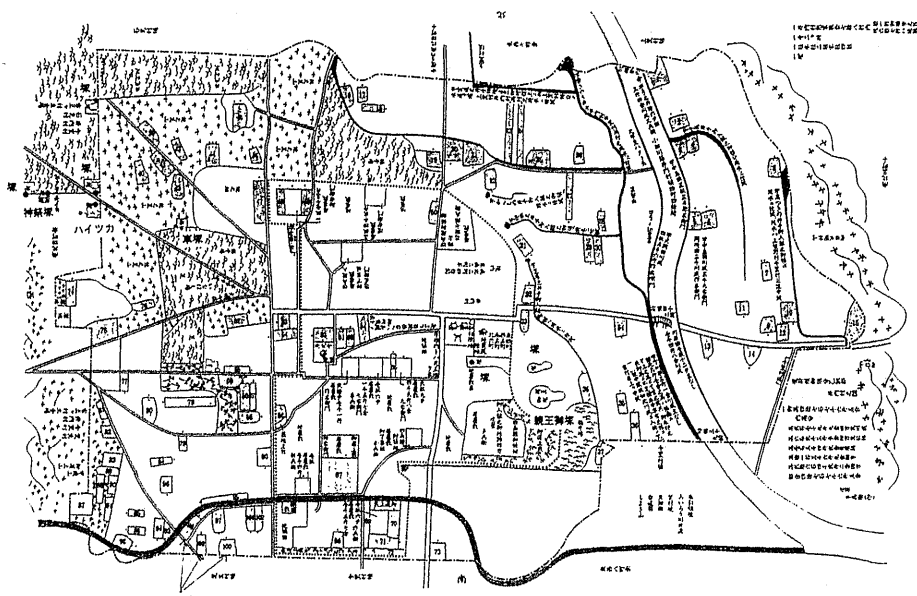


図5 鷹司家領分井ノ内村絵図 元禄11(1698)年

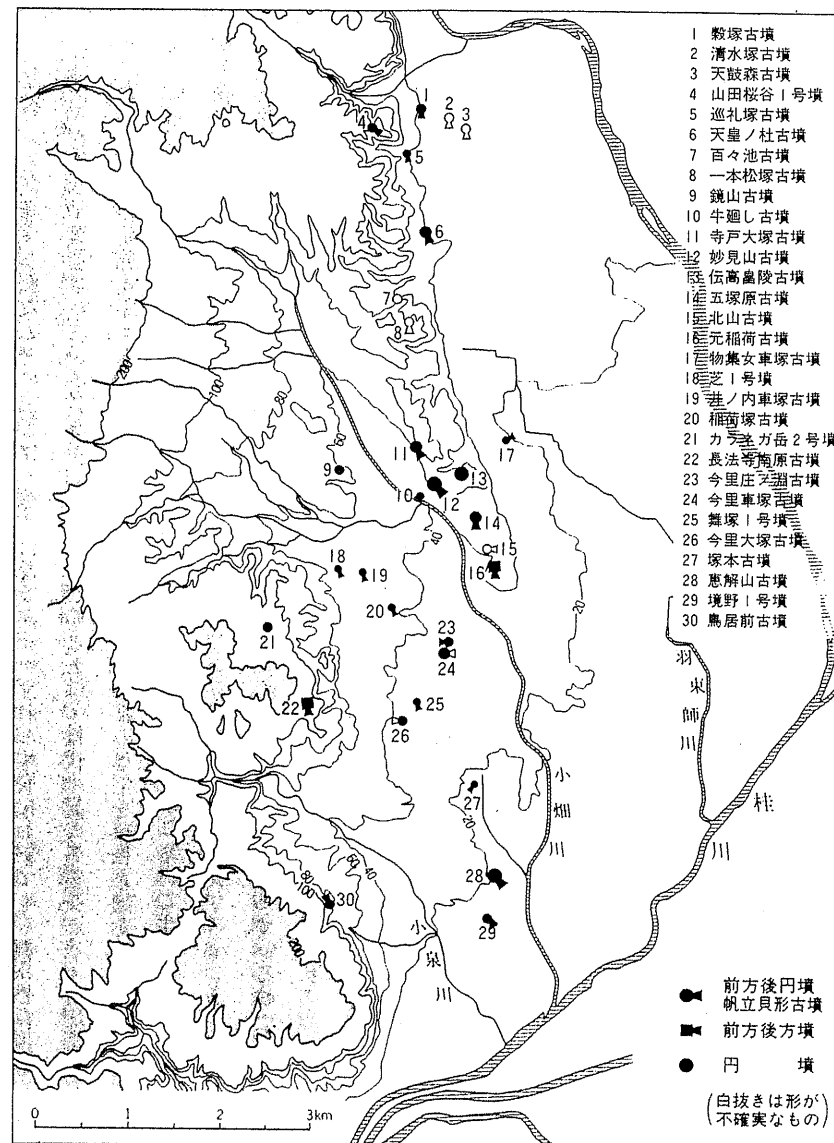


図4 主な首長墓分布図

調査年度	所在地	古墳名	調査回数	調査内容	文献
2001(平成13)年	向日市	五塚原古墳	第2次	前方部、くびれ部、後円部の調査	立命館大学研究報告 第10冊
2002(平成14)年	大山崎町	境野1号墳	第2次	調査	大山崎町埋文調査報告書 第34集
2003(平成15)年	長岡京市	恵解山古墳	第4次	前方部の調査	長岡京市報告書 第46冊
	大山崎町	境野1号墳	第3次	前方部、くびれ部の調査	大山崎町埋文調査報告書 第34集
2004(平成16)年	長岡京市	恵解山古墳	第5次	前方部と造り出しの調査	長岡京市報告書 第47冊
	大山崎町	今里車塚古墳	第10次	後円部周縁の調査	長岡京市埋文年報 平成16年度
	大山崎町	境野1号墳	第4次	前方部、くびれ部、後円部の調査	大山崎町埋文調査報告書 第34集
2005(平成17)年	長岡京市	恵解山古墳	第6次	後円部と造り出しの調査	長岡京市報告書 第48冊
	大山崎町	境野1号墳	第5次	前方部の調査調査	大山崎町埋文調査報告書 第34集
2006(平成18)年	長岡京市	恵解山古墳	第7次	前方部と周縁の調査	長岡京市報告書 第50冊
	大山崎町	今里車塚古墳	第11次	後円部と周縁の調査	長岡京市報告書 第49冊
	大山崎町	境野1号墳	第6・7次	前方部の調査	大山崎町文化財年報 平成18年度
2007(平成19)年	向日市	元稲荷古墳	第4次	前方部、くびれ部の調査	向日市埋文報告書 第82集
	長岡京市	恵解山古墳	第8次	後円部、くびれ部、前方部の調査	長岡京市報告書 第52冊
	大山崎町	境野1号墳	第8・9次	後円部の調査	大山崎町文化財年報 平成19年度
	京都市	寺戸大塚古墳	第8次	後円部の調査	京都市内発掘調査報告 平成19年度
2008(平成20)年	向日市	元稲荷古墳	第5次	後円部の調査	向日市埋文報告書 第82集
	長岡京市	恵解山古墳	第9次	後円部、くびれ部、造り出しの調査	長岡京市報告書 第54冊
	京都市	塚本古墳	第9次	後円部周縁の調査	長岡京市埋文報告書 第52・53集
	京都市	寺戸大塚古墳	第9次	前方部の調査	京都市内発掘調査報告 平成21年度
2009(平成21)年	向日市	元稲荷古墳	第6次	後円部の調査	向日市埋文報告書 第84・89集
	長岡京市	恵解山古墳	第10次	後円部、前方部、造り出しの調査	長岡京市報告書 第56冊
	京都市	塚本古墳	第10次	後円部と周縁の調査	長岡京市埋文報告書 第54集
	京都市	寺戸大塚古墳	第10次	前方部の調査	京都市内発掘調査報告 平成22年度
2010(平成22)年	向日市	元稲荷古墳	第7次	西くびれ部の調査	向日市埋文報告書 第89集
	長岡京市	恵解山古墳	第11次	東西造り出し、前方部、外周部の調査	長岡京市報告書 第60冊
	大山崎町	鳥居前古墳	第4・5次	後円部、くびれ部の調査	大山崎町埋文報告書 第42集
2011(平成23)年	向日市	元稲荷古墳	第8次	前方部の調査	向日市埋文報告書 第92・96集
	長岡京市	恵解山古墳	第12次	前方部と外周部の調査	長岡京市報告書 第62冊
	大山崎町	井ノ内車塚古墳	第4次	前方部の立会調査	
	大山崎町	鳥居前古墳	第6次	くびれ部と前方部の調査	長岡京市報告書 第61冊
2012(平成24)年	向日市	元稲荷古墳	第9次	前方部の調査	向日市埋文報告書 第96集
	長岡京市	井ノ内車塚古墳	第10次	後円部と前方部南辺の調査	向日市埋文報告書 第96集
	大山崎町	恵解山古墳	第5次	後円部と前方部の調査	長岡京市報告書 第64冊
	大山崎町	鳥居前古墳	第7次	後円部と前方部の調査	
	京都市	寺戸大塚古墳	第11次	後円部と前方部の調査	
2013(平成25)年	向日市	五塚原古墳	第3次	西くびれ部の調査	
	長岡京市	井ノ内車塚古墳	第4次	後円部の調査	
	長岡京市	恵解山古墳	第6次	墳頂部と西くびれ部の調査	
	長岡京市	恵解山古墳	整備立会	前方部の立会調査	

表1 首長墓調査一覧表

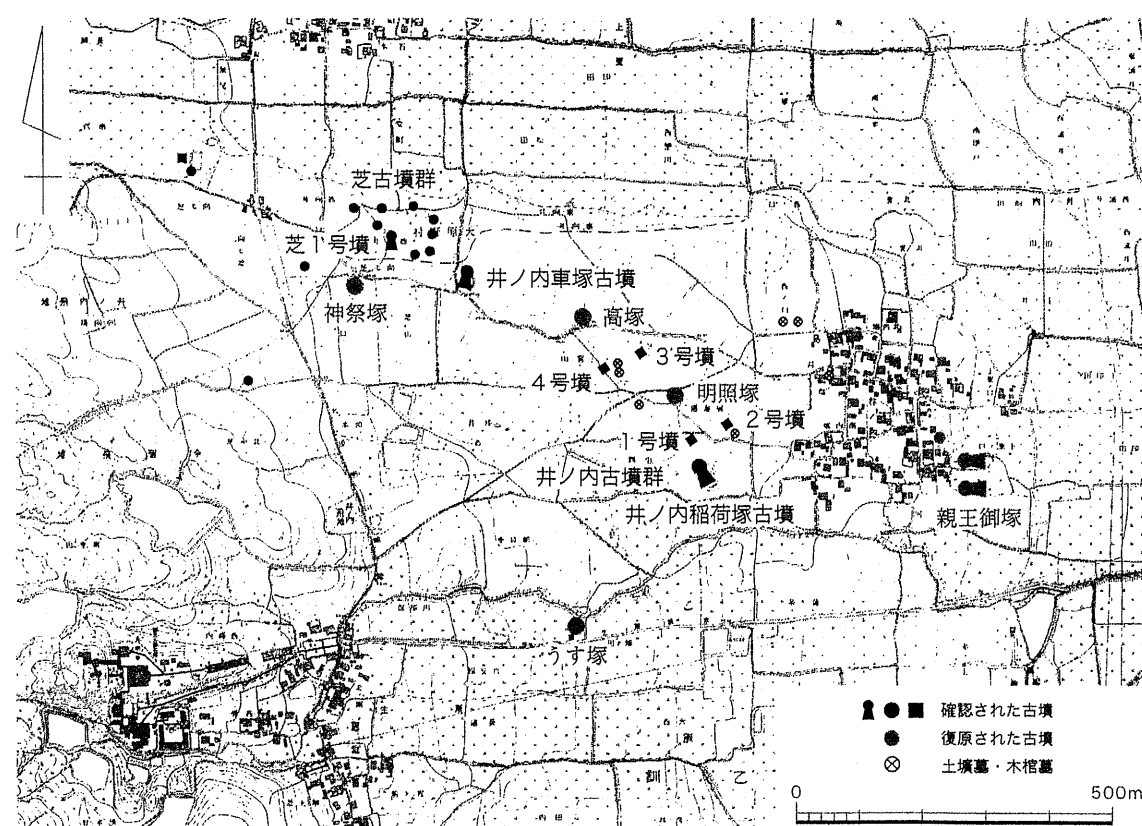


図6 井ノ内・上里グループ古墳復元図

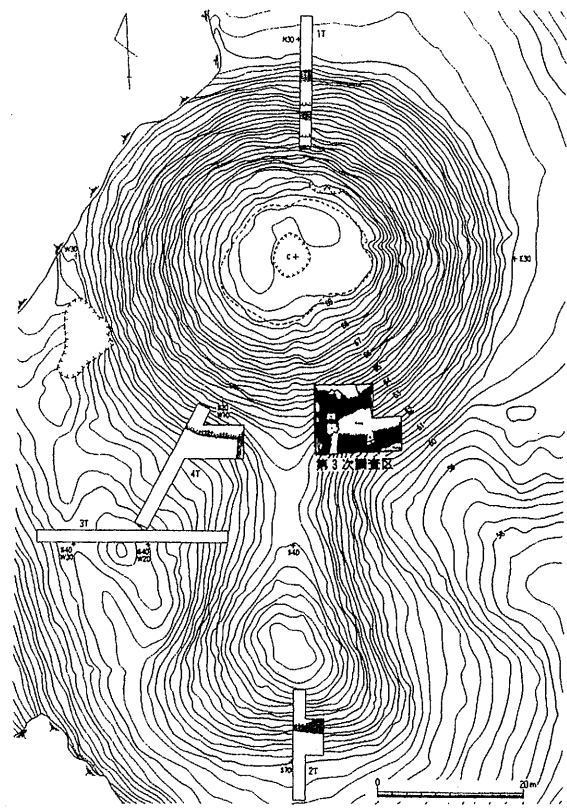


図7 五塚原古墳 (1/1000)

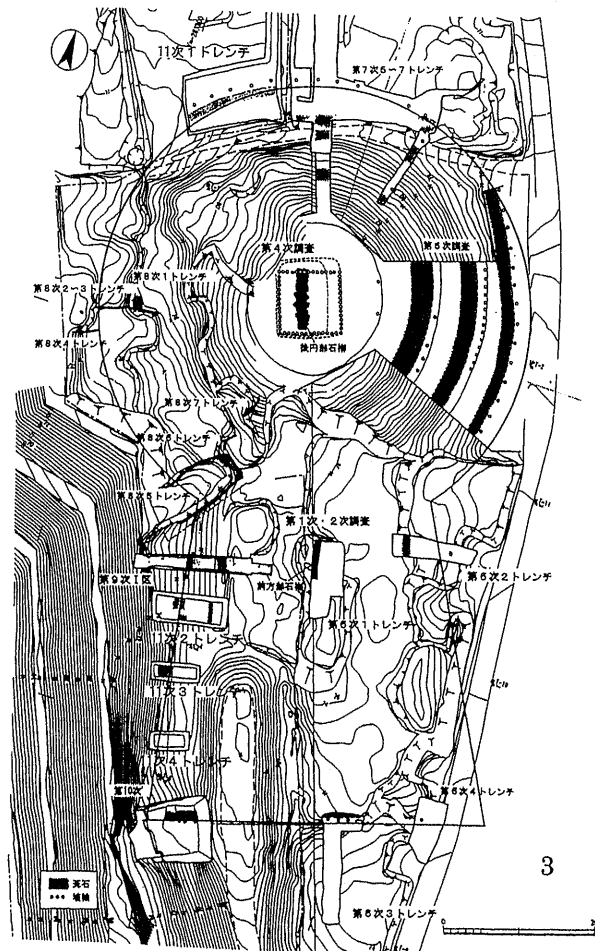


図9 寺戸大塚古墳 (1/1000)

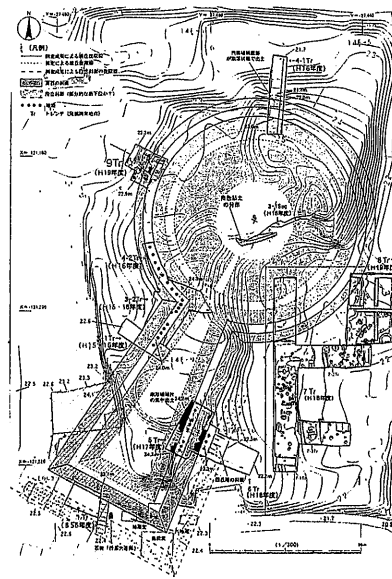


図11 境野1号墳 (1/1000)

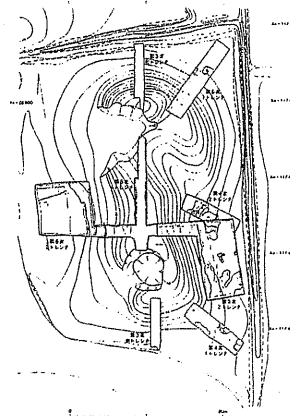


図12 井ノ内車塚古墳 (1/1000)

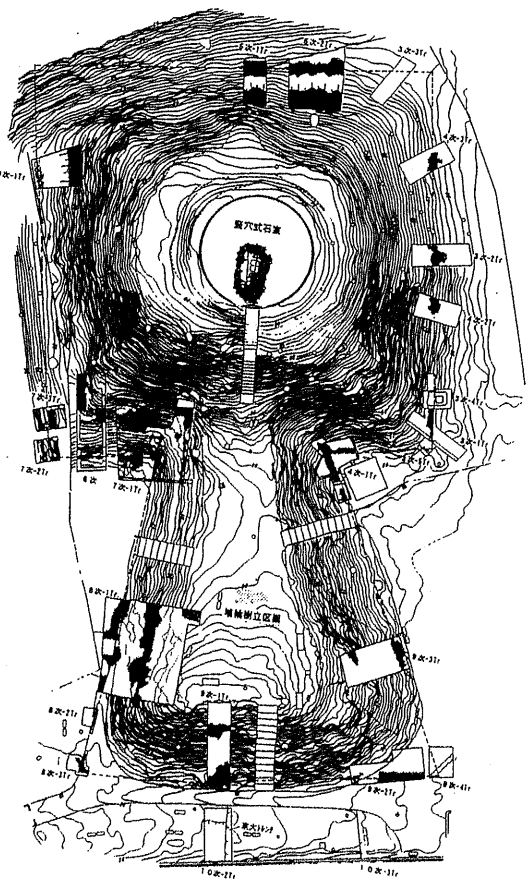


図8 元稻荷古墳 (1/1000)

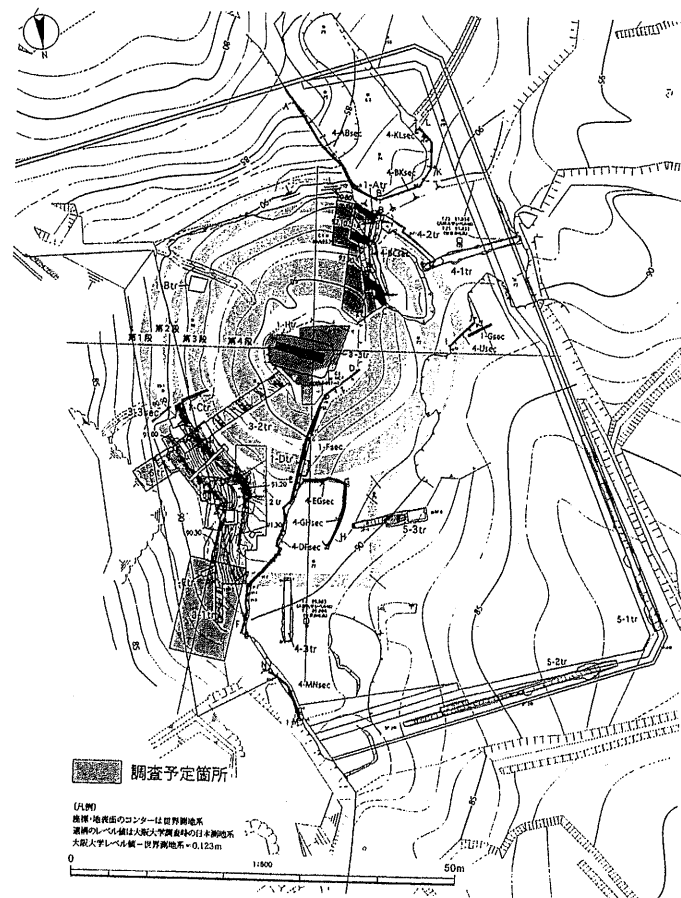


図10 鳥居前古墳 (1/1000)

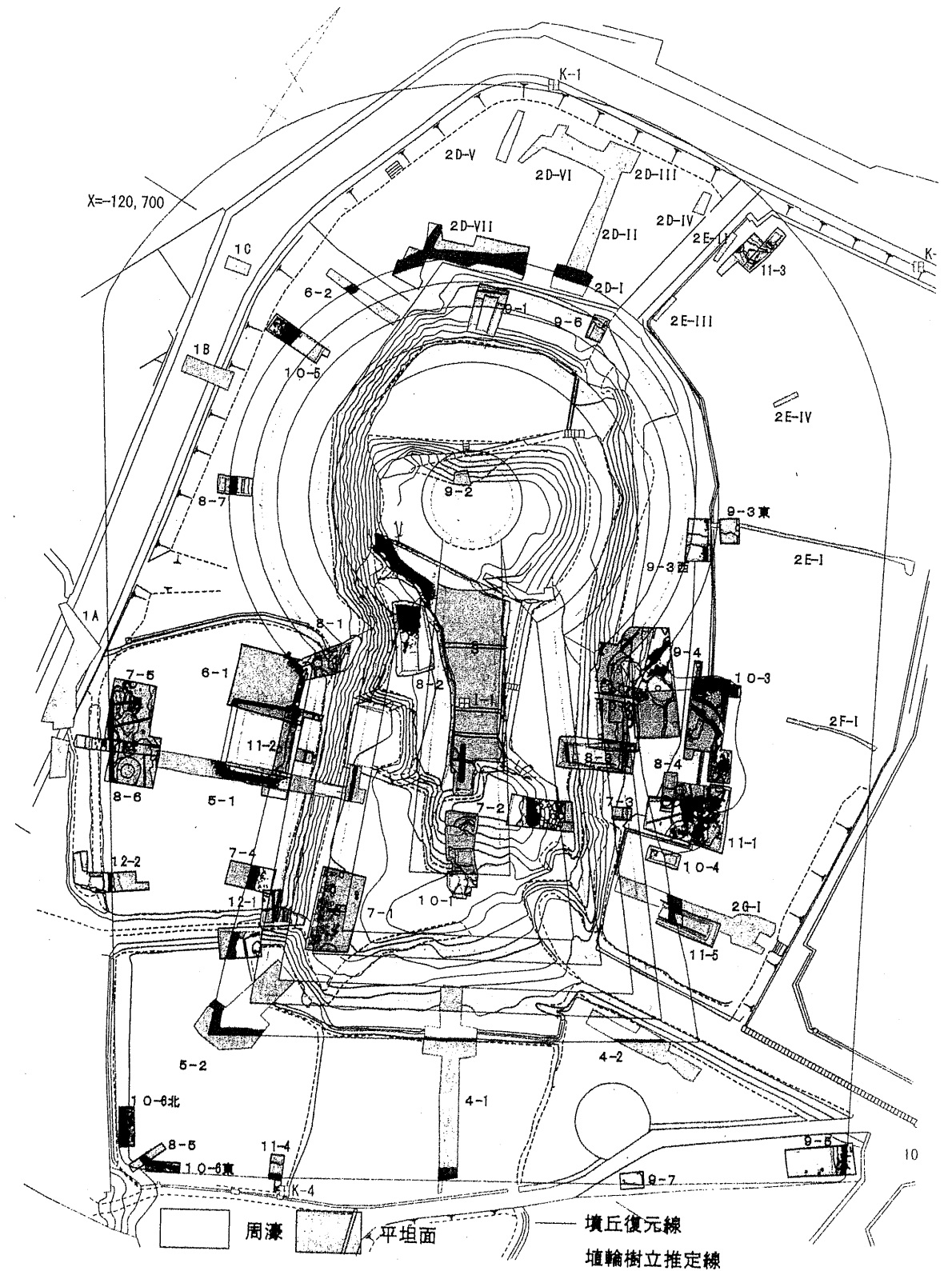
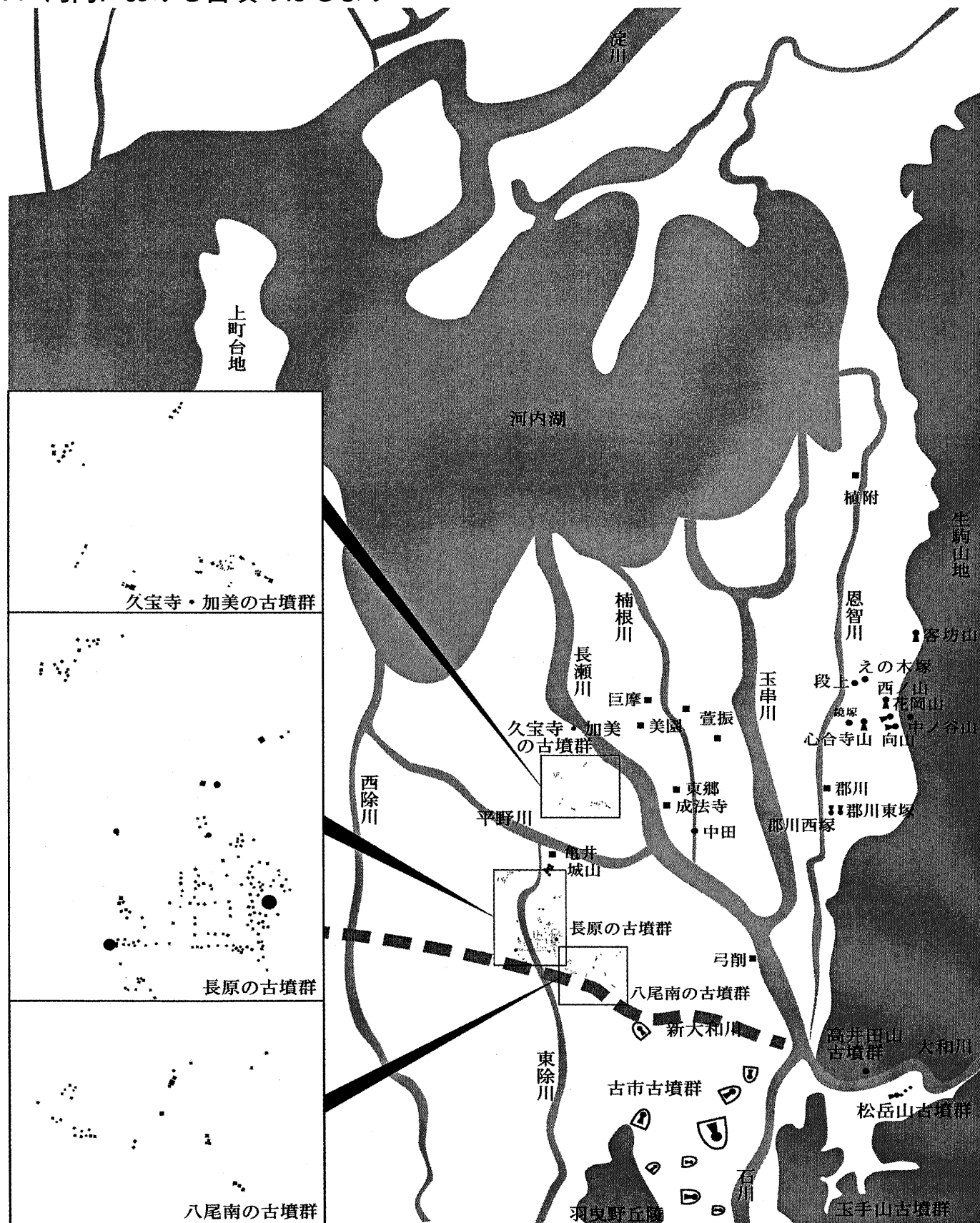


図13 恵解山古墳 (1/1000)

関西考古学の日 記念講演会『ヤマト王権と地域首長』
 「百舌鳥・古市古墳群とその前夜」 2013年10月12日(土)
 於：長岡京市立中央公民館
 公益財団法人大阪府文化財センター 鹿野 壘

1. 河内における古墳のはじまり

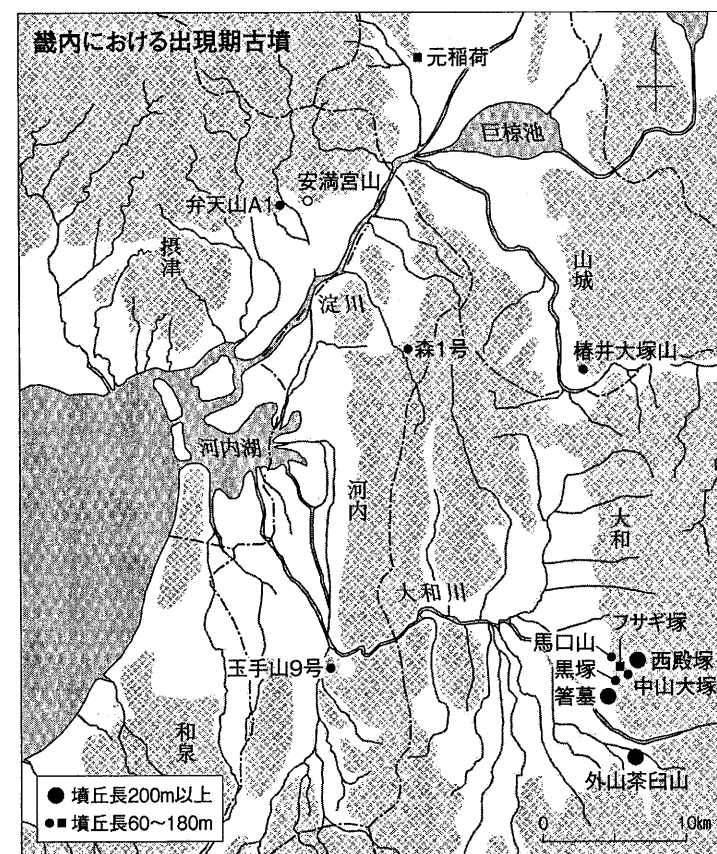


①河内平野の弥生時代末～古墳時代中期の墳墓分布図(八尾市歴史民俗資料館 2002 より)

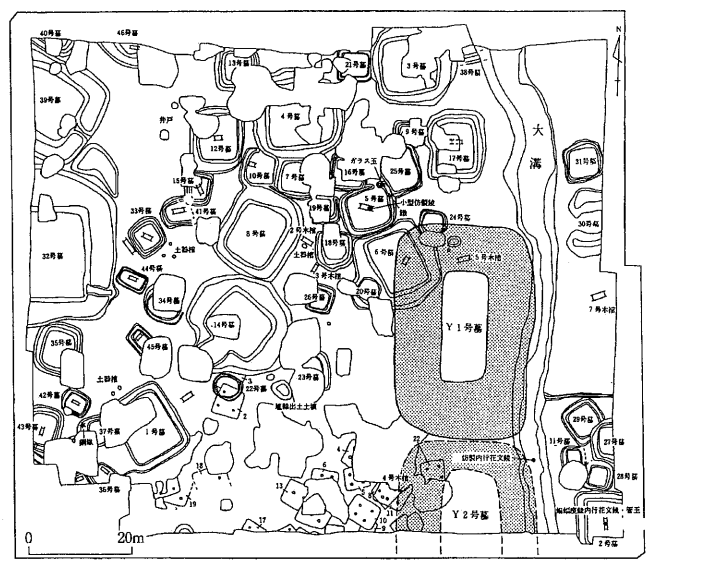
西暦	時代区分	土器編年	基準資料	河内台地東縁部 (長原・八尾南)	古平野川左岸 (亀井・城山・弓削他)	古平野川と長瀬川の間の (亀井北・久宝寺・加美他)	長瀬川と玉串川の間の (美園・荻振・東郷他)	玉串川右岸から170号線 (郡川・植附他)	生駒山西麓部	近隣部				
300	弥生時代終末期	庄内式古相	中田 相部土坑 東馬場 43x30-1			2号 3号 4号 亀井北(その1) SX-1 久宝寺23次 SX-2 久宝寺25次	SX-1 東郷17次 東郷21次 SX-3 成法寺4次							
	古墳時代初期	庄内式新相	瓜生堂 土器類2 美園 CSK-303 BSX-304 小塚合 SD316	SX-2(2) 八尾南		1号 3号 亀井北(その1) 久宝寺南(その2) 3号 8号 加美(84-1)	SX1 SX2 成法寺4次 成法寺1981 東郷23次	SX-202 SX-203 郡川3次						
400	古墳時代前期	布留式古相	菅野 SE-3・SK-5 中田-39 SK1・SK2 久宝寺12次 SV1 馬場川 T地点	SK-12 瓜割北		1-6号墳 久宝寺南(その1) 久宝寺南(その2) 久宝寺南(その3) 久宝寺南(その4) 久宝寺南(その5) 久宝寺南(その6) 久宝寺南(その7) 久宝寺南(その8) 久宝寺南(その9) 久宝寺南(その10) 久宝寺南(その11) 久宝寺南(その12) 久宝寺南(その13) 久宝寺南(その14) 久宝寺南(その15) 久宝寺南(その16) 久宝寺南(その17) 久宝寺南(その18) 久宝寺南(その19) 久宝寺南(その20) 久宝寺南(その21) 久宝寺南(その22) 久宝寺南(その23) 久宝寺南(その24) 久宝寺南(その25) 久宝寺南(その26) 久宝寺南(その27) 久宝寺南(その28) 久宝寺南(その29) 久宝寺南(その30) 久宝寺南(その31) 久宝寺南(その32) 久宝寺南(その33) 久宝寺南(その34) 久宝寺南(その35) 久宝寺南(その36) 久宝寺南(その37) 久宝寺南(その38) 久宝寺南(その39) 久宝寺南(その40) 久宝寺南(その41) 久宝寺南(その42) 久宝寺南(その43) 久宝寺南(その44) 久宝寺南(その45) 久宝寺南(その46) 久宝寺南(その47) 久宝寺南(その48) 久宝寺南(その49) 久宝寺南(その50) 久宝寺南(その51) 久宝寺南(その52) 久宝寺南(その53) 久宝寺南(その54) 久宝寺南(その55) 久宝寺南(その56) 久宝寺南(その57) 久宝寺南(その58) 久宝寺南(その59) 久宝寺南(その60) 久宝寺南(その61) 久宝寺南(その62) 久宝寺南(その63) 久宝寺南(その64) 久宝寺南(その65) 久宝寺南(その66) 久宝寺南(その67) 久宝寺南(その68) 久宝寺南(その69) 久宝寺南(その70) 久宝寺南(その71) 久宝寺南(その72) 久宝寺南(その73) 久宝寺南(その74) 久宝寺南(その75) 久宝寺南(その76) 久宝寺南(その77) 久宝寺南(その78) 久宝寺南(その79) 久宝寺南(その80) 久宝寺南(その81) 久宝寺南(その82) 久宝寺南(その83) 久宝寺南(その84) 久宝寺南(その85) 久宝寺南(その86) 久宝寺南(その87) 久宝寺南(その88) 久宝寺南(その89) 久宝寺南(その90) 久宝寺南(その91) 久宝寺南(その92) 久宝寺南(その93) 久宝寺南(その94) 久宝寺南(その95) 久宝寺南(その96) 久宝寺南(その97) 久宝寺南(その98) 久宝寺南(その99) 久宝寺南(その100)								
		布留式中相	小若江北											
		布留式新相	船橋0-1	塚ノ本 1号 高麗V	田井中11次									
古墳時代中期	前半	陶器 TG232 ON231 TK73 TK216	一方塚		2号 4号 7号 城山									
	中葉	ON46 TK208	長原古墳群 200基以上		亀井 1号 城山									
	後半	TK23 TK47	七ノ塚		5号 城山 1999-429 3号 城山 弓削3次									

原田昌則 2001「河内平野における古墳時代の墳墓」【大阪府下埋蔵文化財研究会(第43回)資料】
 掲載図をもとに加筆

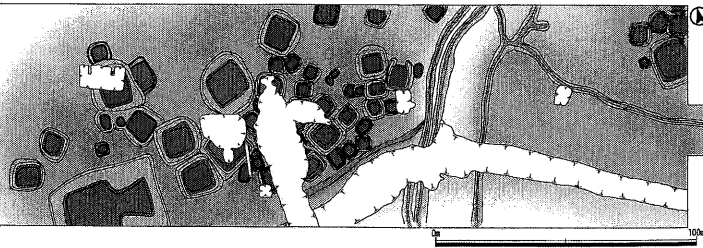
②弥生時代末～古墳時代中期の中河内の墳墓変遷表(八尾市歴史民俗資料館 2002 より)



③大和川水系と淀川水系における出現期古墳の分布(白石 2013 より)

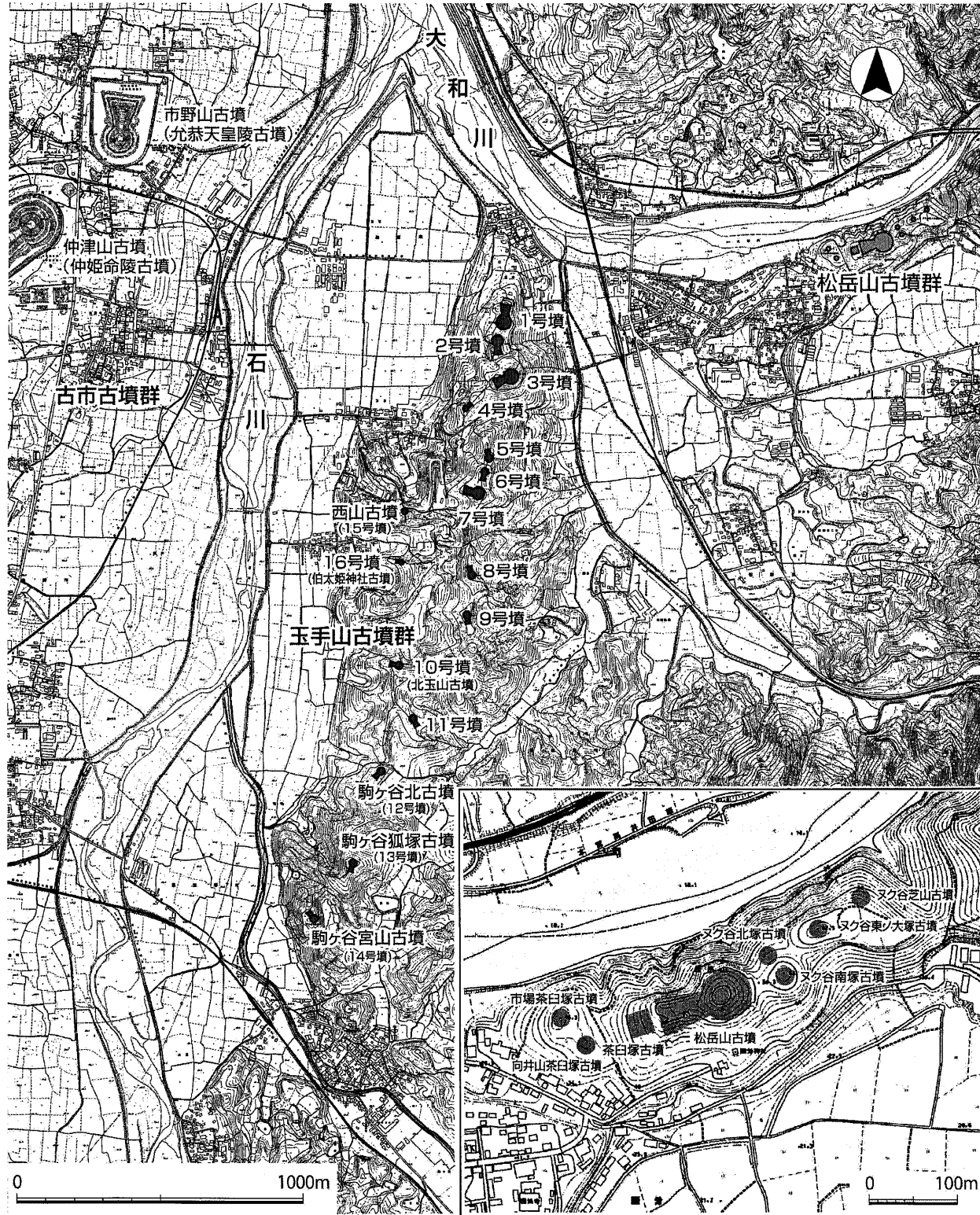


④大阪市加美遺跡の墳墓群(田中 1986 より)

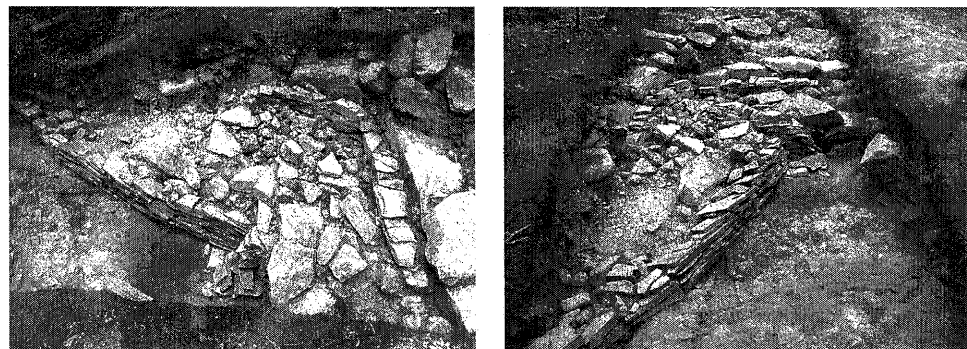


⑤八尾市久宝寺遺跡の墳墓群((財)大文セ 2005 より)

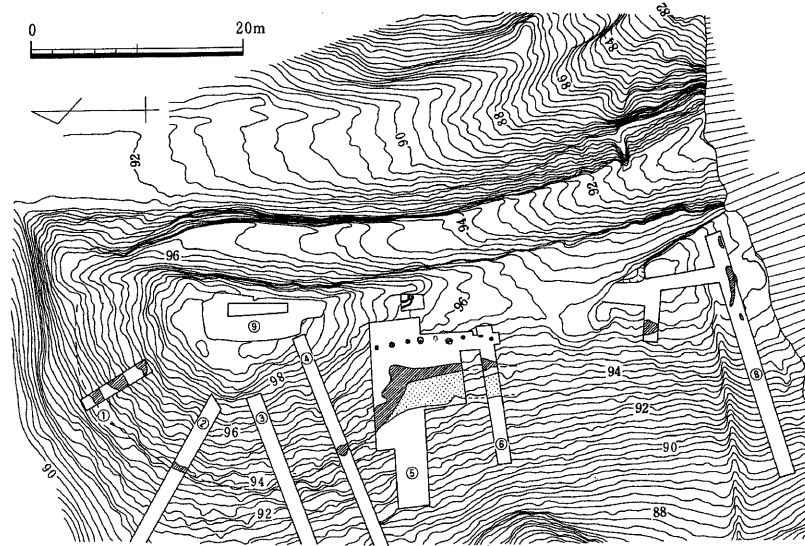
2. 玉手山古墳群と松岳山古墳群



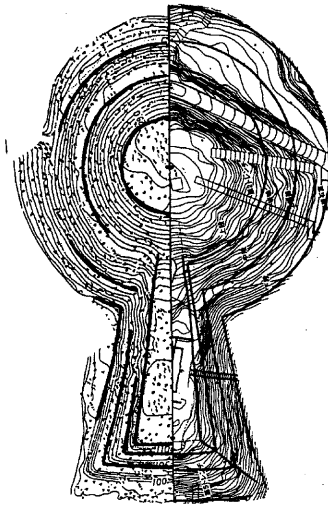
①玉手山古墳群と松岳山古墳群 (近つ飛鳥博物館 2013 より)



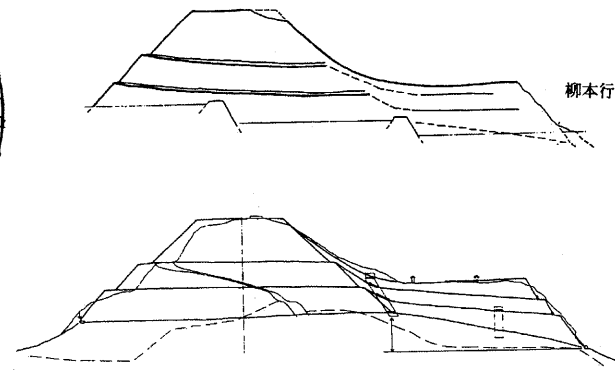
⑧香川県高松市船岡山古墳群 1号墳の葺石 (香川県教委 2012 より)



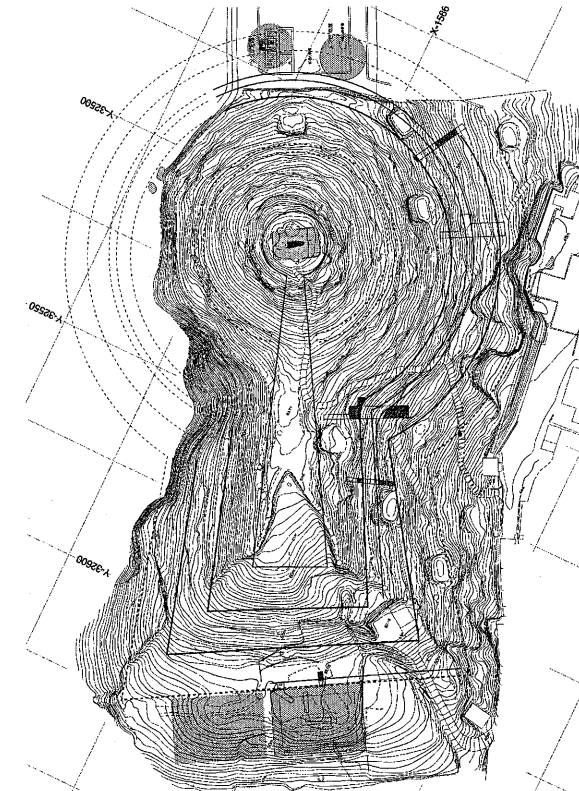
(斜線は葺石残存部、網目は礫敷きのテラス)
②玉手山9号墳 (柏原市教委 2002 より)



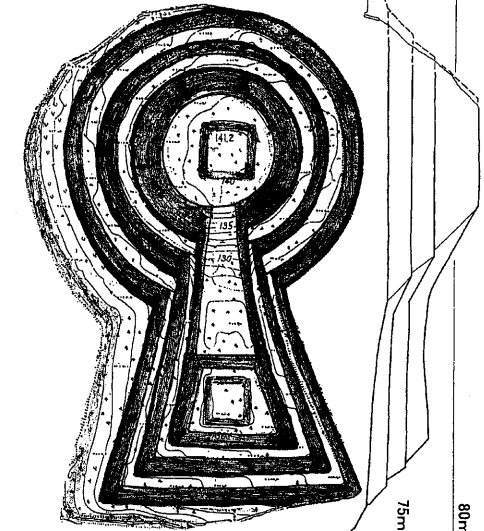
柳本行燈山 (1/3000) 玉手山7 (1/1350)



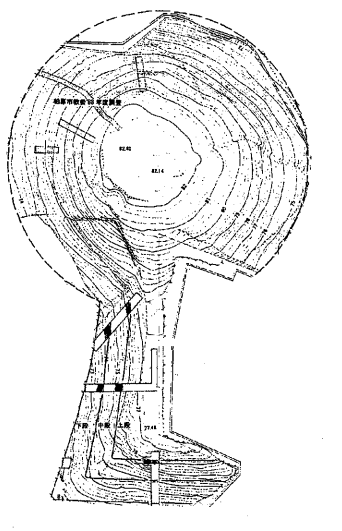
④玉手山7号墳と柳本行燈山古墳 (柏原市教委 2002 より)



⑥松岳山古墳の墳丘復元案 大阪市立大学日本史研究室 (岸本 2013 より)

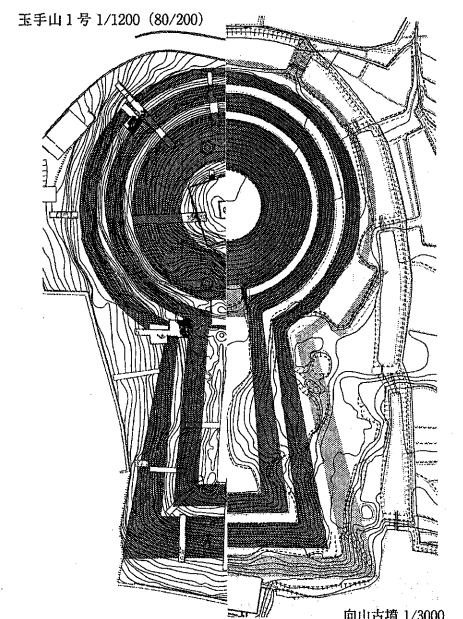


西殿塚 1/2000



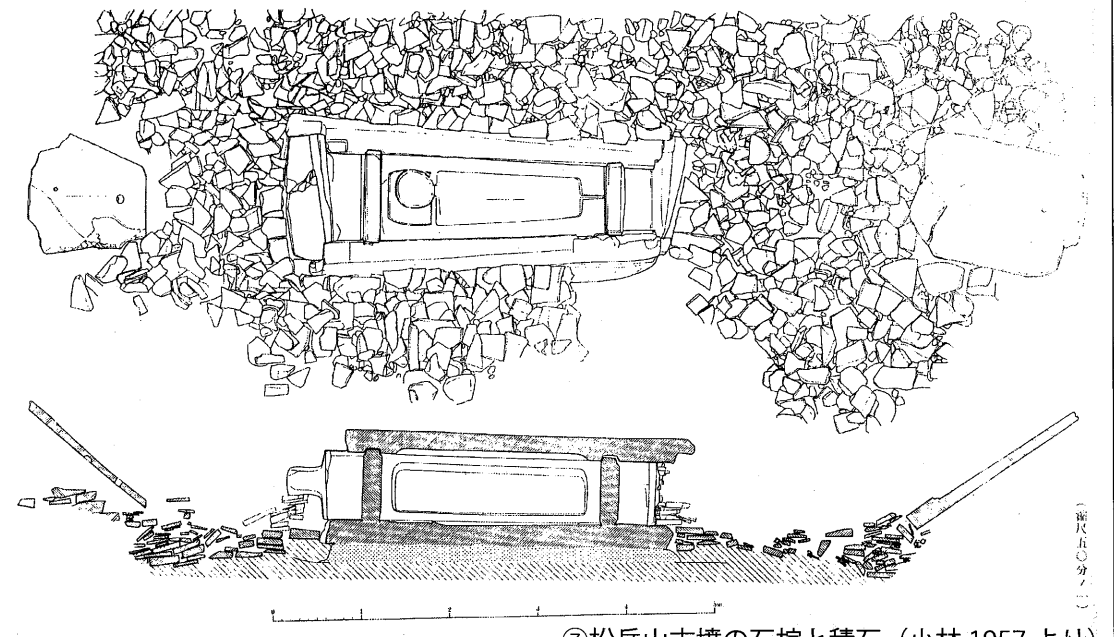
玉手山3 1/875

③玉手山3号墳と西殿塚古墳 (柏原市教委 2005 より)



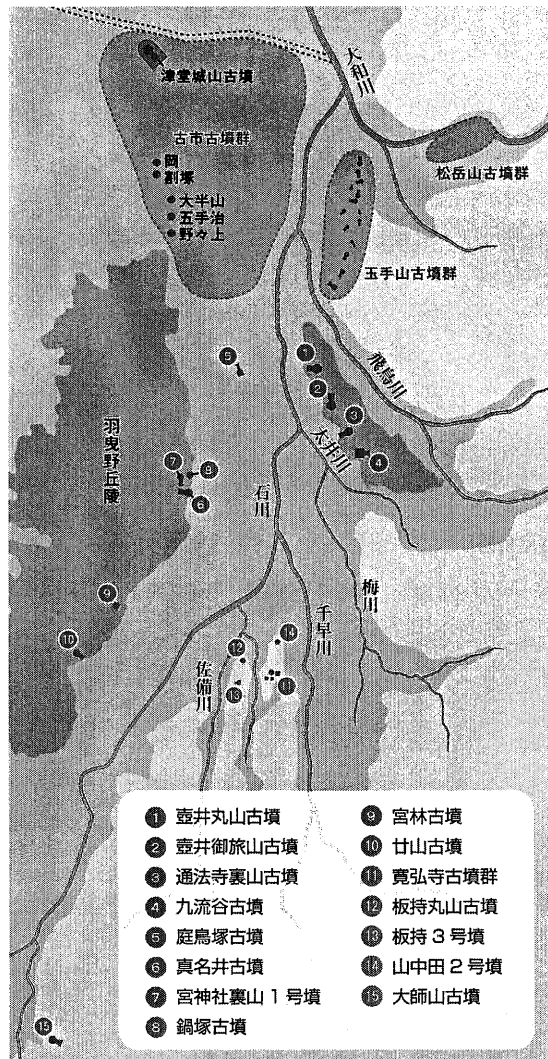
玉手山1号 1/1200 (80/200) 向山古墳 1/3000

⑤玉手山1号墳と渋谷向山古墳 (大阪市大 2010 より)



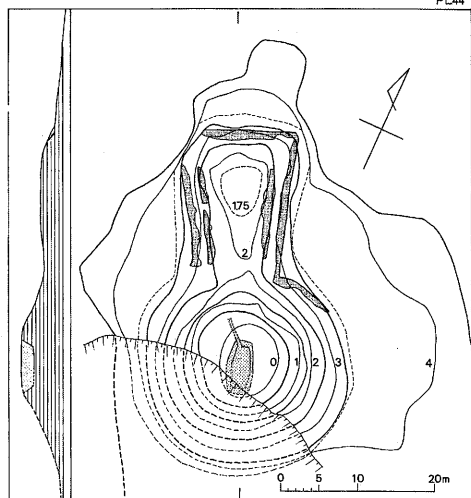
⑦松岳山古墳の石棺と積石 (小林 1957 より)

3. 石川流域の古墳

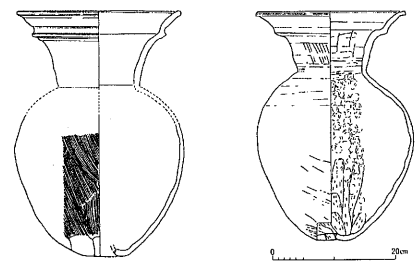


- ① 壺井丸山古墳
- ② 壺井御旅山古墳
- ③ 通法寺裏山古墳
- ④ 九流谷古墳
- ⑤ 庭鳥塚古墳
- ⑥ 真名井古墳
- ⑦ 宮神社裏山1号墳
- ⑧ 鍋塚古墳
- ⑨ 宮林古墳
- ⑩ 甘山古墳
- ⑪ 寛弘寺古墳群
- ⑫ 板持丸山古墳
- ⑬ 板持3号墳
- ⑭ 山中田2号墳
- ⑮ 大師山古墳

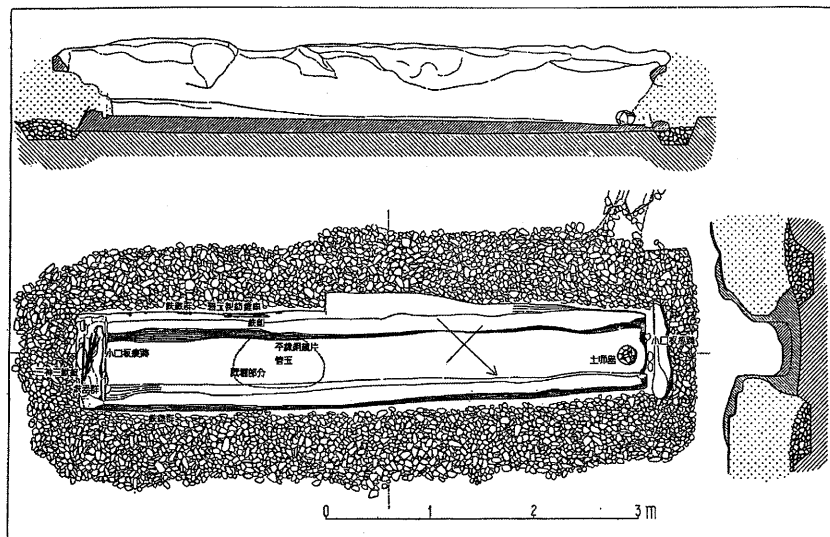
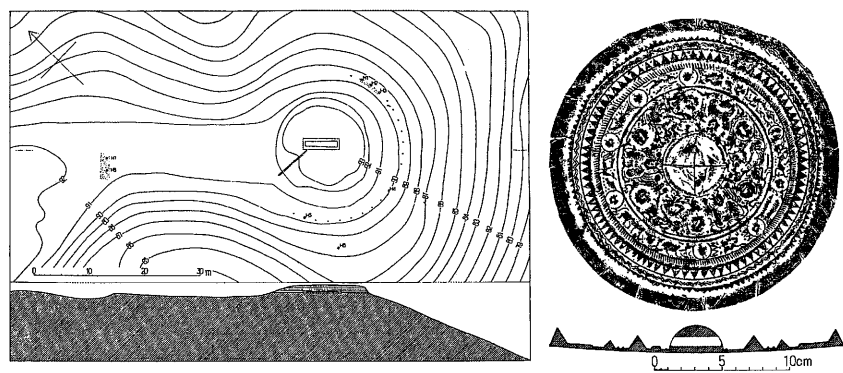
①石川流域における前期古墳の分布 (近つ飛鳥博物館 2013 より)



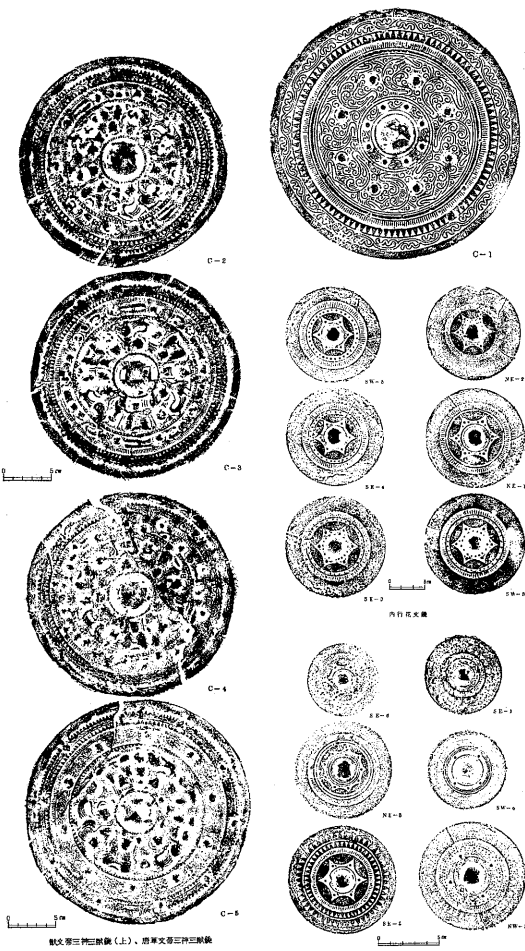
③壺井御旅山古墳墳丘図 (府教委 1970 より)



⑤壺井御旅山古墳出土土壺形埴輪 (高橋 2002 より)

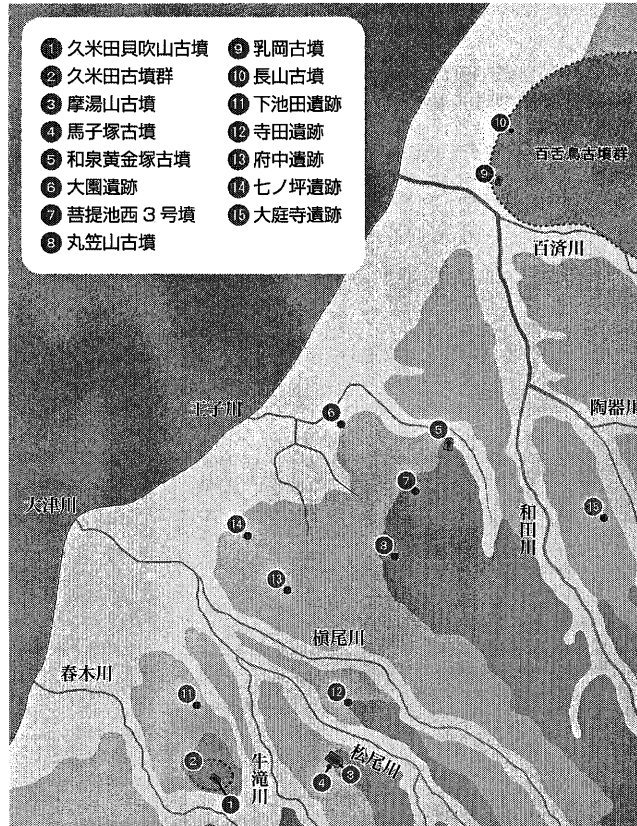


②富田林市真名井古墳 (富田林市史 1985 より)

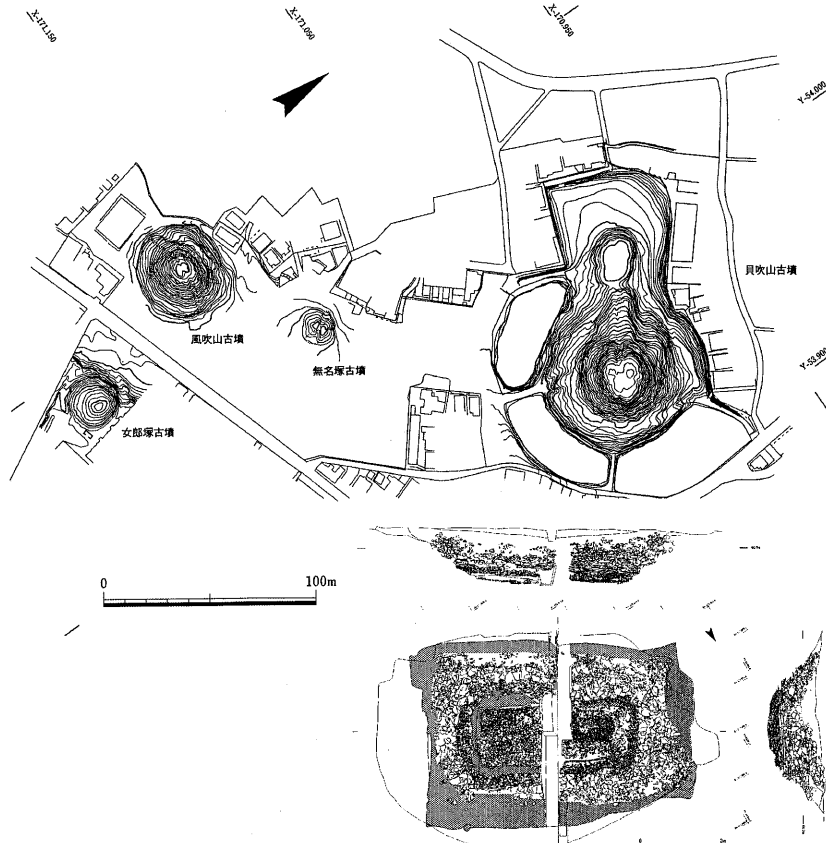


④壺井御旅山古墳出土銅鏡 縮尺不同 (府教委 1968 より)

4. 和泉北部の古墳



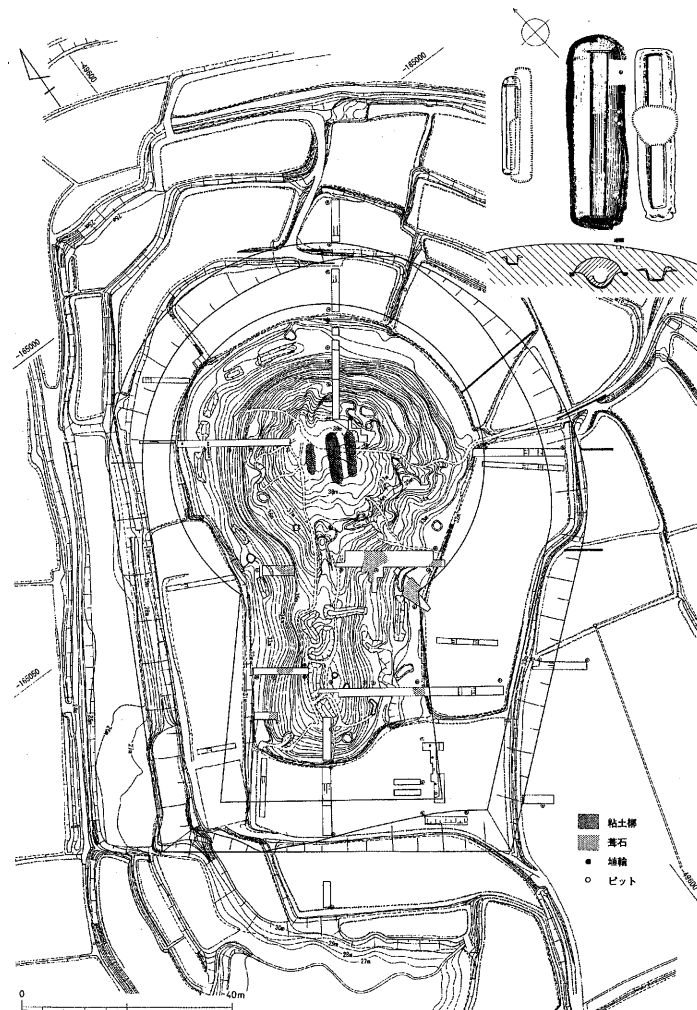
⑥和泉北部の前期古墳の分布 (近つ飛鳥博物館 2013 より)



⑦岸和田市久米田貝吹山古墳 (岸和田市教委 2013 より)

年代	摂津	和泉	河内
前期	弁天山A1 弁天山B1 紫金山 將軍山 三島古墳群	摩湯山 百舌鳥古墳群 大塚山 御廟山 大田茶臼山 淡輪 ニサンザイ	玉手山3 玉手山7 玉手山1 松岳山 津堂城山 古室山 宮山 山崎山 心寺山 前山 河内天塚 太子西山
中期		上石津 ミサンザイ 土師 ニサンザイ	森1 禁野車塚 忍岡 津堂城山 牧野車塚 仲津山 山崎山 市山 前の山
後期	今城塚		岡ミサンザイ ボケ山 白髪山 高屋城山

⑩畿内における大型古墳の編年 (白石 2013 より)



⑧和泉市和泉黄金塚古墳 (和泉市教委 2005 より)

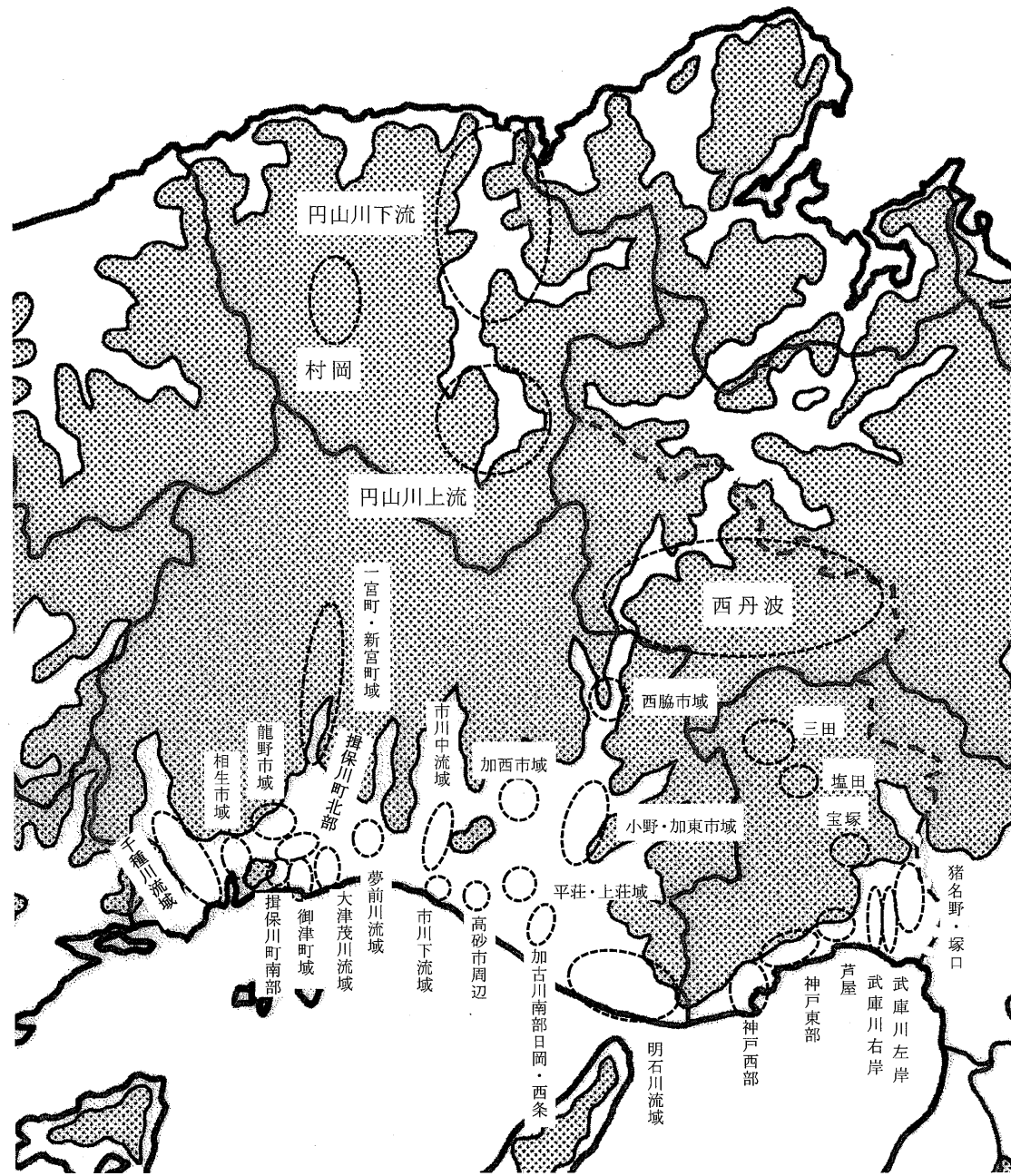


⑨堺市乳岡古墳 (白神 1997 より)

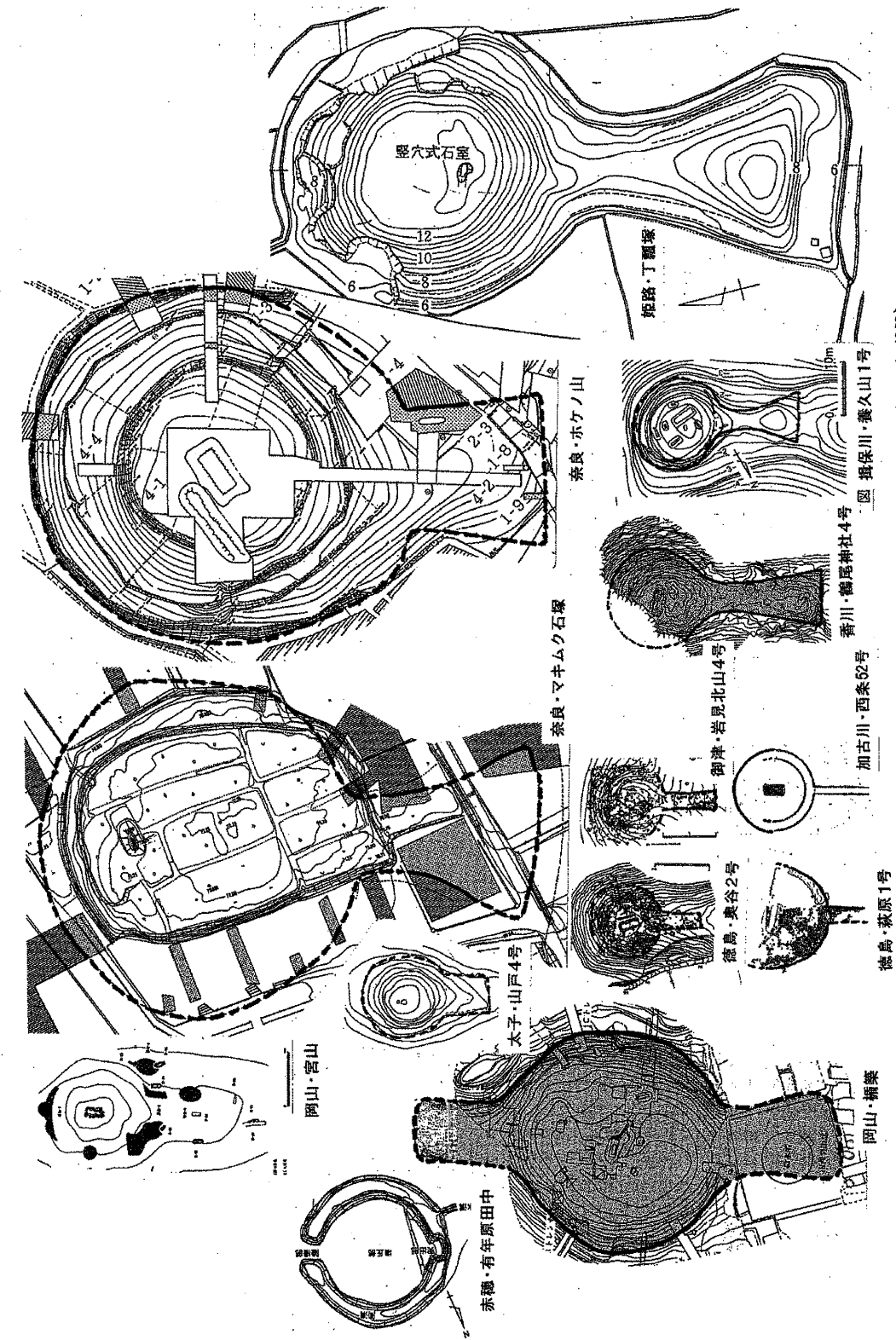
兵庫県内の首長墓の動態

(公財) 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

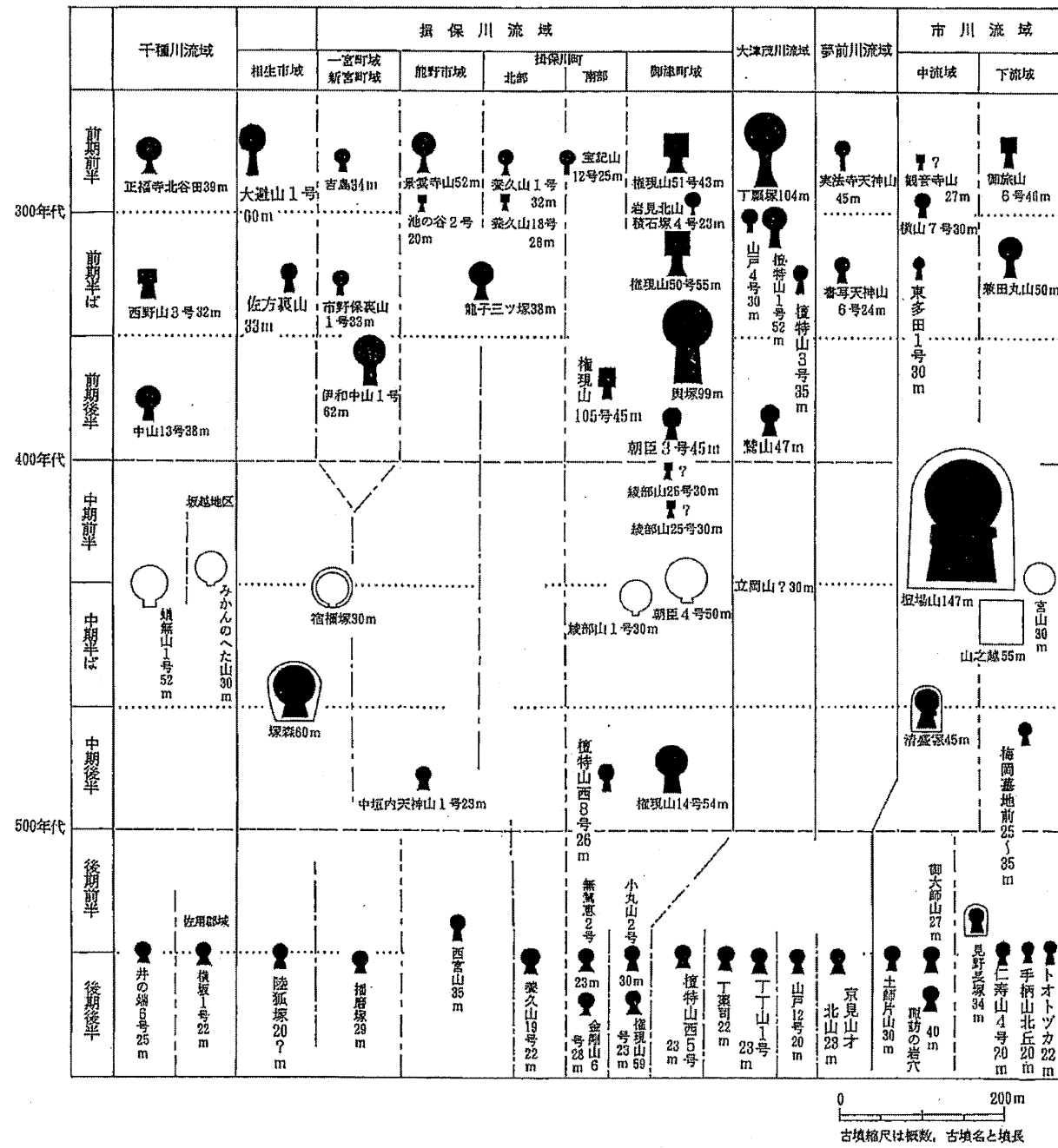
岸本一宏



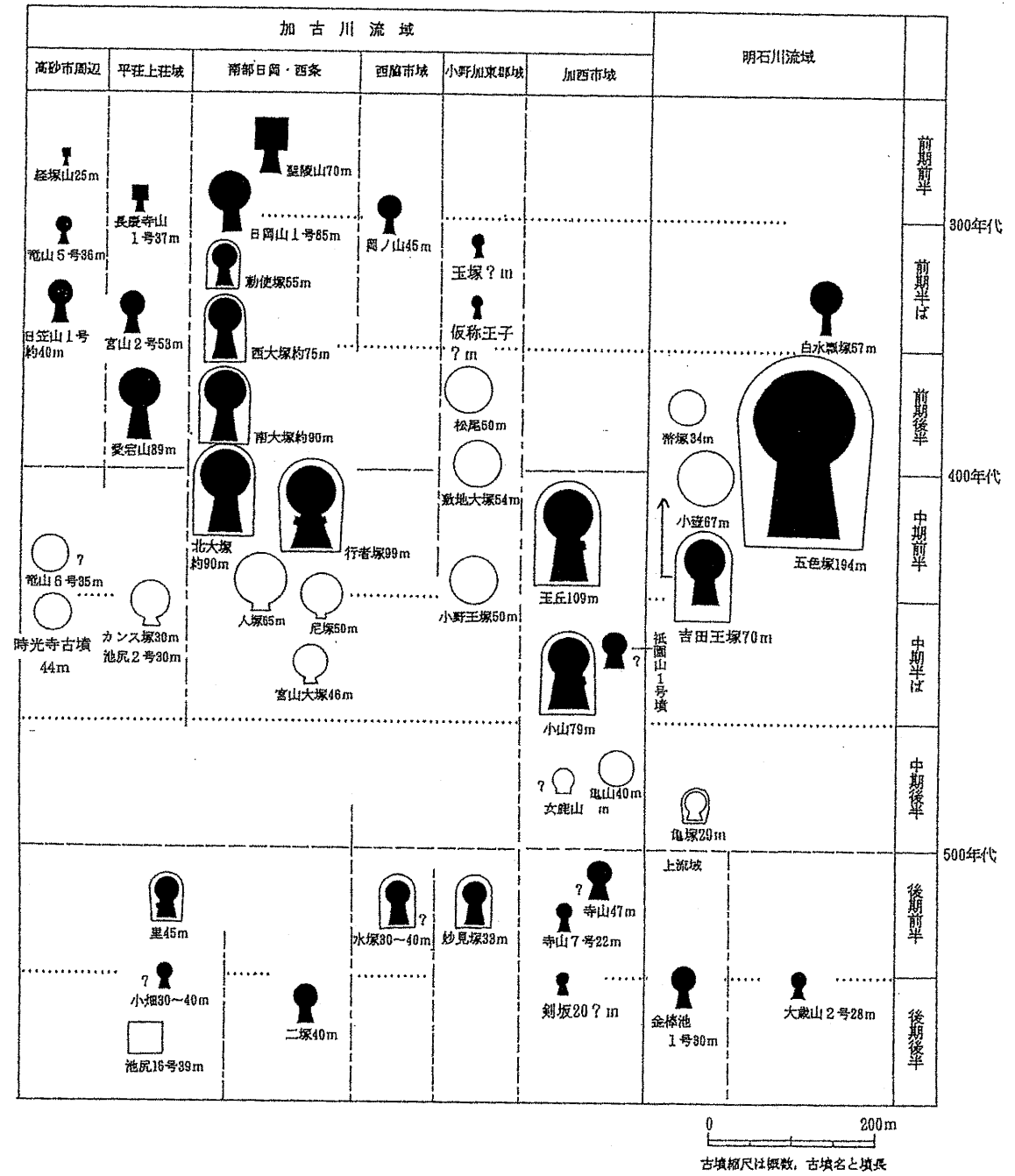
第1図 兵庫県内の主要古墳分布域



第2図 前方後円形墓の諸類型 (縮尺はすべて1:1000)



第1表 西播磨地域の主要古墳編年表

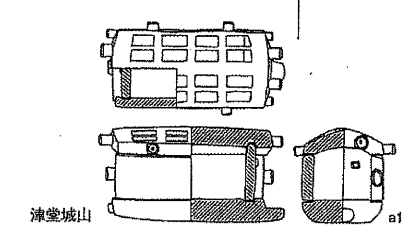
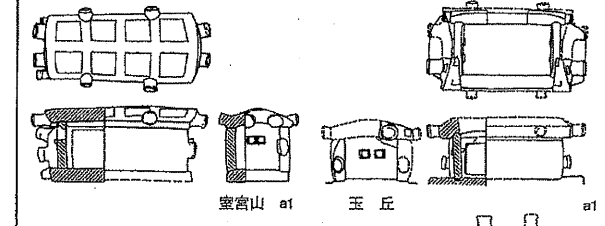
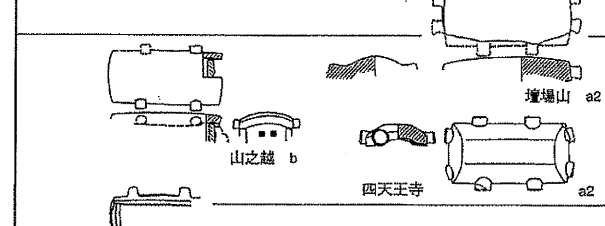
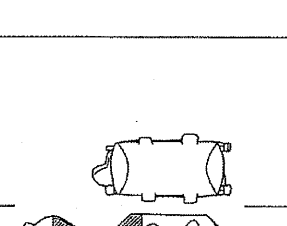
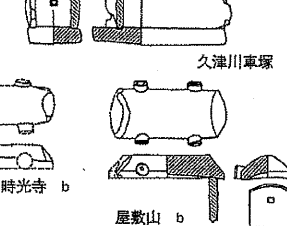
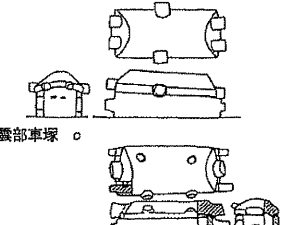


第2表 東播磨地域の主要古墳編年表

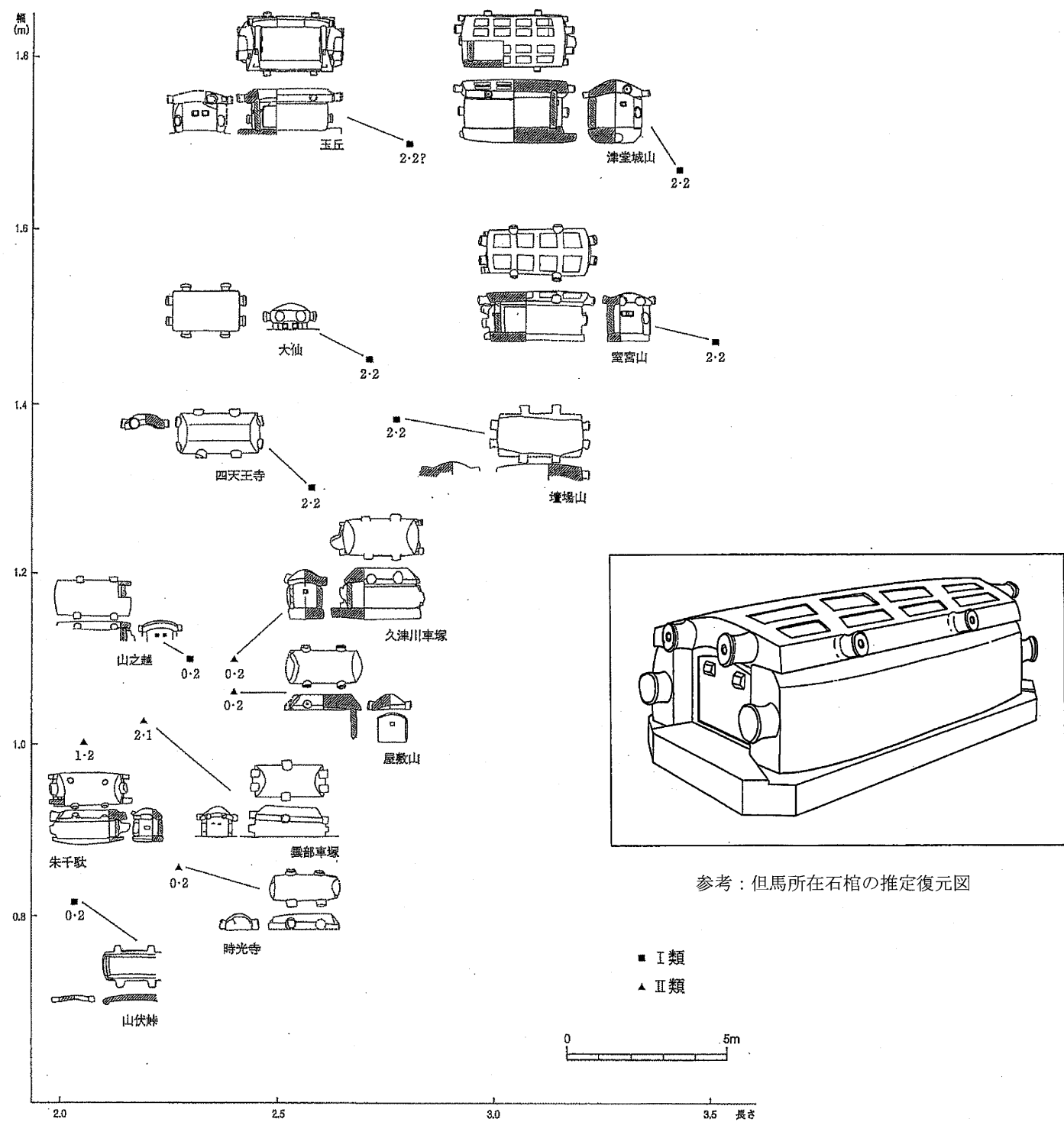
(岸本道昭 2012「播磨地方主要古墳編年表 (ver. 2012)」『大型古墳からみた播磨』第12回播磨考古学研究会の記録より)

集成編年	西 撰 津								西 丹 波	但 馬				
	六 甲 山 南 麓			六 甲 山 北 麓		西 撰 平 野			長 尾 山 系	西 丹 波	円 山 川 上 流	円 山 川 下 流	村 岡	
	神戸西部	神戸東部	芦屋	塩田	三田	武庫川右岸	武庫川左岸	猪名野・塚口	宝塚					
前 期	1											若水 41m		
	2		西求女塚 98m	阿保親王塚 36m	塩田北山東 35m				長尾山 40m				森屋 ?m	
	3	夢野丸山 60m	へボシ塚 64m 処女塚 70m						万籬山 54m	丸山 1号 48m	坡の山 36m		小見塚 ?m	
	4	会下山二本松 55m	東求女塚 80m					上馬塚 70m?		親王塚 30m 北条 30m	西山 1号 45m			
中 期	5						水堂 60m	池田山 71m				ホーキ 56m 舟越 1号 50m 入佐山 1号 45m	庵ノ谷 2号 60m?	
	6							伊居太 92m			池田 135m	茶子山 90m		
	7			金津山 55m			御願塚 52m 御園 60m	柏木 55m			船宮 91m 長塚 70m	岡田 2号 26m 青塚 35m	茶臼山 49m	
	8		打出小樋 75m			津門稲荷山 40m		南清水 46m以上		雲部車塚 140m 新宮 53m	大滝 2号 28m	小丸山 59m		
後 期	9	住吉東 24m				西山 6号 35m	津門大塚 42m	大井戸 45m	園田大塚山 44m		峠尻 2号 28m 稲荷山 22m	芝ヶ端 24m 加都車塚 20m		高井 60m
	10				北神第3地点 36m	宮脇 12号 29m	上ヶ原車塚 ?m		勝福寺 41m	イゴリ塚 24m 小丸山 1号 17m	洞中 2号 27m		見手山 35m	長者ヶ平 1号 30m

第3表 西撰津・西丹波・但馬地域の主要古墳編年表

I 類	II 類	
 <p>津堂城山</p>		第2段階
 <p>室宮山 a1 玉丘 a1</p>		第3段階
 <p>山之越 b 四天王寺 a2 山伏峠 b</p>	 <p>壇場山 a2</p>	第4段階
	 <p>久津川車塚 b 時光寺 b 屋敷山 b</p>	第5段階
	 <p>雲部車塚 c 朱千駄 d</p>	第6段階

第4表 竜山石製長持形石棺の分類と変遷

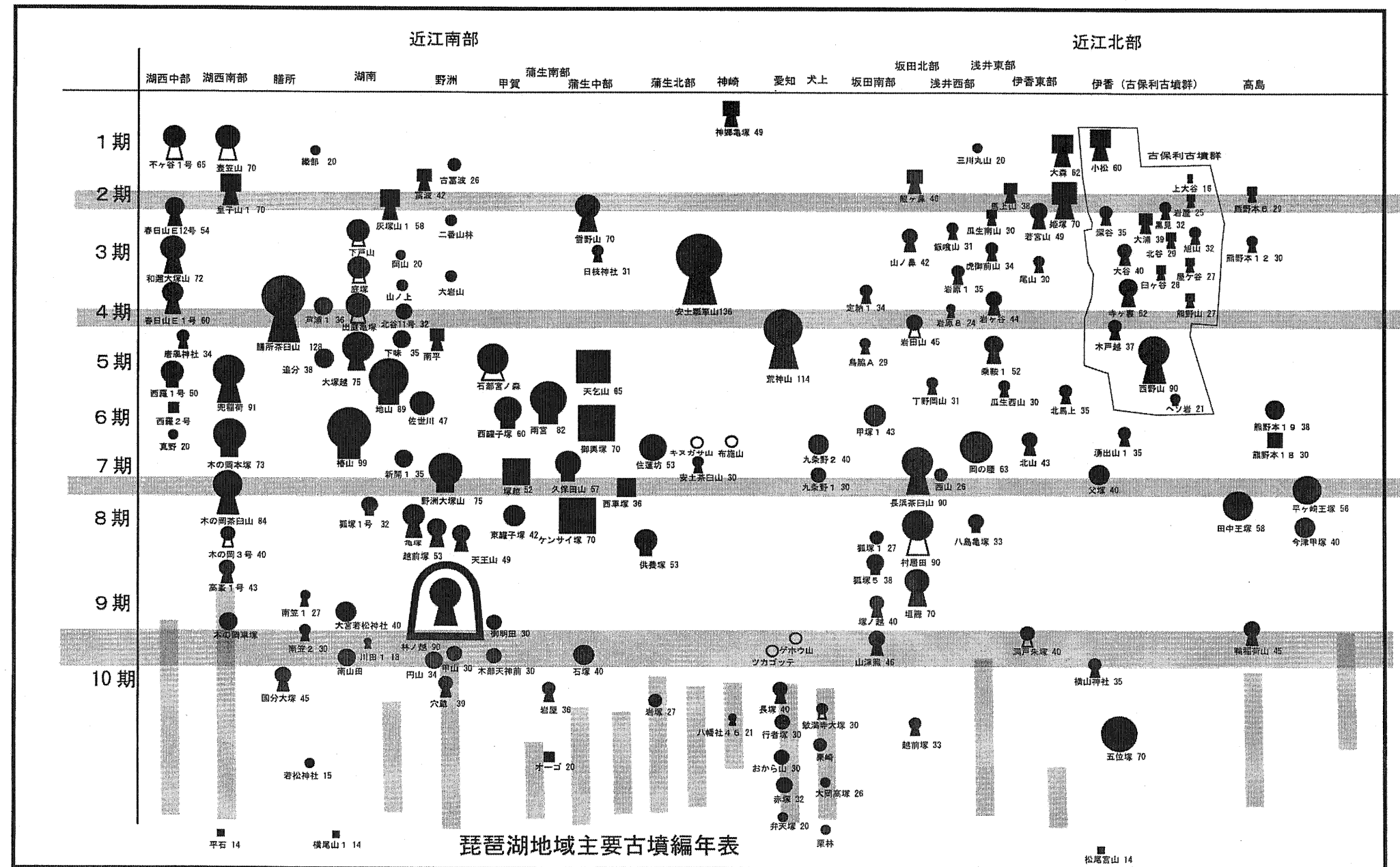
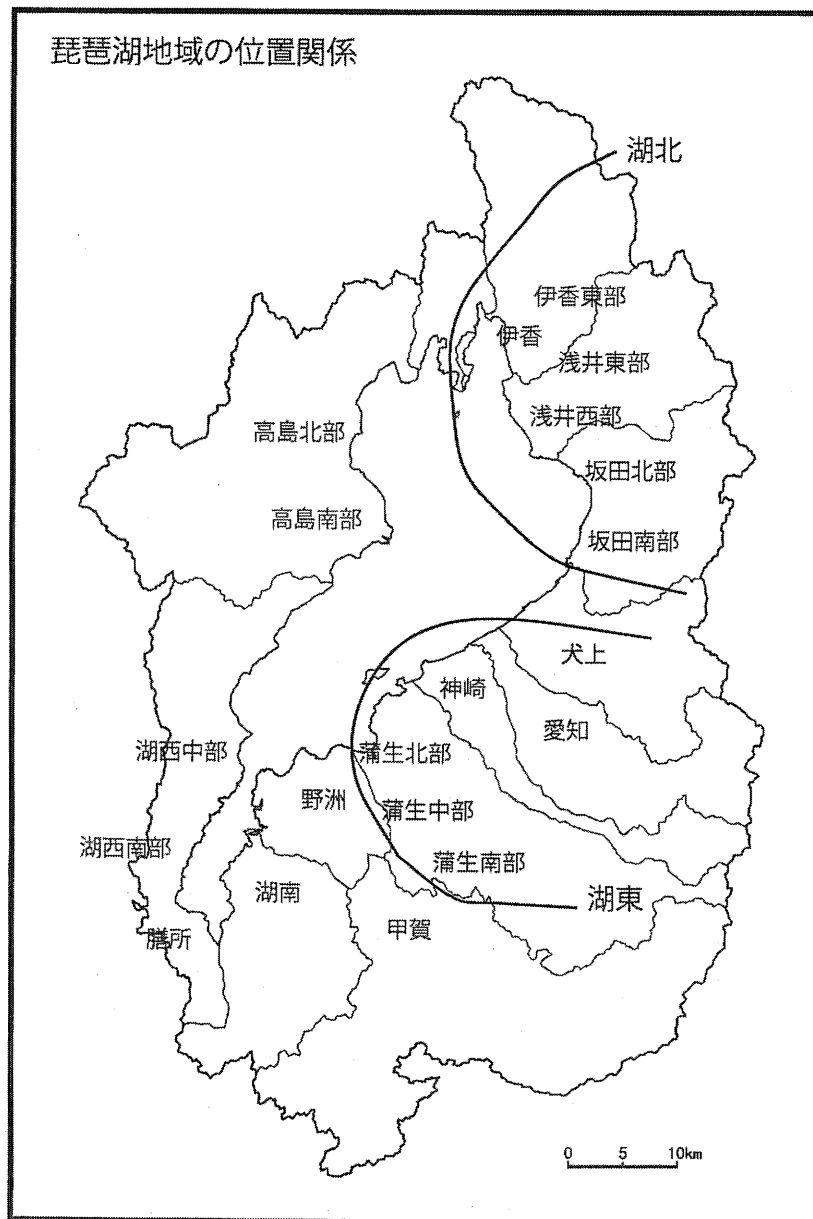
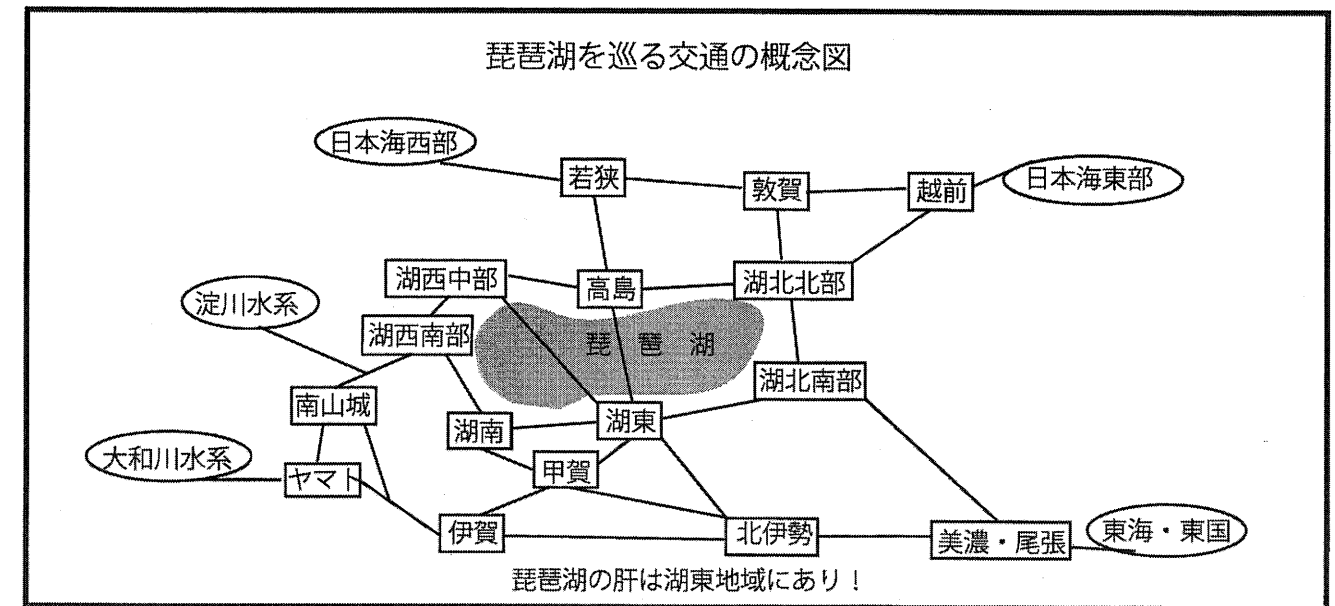


第5表 竜山石製長持形石棺の蓋石規模比較

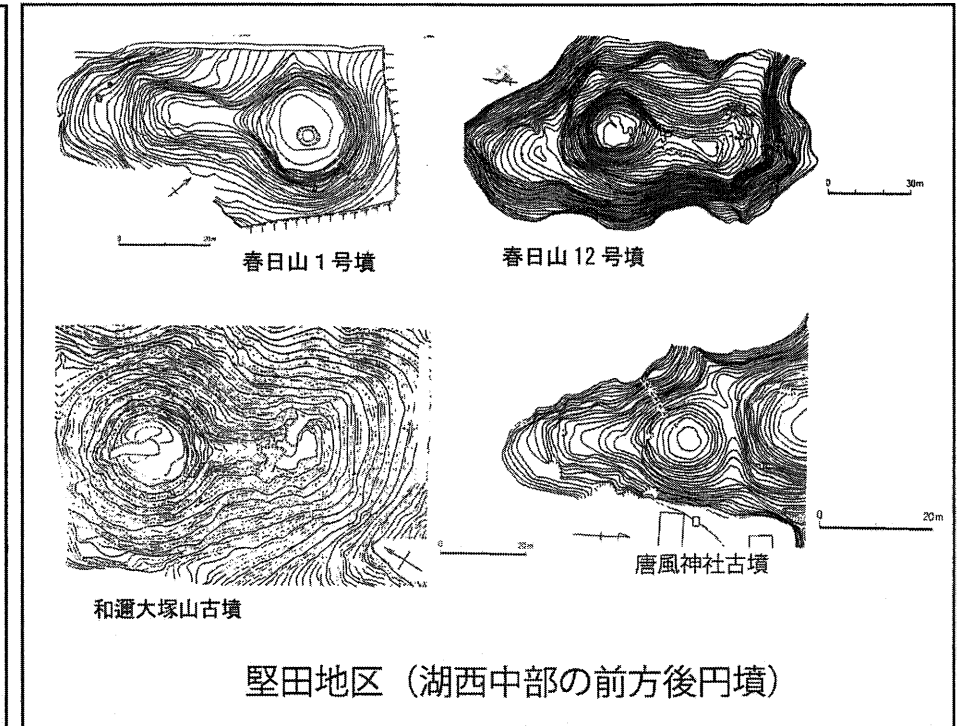
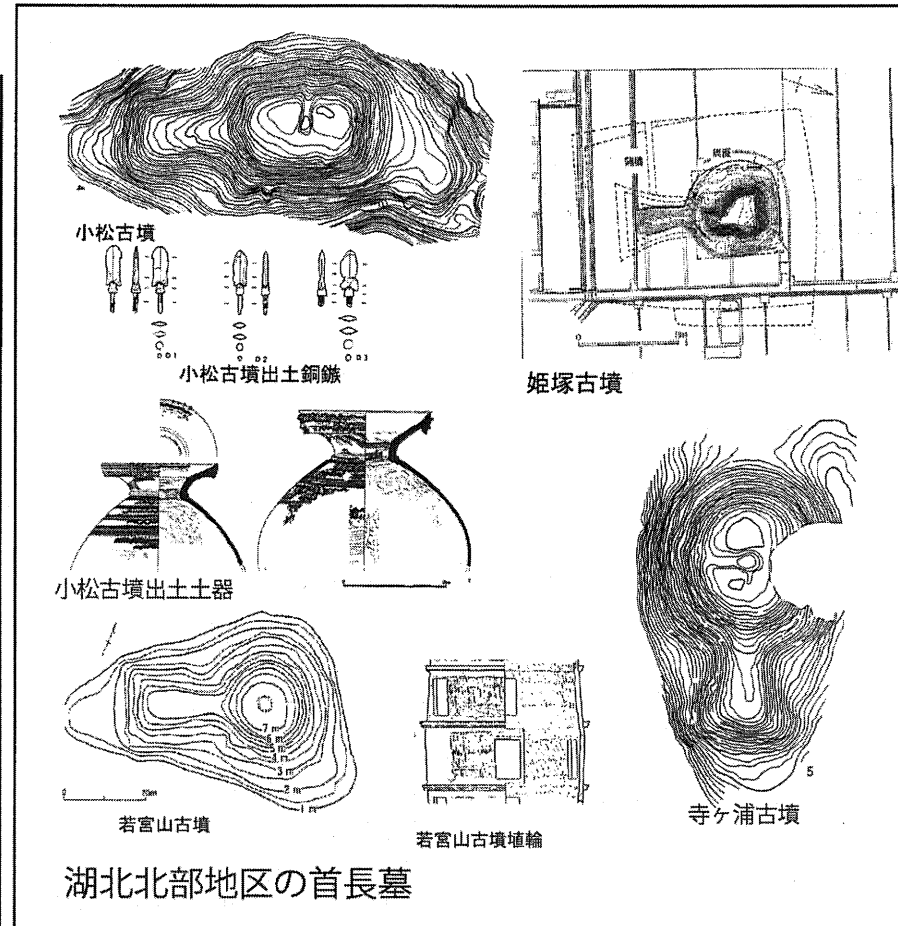
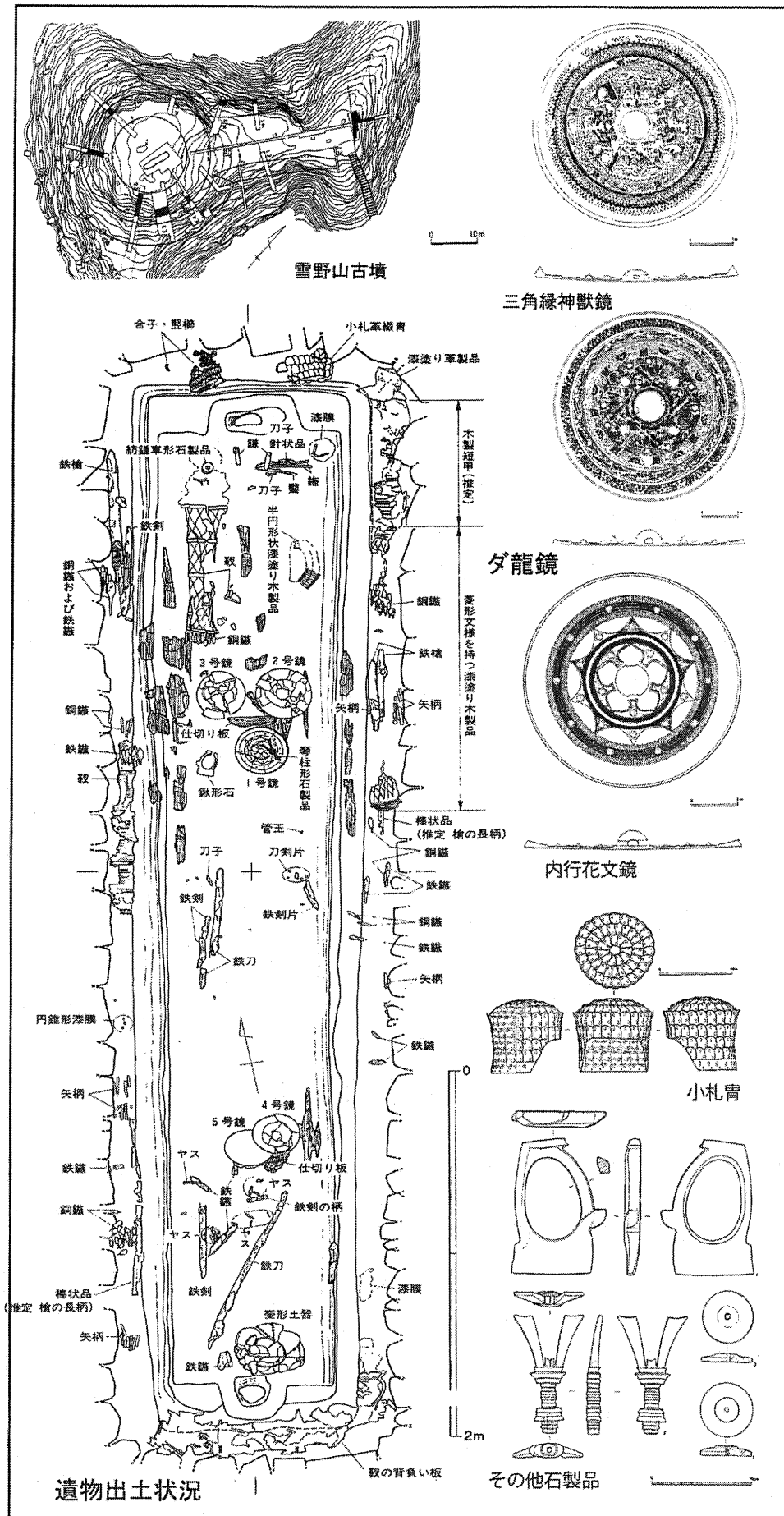
琵琶湖周辺における首長墓系列の画期

公益財団法人 滋賀県文化財保護協会 細川修平

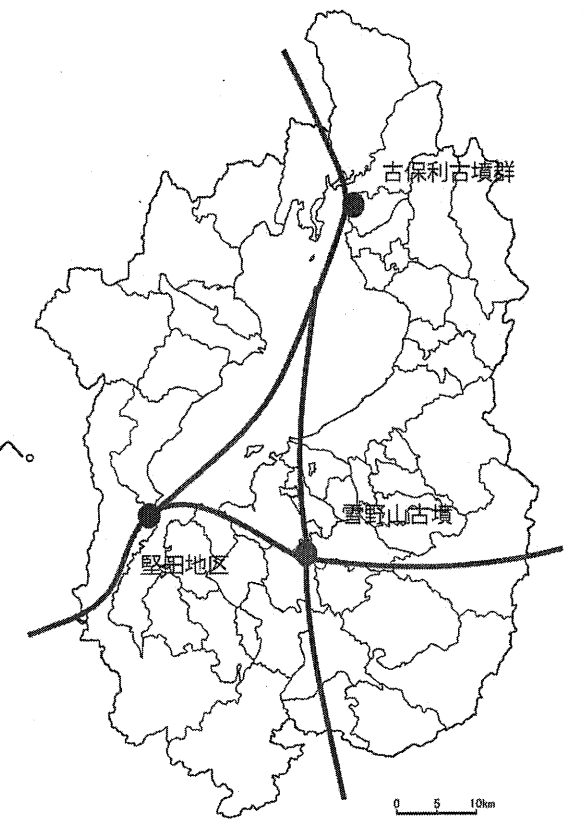
1. 琵琶湖地域とは
2. 第1の画期：前方後円墳の導入・・・・・・・・前方後方墳から前方後円墳へ
3. 第2の画期：琵琶湖3大古墳の時代・・・・・・・・前方後円墳の湖東シフト
4. 第3の画期：中期古墳の展開と地域社会・・・・・・・・乱立する首長墓系列と統合への道筋
5. 第4の画期：前方後円墳の終焉と群集墳・・・・・・・・地域首長の成立と集団編成
6. まとめ



第1の画期・・・雪野山古墳の築造（古墳2期）



第1の画期の古墳



第1の画期の意義

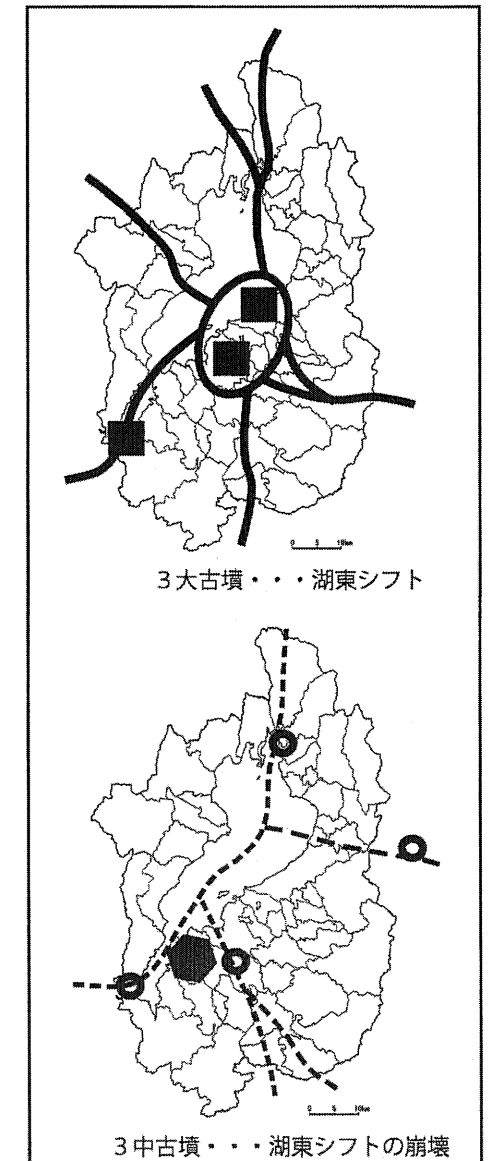
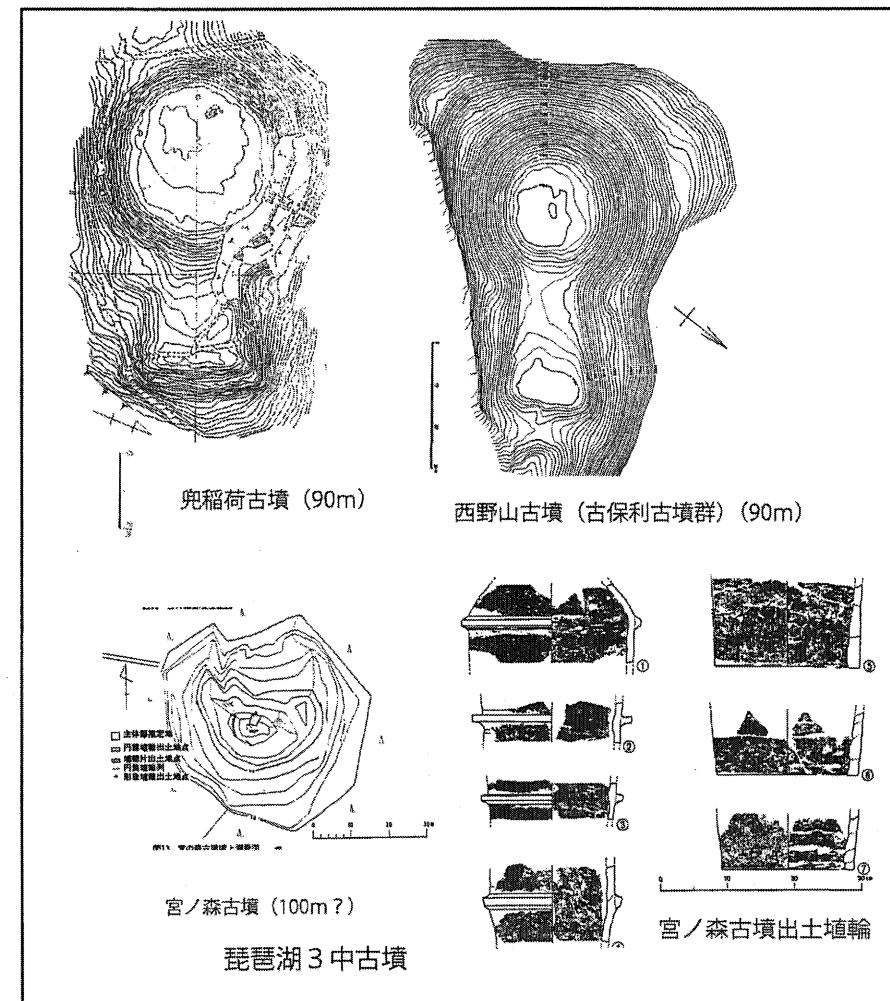
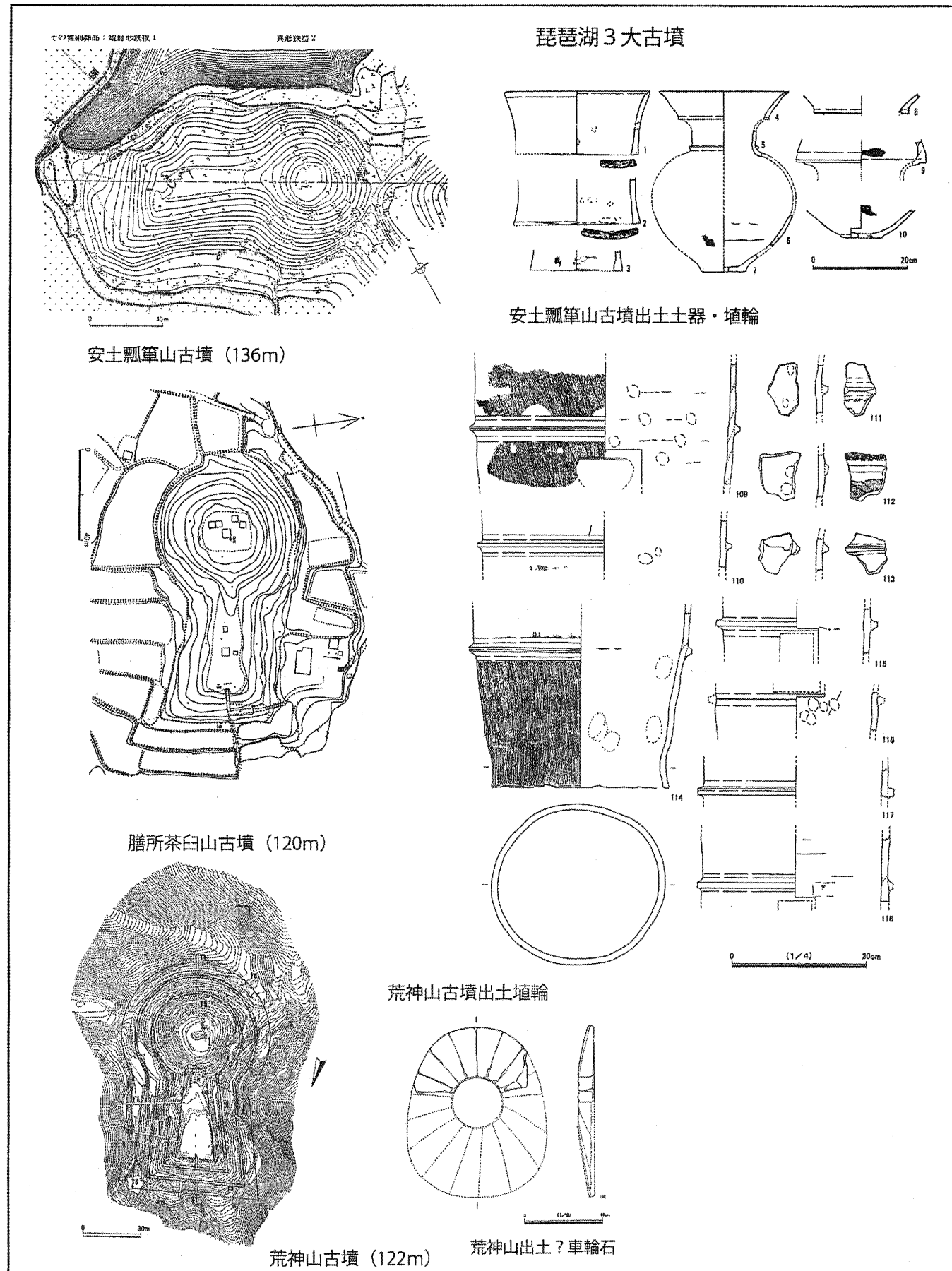
それ以前は、それぞれの地域で、前方後円墳や円墳など在地色が強い古墳を築造していたが、雪野山古墳の築造を契機に、琵琶湖周辺地域で前方後円墳の築造が本格化する。

- ・ 堅田地区：安定した前期前方後円墳の系列を形成（道風神社古墳を含めて4代）。琵琶湖の狭隘部を掌握。湖上交通の重視。湖西南部（壺笠山・皇子山）からの墓域の移動も視野に入れるべき。
- ・ 湖北北部：小松古墳や姫塚古墳などの在地的前方後円墳の系列から本格的な前方後円墳の系列へ。その他、30～50m級の首長墓系列の乱立傾向。地域の再編成が急激に進行か。
- ・ 湖南地区：そろそろ前方後方形周溝墓の造営を停止するが、前方後円墳は採用しない。弥生時代からのギャップが大きい。前方後円墳が成立するとともに、円墳が主体的（独自色の発揮？）ただし、周辺地区に三角縁神獸鏡は目立つ。

つまり、

- ・ 東国および北陸への交通路を軸として、前方後円墳が波及。その交通路に近い首長層が重視。これを契機に地域再編成が進む。
- ・ 雪野山古墳は桜井茶臼山古墳や東之宮古墳と連動した、東国への拠点として位置づけられる。

第2の画期・・・琵琶湖3大古墳の築造（古墳4期）



琵琶湖3大古墳の築造・・・湖東を中心とした琵琶湖交通路の整備・掌握

- ・丹後3大古墳・五色塚古墳等と同時期・・・畿内を中心とする交通路整備の一環
- ・雪野山古墳から続く、前方後円墳の湖東シフト体制の完成・・・湖東を中心とした交通路
- ・琵琶湖を全面に押し出した古墳・・・湖上交通の掌握に特化

(特定職能に特化した首長層が、地域を越えた広域に影響力を発揮)

- ・ここに、琵琶湖周辺地域における前期古墳の完成形を見ることができる。

琵琶湖3大古墳以降・・・「3中?古墳」体制?

- ・西野山古墳 (湖北の要衝)・兜稲荷古墳 (湖西南部)・宮ノ森古墳 (甲賀ルート) の築造
- ・昼飯大塚古墳 (大垣市)、御墓山古墳 (伊賀市) などと連動?
- ・地域首長層が自らの地域の重要性に対応して古墳造営
- ・湖東シフトの崩壊と湖南地域における本格的な首長墓系列の形成 (安養寺大塚越古墳)

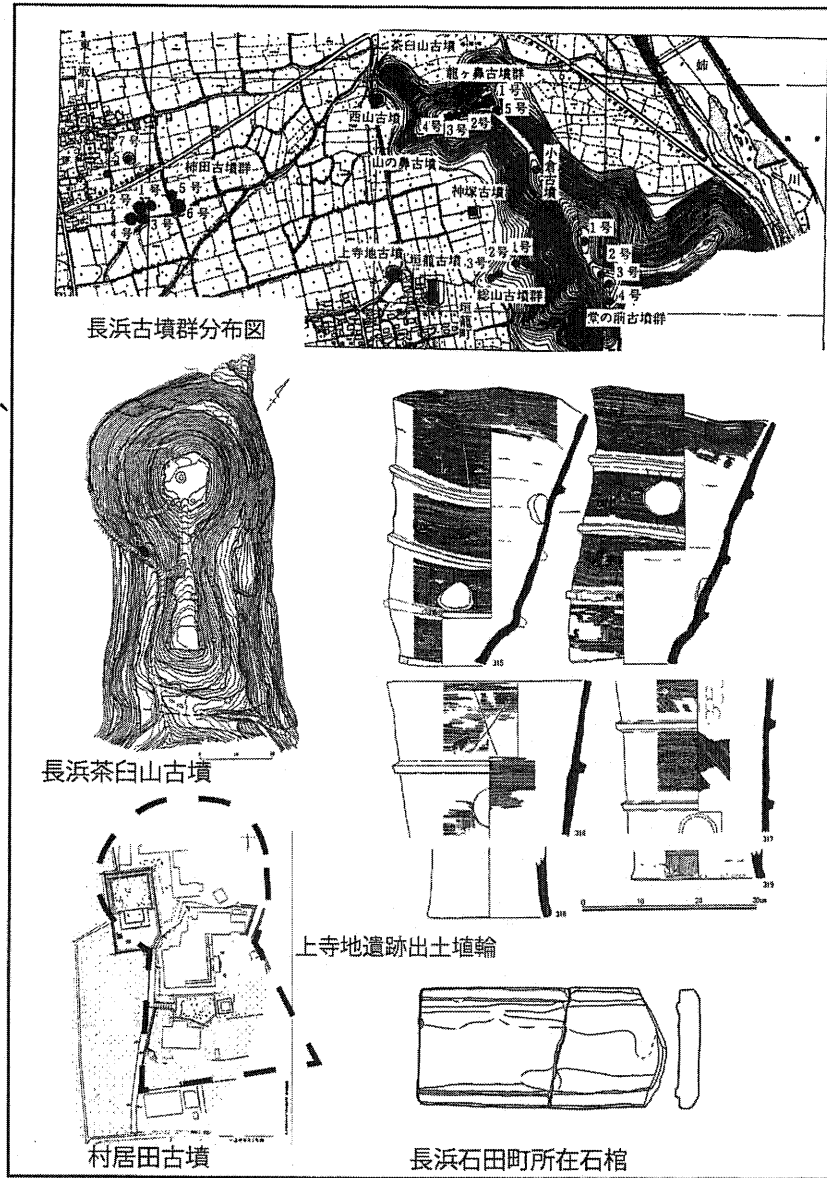
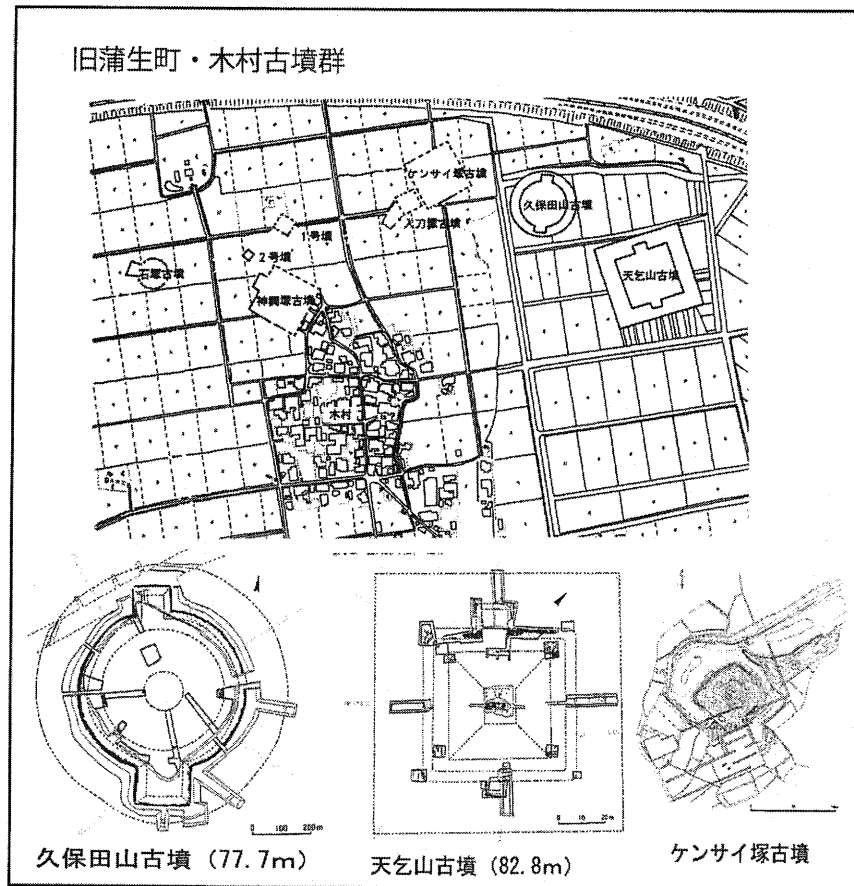
これらは、短期間に大きな変化をもたらした。

5世紀・・・屹立する首長層

地域・小地域ごとに個性的な古墳群・首長墓系列が形成される。それらの一部は、ヤマト王権と強い関係を結び、例えば墳形、埴輪、副葬品で優れた内容を見せる。しかし、その関係は一代限りで、継続するものではなかった。

また、小地域の首長添層は、地域の中で競合しつつも、一定の機能分化など競合を謀っていた可能性も考えられる。

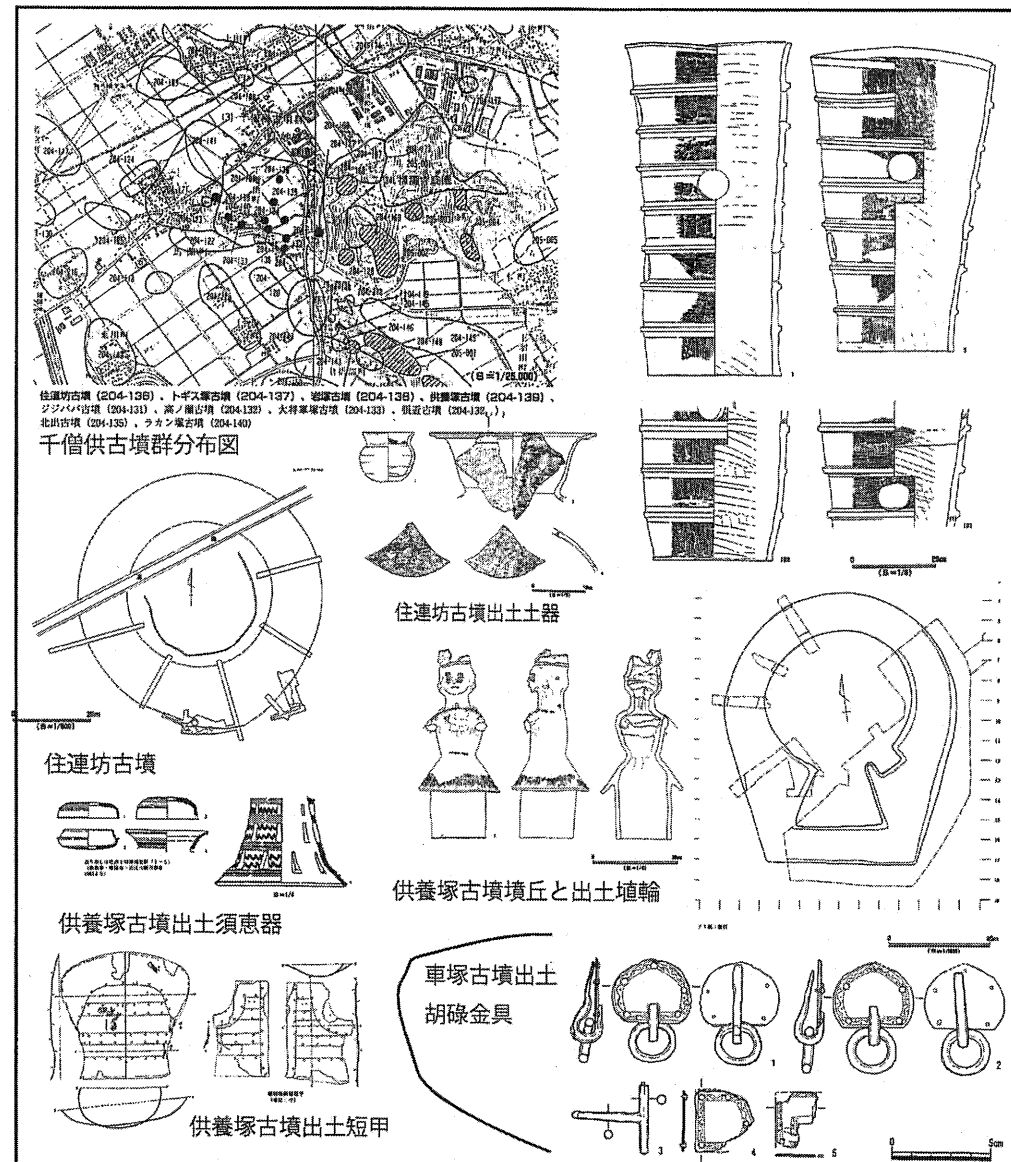
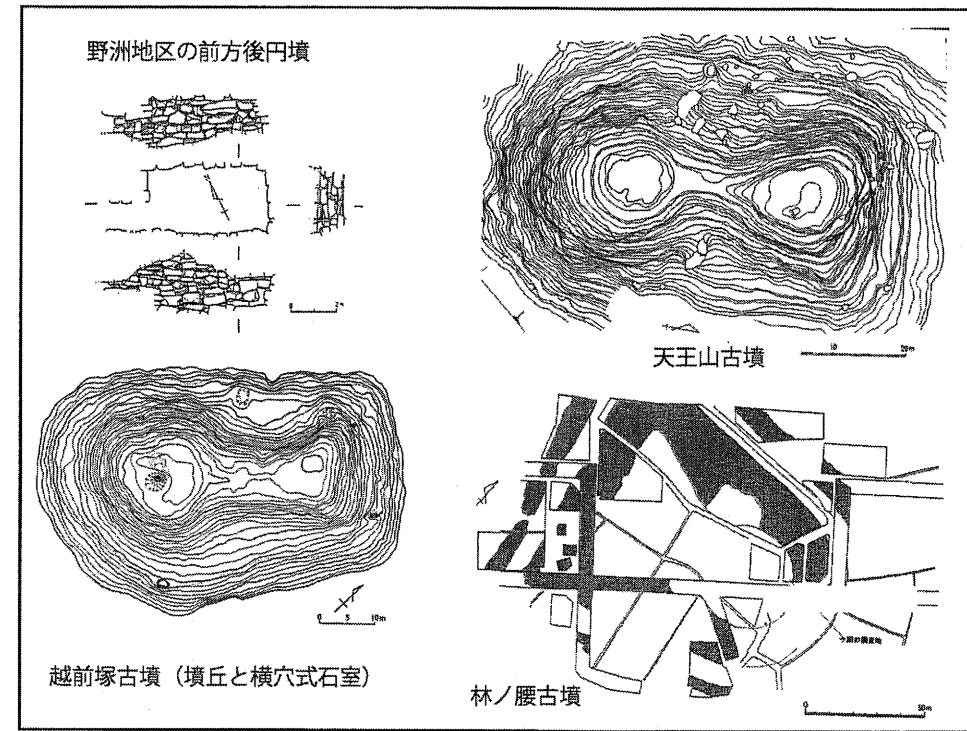
そうした中、次第に地域統合が進行し、南の野洲（大岩山古墳群）、北の長浜古墳群の2大勢力に統合されるようである。



長浜古墳群では、石田の長持形石棺（竜山石・出土古墳不詳）以降、ヤマト王権との強い関係を形成し、特に5世紀中頃以降、安定した埴輪生産を実現する。埴輪は、首長墓系列の茶白山古墳・村居田古墳のほか、西山古墳などの中小古墳にも使用され、付近の柿田古墳群（古式小古墳群）を含め、支配者集団の形成を見せる。また、こうした長浜古墳群の変化に歩調を合わせるように、湖北地域の中小前方後円墳の系列が停止するなど、首長墓造営が下火になる。

ただし、6世紀前半の垣籠古墳では、埴輪の様相が変化するように、息長古墳群の形成開始と合わせて、大きな画期を迎える。

細川・資料・・・4



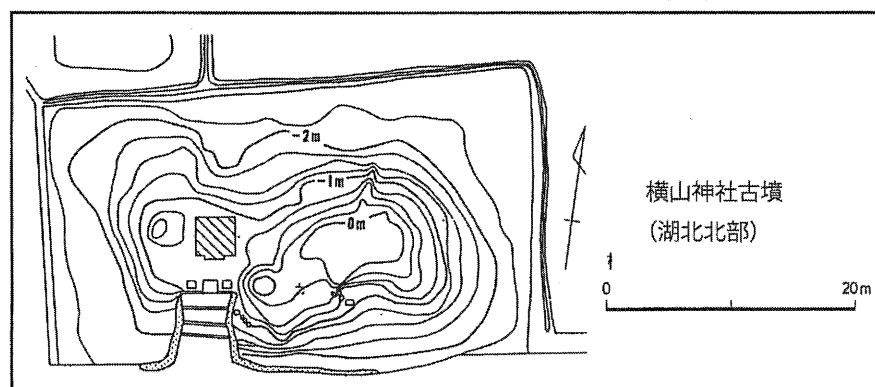
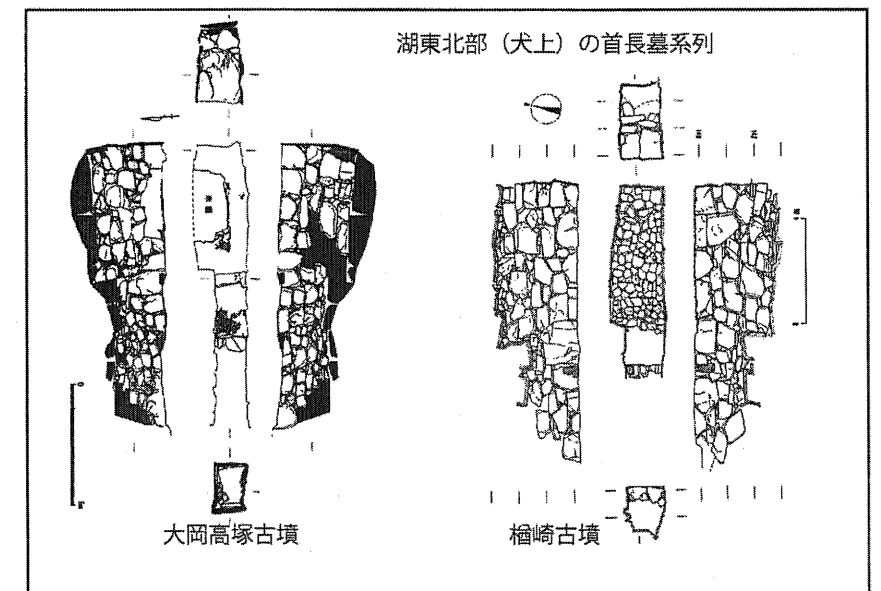
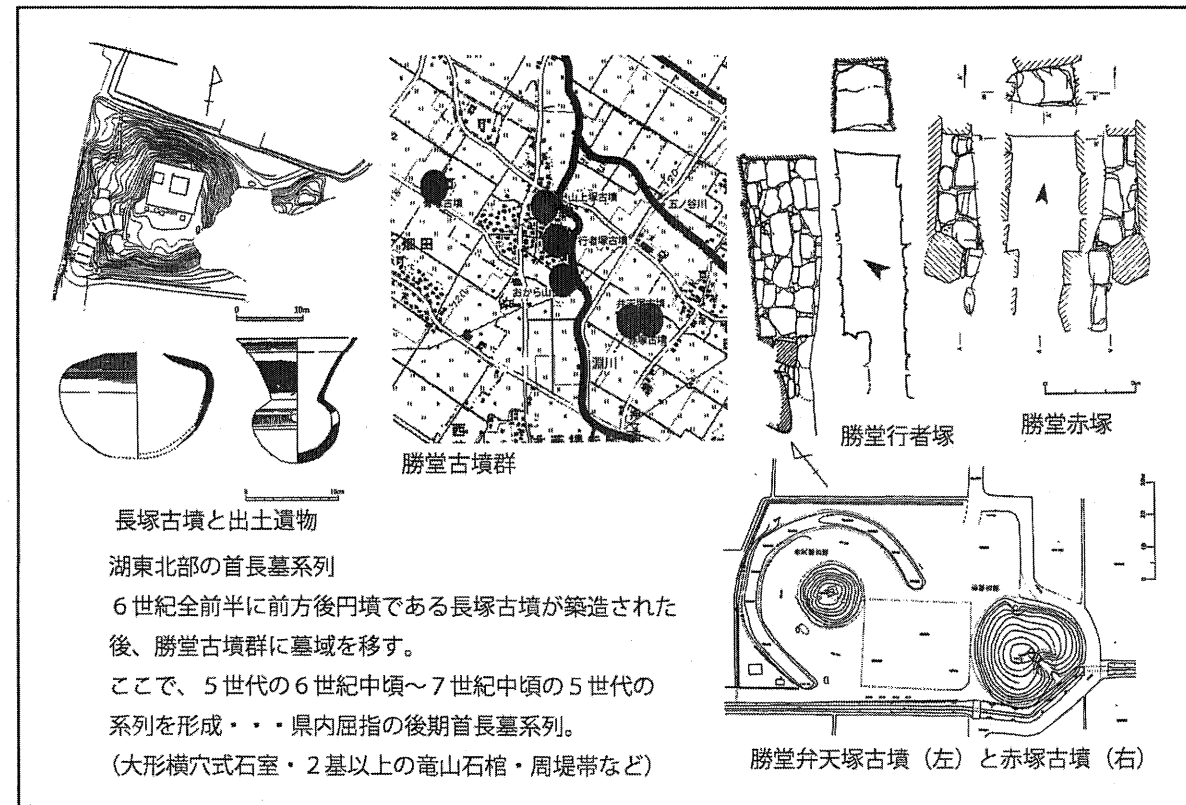
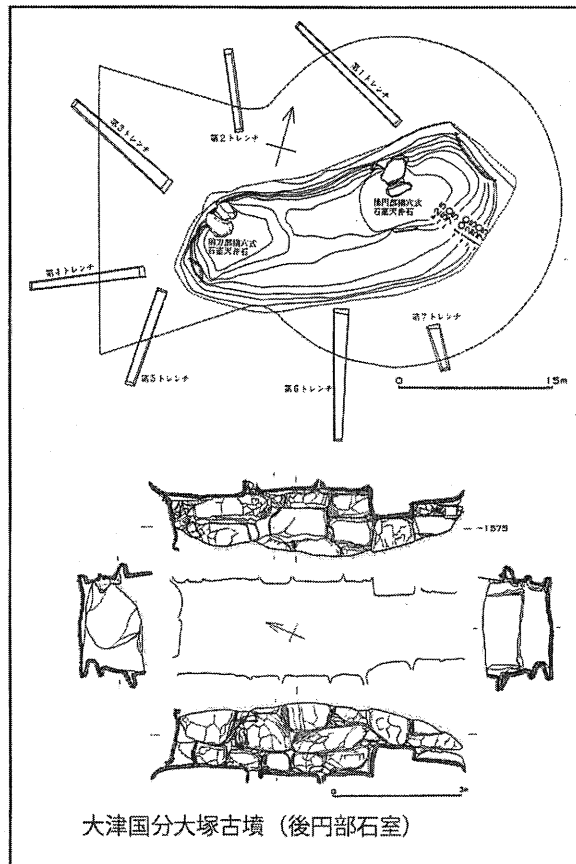
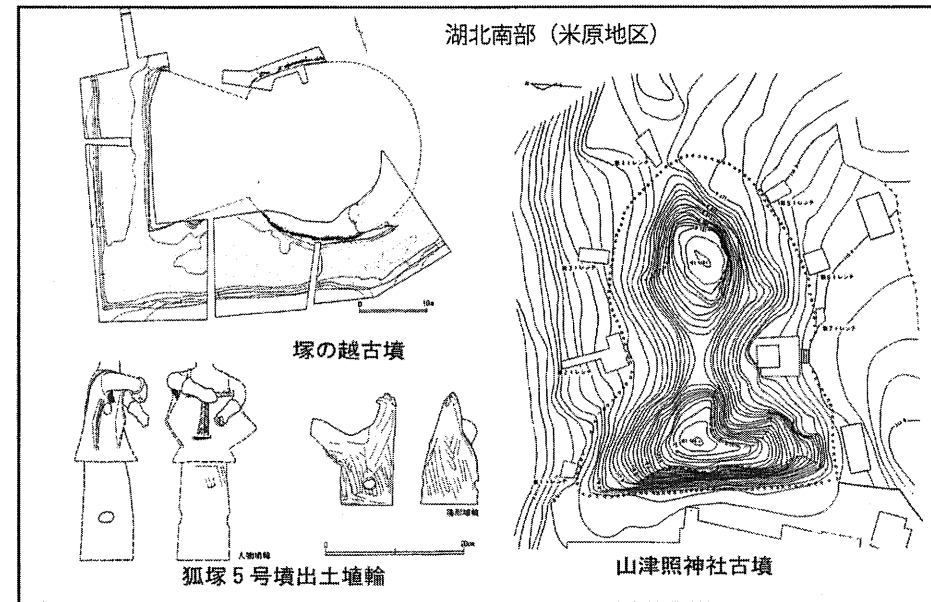
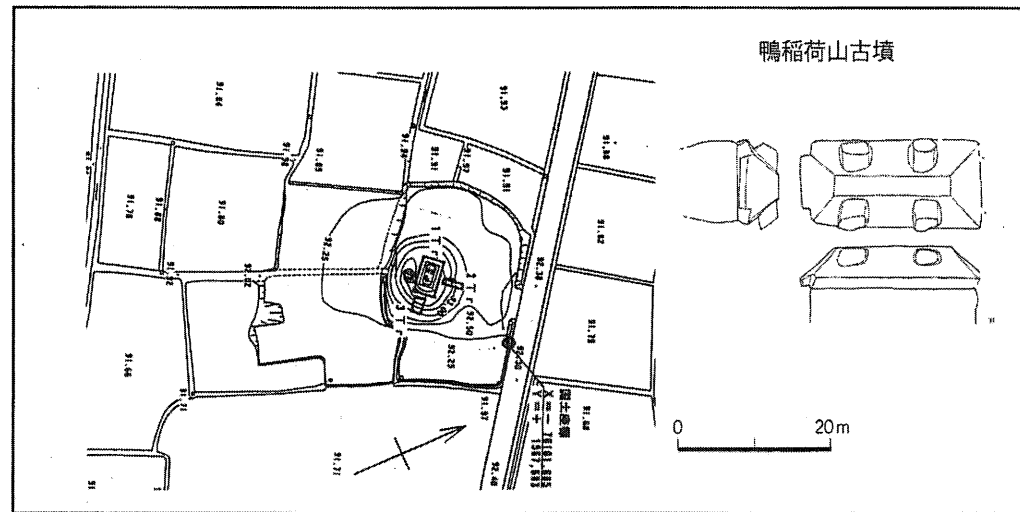
5世紀の古墳群の特色を、近江八幡市千僧供古墳群と長浜市の長浜古墳群にみてみよう。

前者では、先行する住連坊古墳は大型円墳で、埴輪も有さないが、後属する供養塚古墳では、帆立貝形古墳（古市蕃上山古墳同形）に墳形を変化させ、優れた埴輪祭祀（製作技法・周堤帯に埴輪群像）を導入する。しかし、武器・武具副葬はむしろ貧弱である。おそらく、「古市王家」に文官的立場で出仕していた可能性が考えられるが、それは一代限りであった。なお、どの程度、支配者集団を形成していたかについては不明である。また、近接する車塚古墳群や木村古墳群などと機能分化している可能性なども考え得るところである。

最後の画期

前方後円墳の終焉と首長墓系列

野洲と長浜に収斂したかのような琵琶湖地域の首長層の体制も、その直後（TK10 期頃）に大きな変化を迎える。野洲と長浜における首長墓の後退・停止が発生し、これと合わせるかのように、琵琶湖の拠点に優れた前方後円墳（高島：鴨稻荷山古墳・米原：塚の越古墳）が築造される。さらに、少し遅れ、大津：国分大塚、湖北：横山神社・塩津丸山など琵琶湖に關係する前方後円墳、あるいは、竜王：岩屋古墳や愛知：長塚古墳などの内陸部の首長墓も成立する。おおよそ、旧郡に1基的築造で、律令期に継続する地域体制の萌芽が見られる。しかし、これらは、系譜として長く続かず、かつ、最後の前方後円墳でもある。



6世紀後半以降、顕在化しない地域首長墓の中で、ひととき強い存在感を示すのが、愛知郡の勝堂古墳群である。6世紀後半期から7世紀中頃にかけての5代系列を示す大型古墳が築造される。畿内からの情報を得た大型の横穴式石室、竜山石製組合式家形石棺の搬入など、ヤマト王権と密接に關係した首長層が浮かび上がる。文献で伝える「依智秦氏」との關係も考えられ、広大な湖東平野（扇状地）の開発を進めたと説明されることが多い。

細川・資料・・・5

しかし、この地域の交通路としての重要性を鑑みれば、東国への要、あるいは、東国との連絡拠点として、この地域の首長層に強大な権限が与えられた可能性も否定できない。

これは、愛知地域ほど顕著ではないが、有力な古墳を築造する犬上地域も同様である。

また、6世紀後半の高句麗使節の来朝を契機に、大津北郊外を中心とする琵琶湖岸の渡来系氏族の再編成もすすみ、特に7世紀前半～中葉頃には、有力な終末期古墳が知られる大津南部と湖北北部に大きな政治的な拠点が形成された可能性がある。国際的な緊張關係で、日本海ルート of 拠点としての琵琶湖が意識され、これが近江大津宮の前提となってゆく。

紀伊地域の首長墓系譜について

公益財団法人和歌山県文化財センター
主査 丹野 拓

概要

紀伊地域では前期古墳が発達せず、方形周溝墓的な様相が継続する。前期末から中期初頭になると定型化した古墳が出現し、特に有力な古墳群として紀ノ川下流域の北岸に木ノ本古墳群、南岸に岩橋千塚古墳群、井辺前山古墳群の築造が開始される。また、木ノ本古墳群から和泉山地を大阪湾岸側に抜けた地点に、巨大な2基の前方後円墳を含む淡輪古墳群が形成される。後期になると、淡輪古墳群と木ノ本古墳群の築造は停止し、紀ノ川に面した丘陵上で大谷古墳を始めとする古墳が規模を縮小しながら継続する。一方、紀ノ川南岸の井辺前山古墳群は規模を保って継続し、岩橋千塚古墳群は首長墓が大型化し、墓域を移動・拡大させながら巨大な群集墳を形成する。紀ノ川下流域以外では貴志川左岸と日高川左岸、富田川流域下流域で若干の首長墓の展開が認められるが、一代限りの首長墓しか確認されない地域も多い。

1 紀伊における古墳の始まり—古墳時代前期—

古墳時代前期初頭前後に、周溝墓群内に前方後方形・前方後円形の墓(ここでは古墳として置く)が出現する。前方後円墳の出現は和歌山市秋月1号墳で確認されているが、墳丘・主体部は削平されており様相はほぼ不明である。しかし、周溝内の土器を検討すると、布留式古段階とされるその出現年代は若干廻り庄内式新段階まで遡る可能性も考えられる。

2 木ノ本古墳群と淡輪古墳群—古墳時代中期—

古墳時代中期の始まりとともに、紀ノ川河口部(紀水門)付近で朝鮮半島との交易が盛んになり、鳴滝遺跡では大型倉庫群が形成され、楠見遺跡では初期須恵器の多量出土が確認される。木ノ本(釜山)古墳群では、茶臼山古墳→車駕之古址古墳(86m)→釜山古墳が築かれる。中期末には馬冑・馬甲の副葬で有名な大谷古墳が築かれるが、墓域は丘陵上に移り、墳丘は小型化していく傾向を示す。

木ノ本古墳群と併行して、紀水門から峠を越えた大阪湾岸沿いには淡輪古墳群が築かれている。西陵(210m)→西小山古墳→淡輪ニサンザイ古墳(180m)が集落や農地を伴わない場所に突如出現しており、紀伊地域と和泉南部の勢力を背景に、朝鮮半島との交易や軍事面を担った首長墓が築かれた可能性を考えておきたい。

3 岩橋千塚の首長墓動向—古墳時代後期—

岩橋山塊に群在する約850基の古墳は紀直の築いた巨大群集墳と考えられてきたが、いくつかの異なる首長墓系譜をもつグループに分ける方が妥当と思われる。そのうち水路網の分水地点と倉庫群に面した花山地区で古墳の築造を開始する一群を紀直の岩橋千塚古墳群と考えると、墓域を移動・拡大しながら紀国造へと変貌していく姿を認識することができる。岩橋千塚古墳群は花山8号墳(52m(帆立貝形))→10号墳→2号墳→6号墳→大谷山22号墳→大日山35号墳(86m)→天王塚(86m)→寺内57号墳→井辺1号墳の順に、井辺前山古墳群は井辺前山24号墳(60m)→7号墳?→6号墳?→10号墳(井辺八幡山古墳)(67m)→38号墳の順に築かれているものと考えられる。

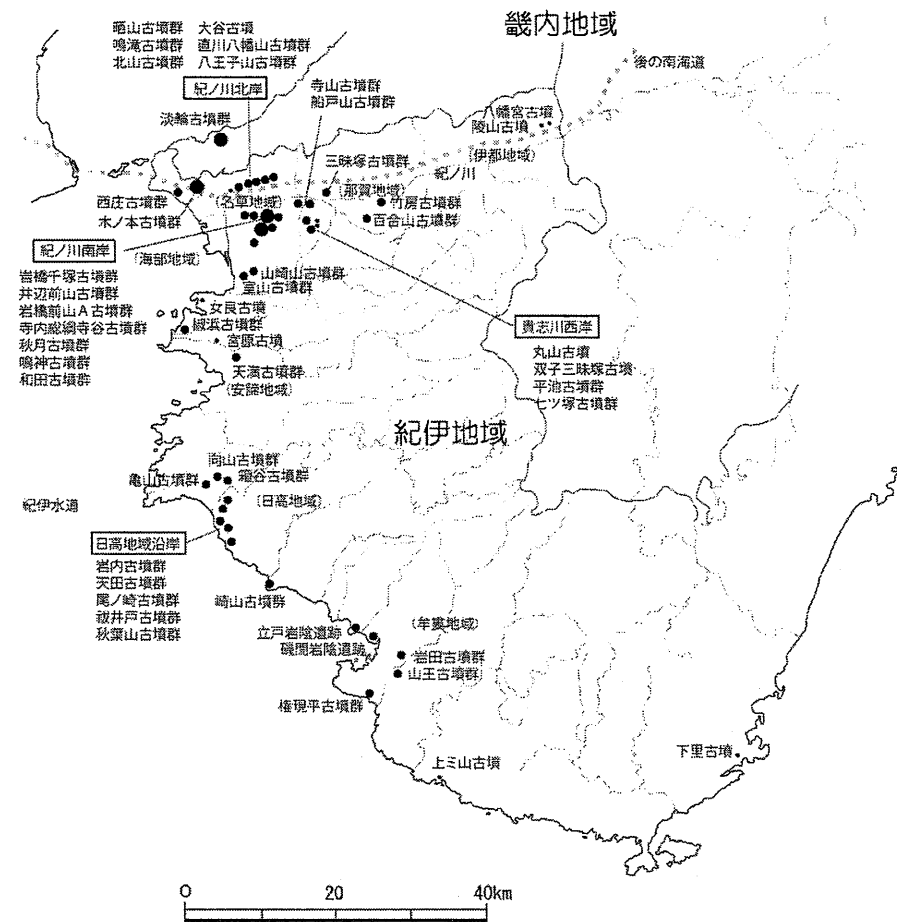


図1 紀伊の主要な古墳群

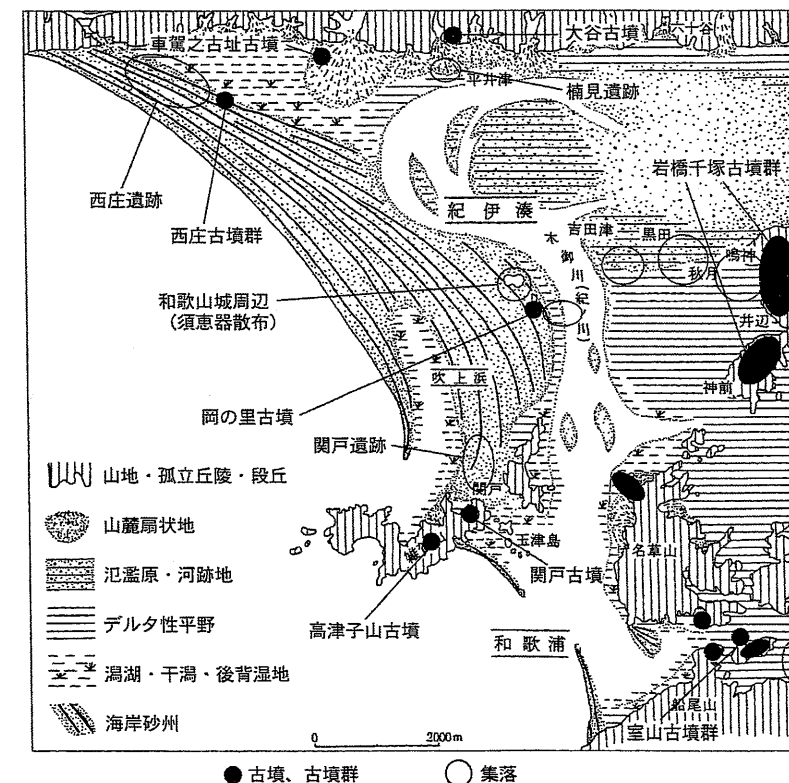


図2 和歌浦図(和歌山県教育委員会『和歌の浦学術調査報告書』2010より)

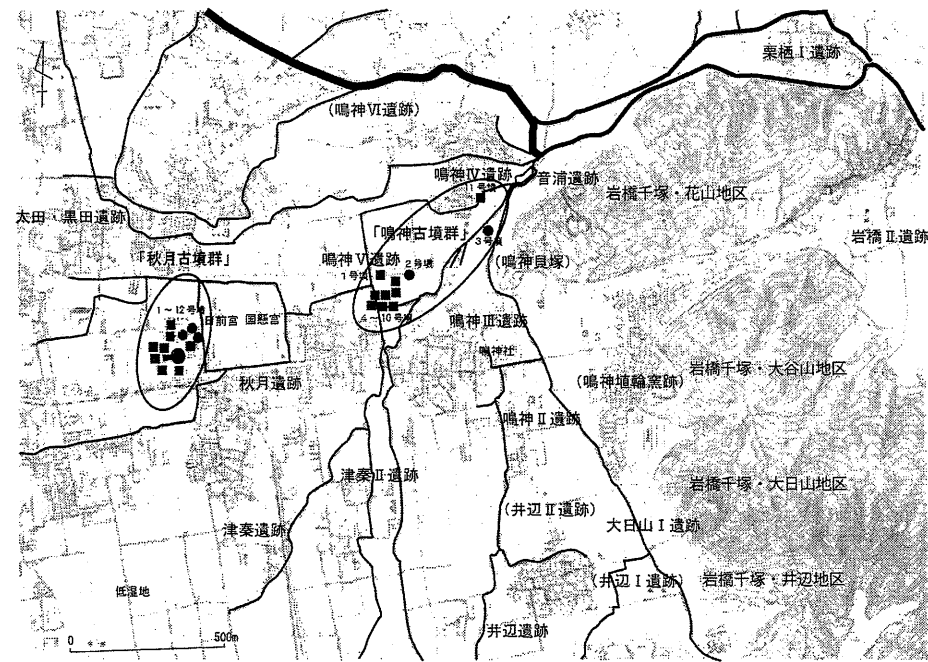


図3 和歌山平野の古墳群と現在の水路網

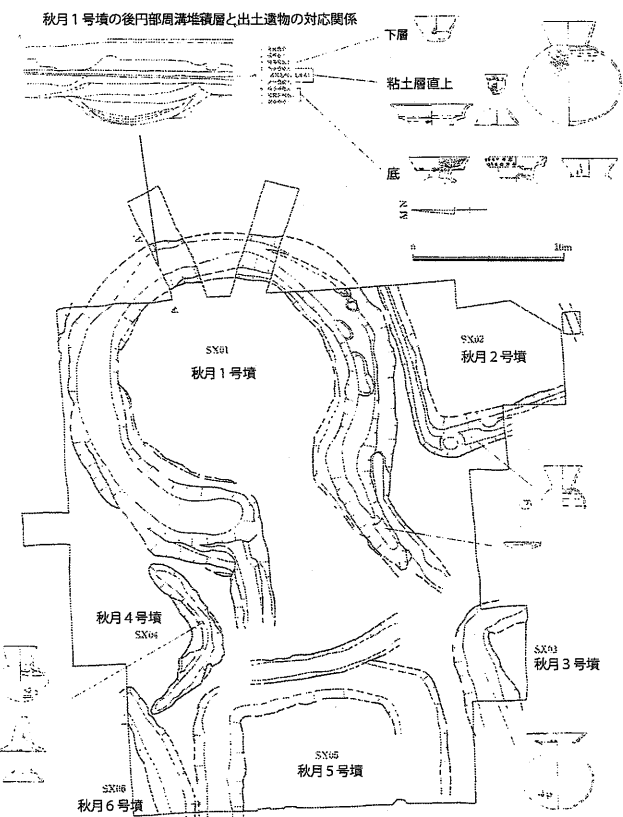


図4 秋月1号墳とその周溝出土土器

秋月1号墳は紀伊の中心部に築かれた前方後円墳である。布留式古段階の小型丸底土器が知られているが、底近くの粘土直上層から出土している庄内式新段階墳の土器にも注目すべきだろう。

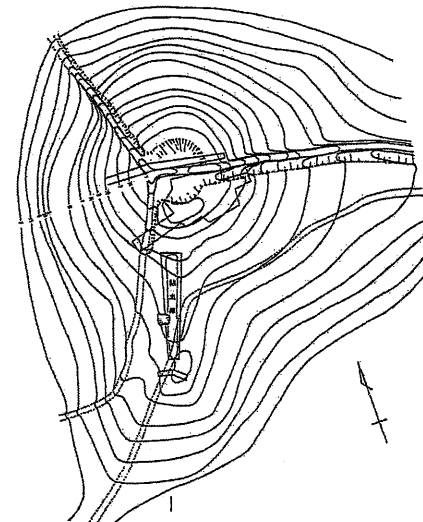


図6 花山8号墳



図7 井辺前山24号墳

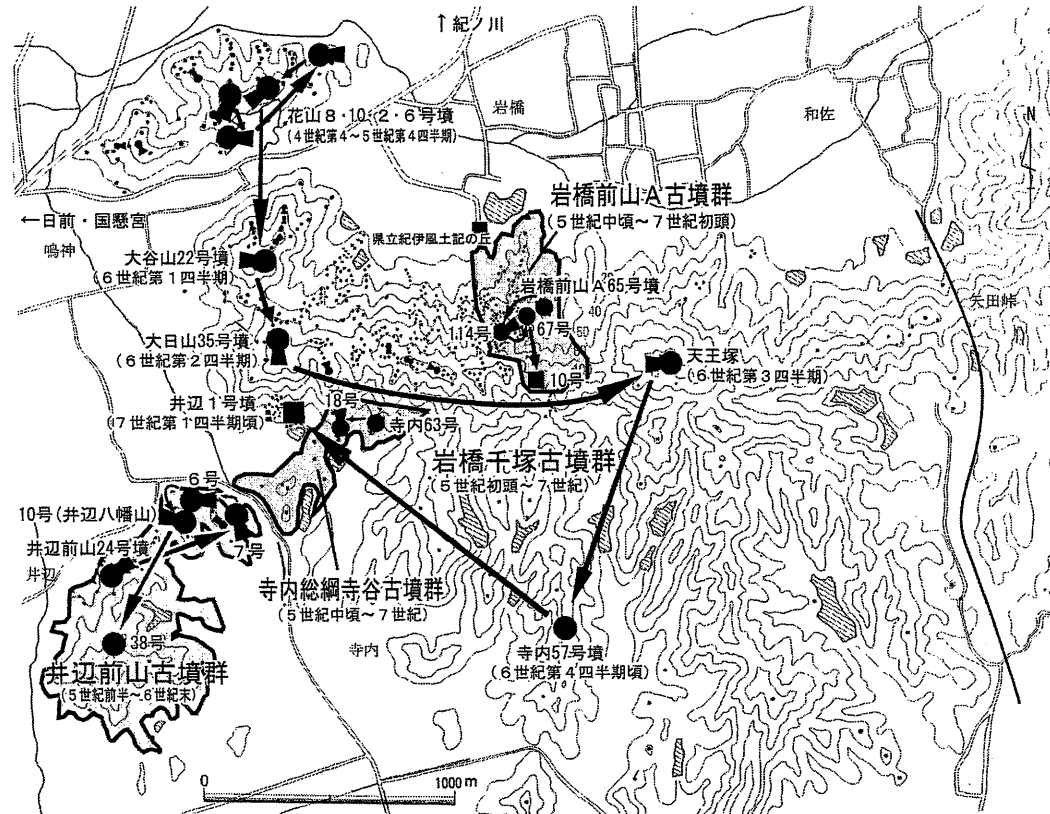


図5 岩橋山塊に所在する古墳群の分割案

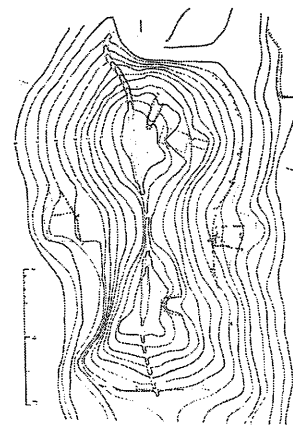


図8 花山6号墳

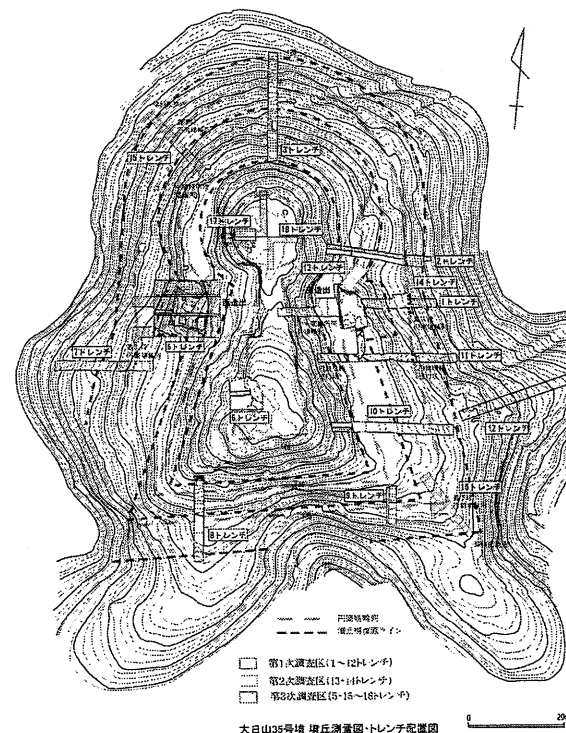


図9 大日山35号墳

大日山35号墳の東西の造り出しからは、独特な形象埴輪が出土している。翼を広げた鳥や両面の人物、胡籥(ころく)、双脚輪状の冠帽をかぶる人物などが確認されている。

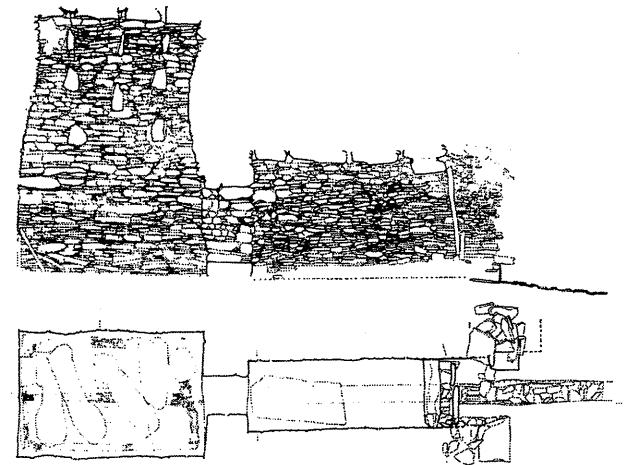
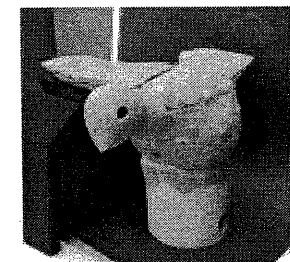
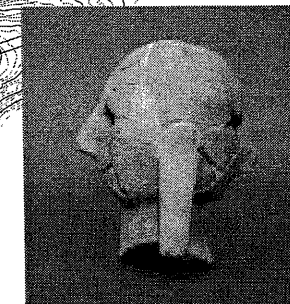


図11 天王塚の石室

岩橋千塚古墳群は紀直の古墳群と考えられ、板石で閉塞する岩橋型石室がつくられている。天王塚の玄室は石棚と石梁を用いて、天井高5.9mと近畿地方で最も高い石室を構築している。



翼を広げた鳥形埴輪



両面人物埴輪

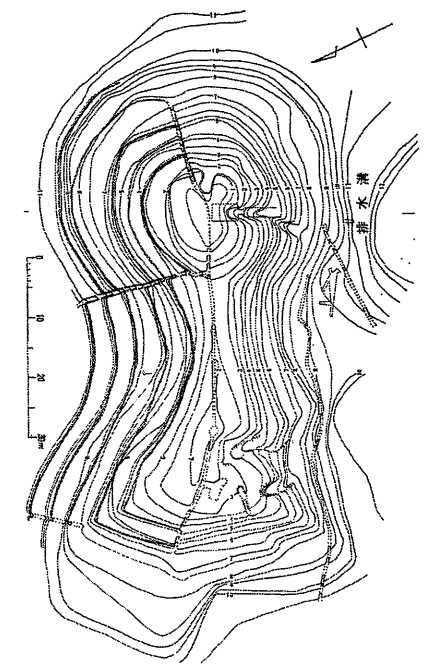


図10 天王塚

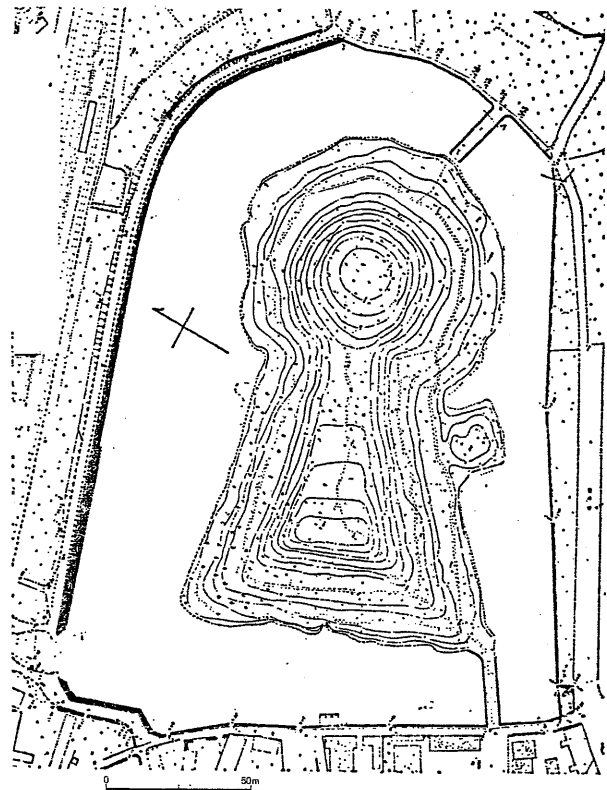


図12 淡輪ニサンザイ古墳(宇度墓)

大阪府岬町の淡輪古墳群は、紀伊の勢力が築いた古墳群とする説が有力である。須恵器の技法を取り入れたといわれる淡輪系埴輪は、木ノ本古墳群をはじめとする紀ノ川流域の古墳でも散見される。

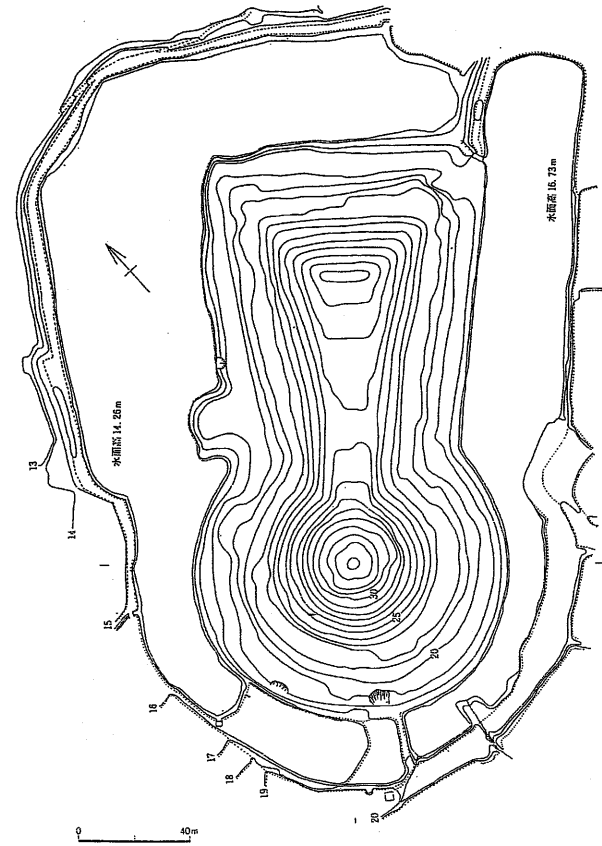


図13 西陵古墳

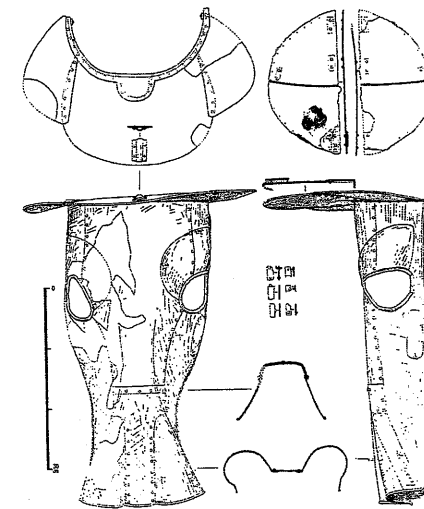
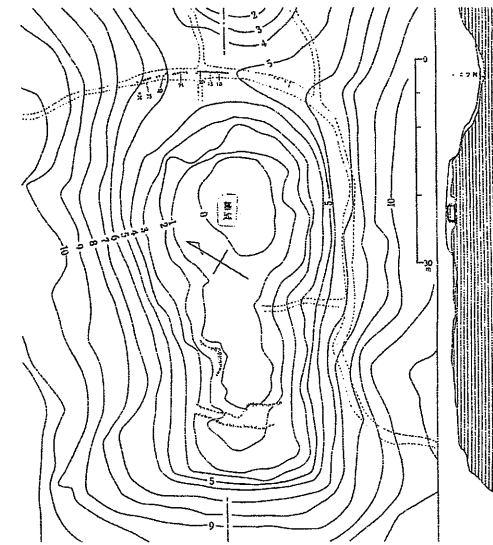


図16 大谷古墳と馬冑・馬甲

大谷古墳は丘陵上に築かれた墳長約70mの前方後円墳。大伽耶で作られたとみられる多数の馬具や装身具類が出土した。

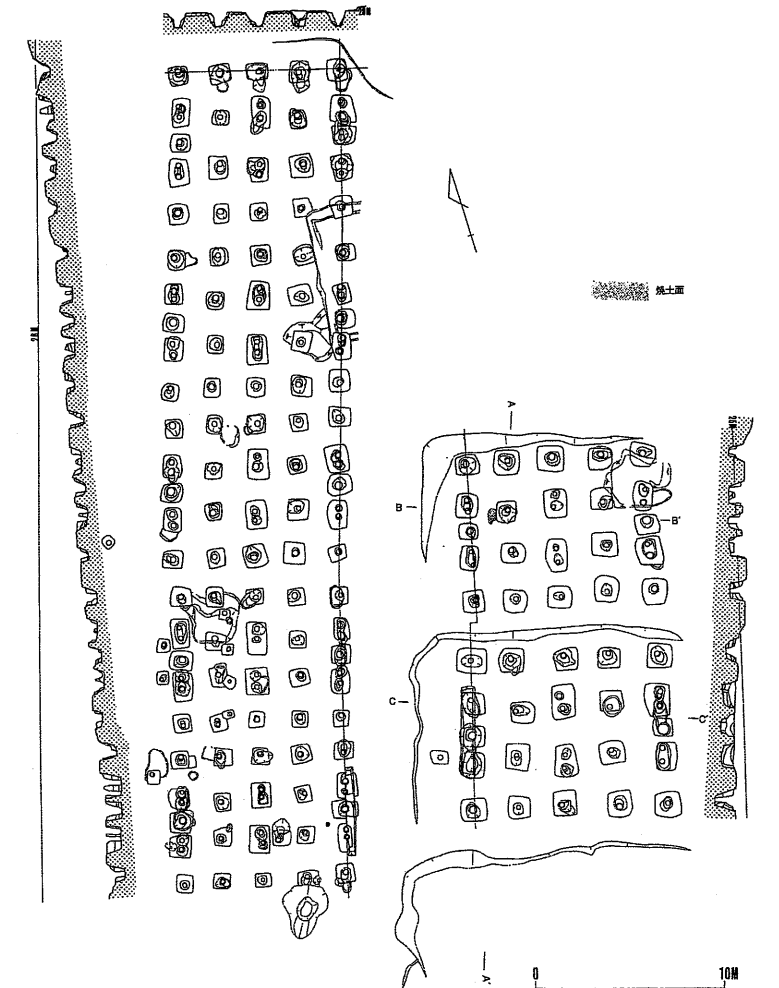


図17 鳴滝遺跡の大型倉庫群

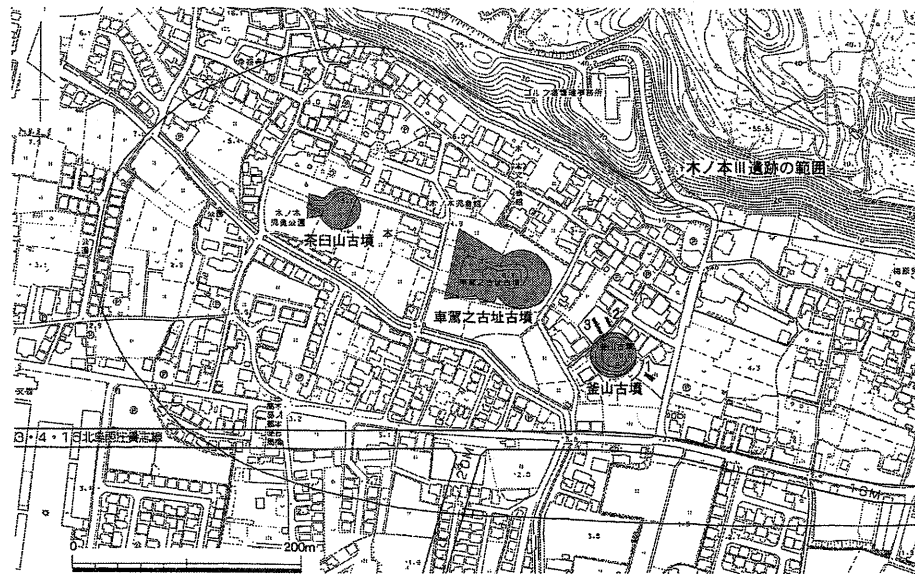


図14 木ノ本(釜山)古墳群

茶臼山古墳・車駕之古址古墳・釜山古墳の3基から成る古墳群。車駕之古址古墳は墳長86mで、二段築成、盾形周溝、造り出しを備え、葺石を敷き、淡輪系埴輪が出土する。

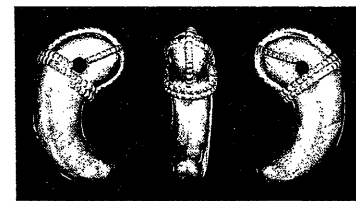


写真1 車駕之古址古墳出土金製勾玉

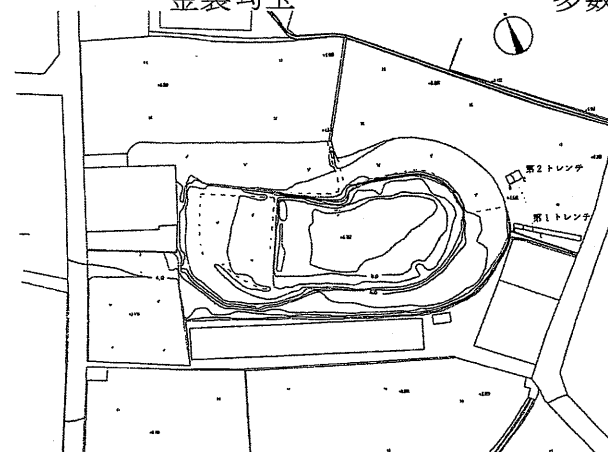


図15 車駕之古址古墳残存状況

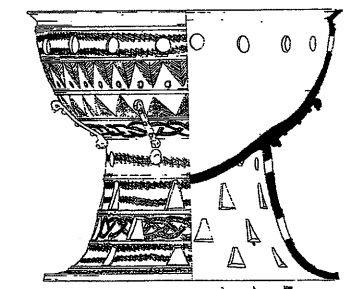
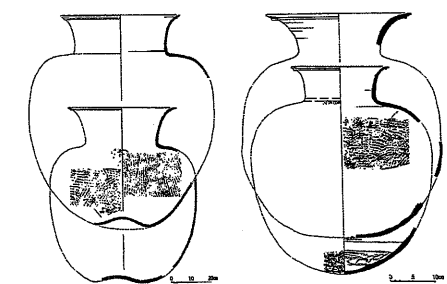


図18 楠見遺跡の初期須恵器

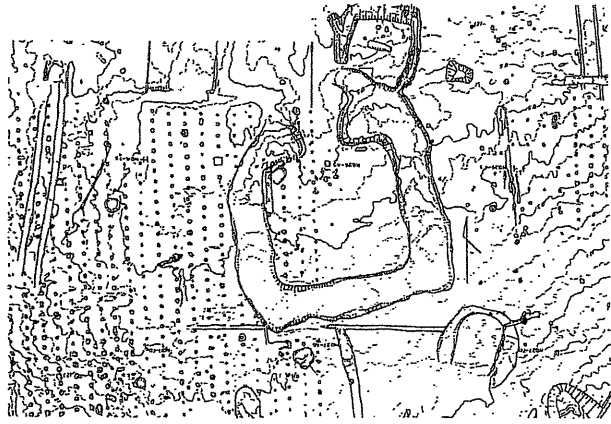


図19 御坊市・尾ノ崎15号墓

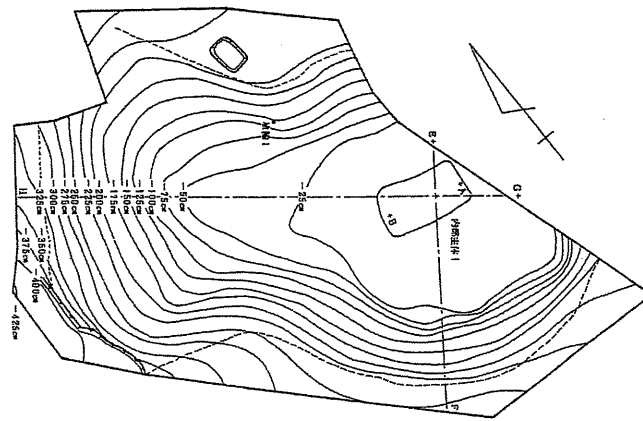


図20 御坊市天田28号墳

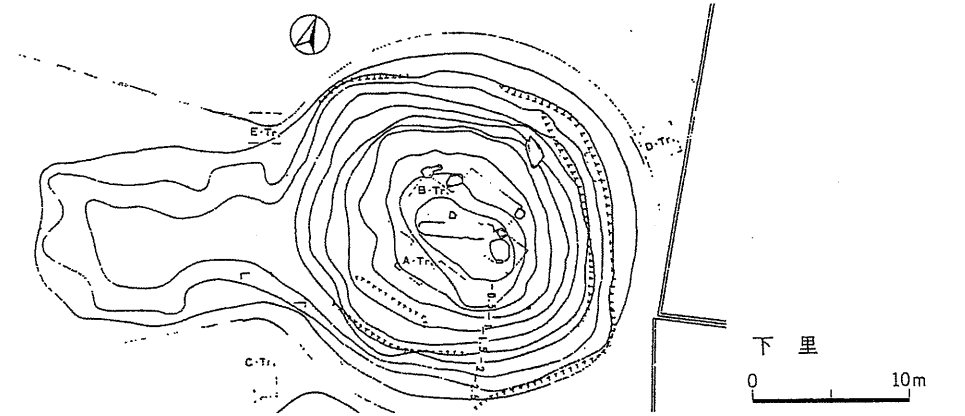


図21 那智勝浦町下里古墳

日高川右岸の塩屋周辺には中小首長墓クラスの古墳として、尾ノ崎15号墓、岩内3号墳、天田28古墳が築かれる。岩内古墳群には終末期の方墳である岩内1号墳が築かれており、塩屋連の墓域に築かれた有馬皇子の墓ともいわれている。

田辺・白浜には古墳と岩陰遺跡が混在し、それより南では前期末の下里古墳と後期のすさみ町上ミ山古墳しか古墳が確認されていない。

* 古墳と遺物の図は各遺跡の報告書による。その他の図表の出典は各図表下に記載。
図1・3・5、表1・2は筆者作成

前方後円墳編年	年代の目安	名草北部(紀ノ川下流域北岸)	名草南部(紀ノ川下流域南岸)	那賀・伊都	海部・有田	日高	牟婁	関連遺跡と紀伊地域の動向	
前期	1期 (庄内~布留・古) 前方後円墳形成		● 井辺 ● 川辺			● 片山SX2 ● 尾ノ崎1		嚮向型前方後円墳 箸墓	
	2期 (布留・古) 河瀬遺跡の規模縮小		● 秋月3			● 片山G		桜井茶臼山	
	3期 (布留・中)					● 片山D		東大寺山	
	4期 (布留・中~新) 古墳定型化	● 六十谷2	● 岩橋千塚古墳群 ● 井辺前山古墳群		(山田原)	● (尾ノ崎)14 (阪東丘1)(城山)	● 下里	淡輪古墳群 琴柱形石製品出土	
中期	5期 (布留・新~TG232) 粘土板・粘土瓦の優位	● 晒山1 (八王子山8)	● 花山8 (花山36) ● 秋月7	● (井辺前山)24		● 岩内3 ● 尾ノ崎16	● 山王1	紀水門で朝鮮半島との交易盛ん 橋見遺跡	
	6期 TK73	● 木ノ本古墳群 ● 茶臼山	● 花山10 ● 花山44	● 山崎山2 ● 寺内63 ● 山崎山5	● 丸山 (箕島2)	(阪東丘2)		西陵 鳴滝倉庫群 西小山	
	7期 TK216~TK208	● 車駕之古址 (道川八幡山古墳群)	● 秋月5 ● (花山)2	● (前山A)65 ● (前山A)17	● 磯子塚 ● 椒	● 片山A-SX1 (磯間岩陰1) (脇ノ谷)		淡輪ニサンザイ	
後期	8期 TK23~TK47 横穴式石室導入	● 釜山 ● 大谷 ● 晒山2	● 花山6 ● 大谷山6 ● 前山A58	● 井辺前山7 ● (前山A)114	● 陵山 ● 三味塚	● 天田28	● 権現平1 ● (岩田)1	法円坂倉庫群 古墳群再編	
	9期 MT15~TK10 岩橋型石室で水平梁 形象輪軸独立化 埴輪消滅	● 大谷西(仮称) (八王子山古墳群) ● 晒山10	● 大谷山22 ● (大谷山)20 ● 大日山35 ● 知事塚 ● 寺内18	● (前山A)114 ● 井辺前山6 ● 室山2 ● 井辺八幡山 ● 天王塚 ● 寺内18	● 双子三味塚 ● 黒土 ● 平池1 ● 船戸山3 ● 船戸箱山	● 天田28 ● 秋葉山1	● 上三山 ● (岩田)2	岩橋千塚古墳群の 移動・拡大開始 群集墳発達	
	10期 TK43~TK209 岩橋型石室で垂直梁 石室南面 首長墓円墳化 首長墓方墳化	● 奥出 ● 園部丸山 ● 鳴滝1	● 天王塚 ● 將軍塚 ● 寺内57 ● 山東22	● 室山1 ● 寺山15 ● (前山A)46 ● 井辺前山38 ● (前山A)67 ● 井辺前山39	● 八幡塚 ● 北1 ● 平池2 (宮原)		● 祓戸10	(葉系)	岩橋型石室発達 前方後円墳築造停止
	終末期 終末期 TK217~		● 井辺1 ● 井辺2 ● 井辺12	● 井辺1 ● 前山A10 ● 山崎山1	● 八幡宮	● 女良 ● 泣瀧女	● 後口谷		寺院造営開始

表1 紀伊地域の首長墓系譜編年案

岩橋	年代の目安	花山	大谷山	大日山	岩橋前山B	岩橋前山A	和佐	山東	寺内	井辺	井辺前山
1期	4世紀第4~ 5世紀第1前半期頃 粘土板中心	● 8号 ● (36号) ● (7号)	● 岩橋千塚古墳群 (花山地区から井辺・寺内地区まで)								● 井辺前山古墳群
2期	5世紀第2前半期頃 器式5型・式石室増加	● 10号 ● (20号) ● 44号	<北麓> ● 39号			● 岩橋前山A古墳群		● 寺内網寺谷古墳群	● 63号		● (24号)
3期	5世紀第3前半期頃 埴輪増加	● (2号) ● 45号				● 65号 ● 17号 ● 8号					
4期	TK47型式前後 5世紀第4前半期頃 横穴式石室導入	● 6号 ● 33号	● 6号		<北麓> ● (116号) ● (114号) ● (150号) ● (167号)	● (93号) ● 22号 ● 27号 ● 28号 ● (20号)			● 22号		● (7号) ● 26号
5期	MT15型式前後 6世紀第1前半期頃 岩橋型石室完成		● 22号 ● 27号 ● 28号 ● (20号)		● (11号)	● 86号					● 6号 ○ 36号
6期	TK10型式前後 6世紀第2前半期頃 群集墳発達の増加			● 35号 ● 1号 ● (8号)	● 知事塚 ● 117号	● 56号 ● 99号		● 18号	○ カンコ遺跡の須賀古墳		● 八幡山 ○ 32号 ● (3号)
7期	TK85型式前後 6世紀第3前半期頃 石室発達・埴輪消滅	○ (14号)		● 2号 ● 7号	● 將軍塚 ● 那長塚 ● (109号)	● 23号 ● 24号 ● 130号 ● 46号	● 天王塚				● (14号)
8期	TK43型式前後 6世紀第4前半期頃 前方後円墳築造停止	○ (9号)	● 16号	● 58号		● 67号 ● 13号	○ 天王塚山2号	● 22号	● 57号 ● (37号) ● (42号) ● (44号)		● 38号 ● 39号
9期	TK209型式前後 6世紀第4前半期頃~ 7世紀第1前半期頃 首長墓方墳化				● 220号 ● 101号	● 10号			● 6号 ● 35号	● 1号 ● 2号 ● 12号	
10期	TK217型式前後 7世紀第2前半期頃 首長墓不明								● 56号		

岩橋千塚古墳群の首長墓を基準に1~10期とした編年案である。(○)は根拠の弱いもの

表2 岩橋山塊における古墳群の移動状況(岩橋千塚編年案)

関西考古学の日「ヤマト王権と地域首長」

講演会趣旨説明資料

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

小池 寛

・古墳時代の政治的変動

古墳時代前期 → 国家論と畿内政権の成立、前方後円墳体制論、三角縁神獸鏡にみる東アジア

(奈良県纏向遺跡の歴史的意義→他地域の土器搬入の意義、纏向型前方後円墳の成立)

古墳時代中期 → 地域首長による地域支配、^{いまきのてひと}今来才伎参入による技術革新 → 産業革命

(須恵器生産、鍛冶生産、土木技術、航海技術、天文と測量技術、大型前方後円墳)

古墳時代後期 → 地域首長による支配体制の解体と畿内政権による直接的支配の萌芽

(大型前方後円墳の終焉、群集墳の成立→大型方墳や大型横穴式石室墳の出現)

古墳時代末期 → 畿内政権の直接的支配によるプレ律令体制の萌芽

(飛鳥時代墳墓の成立、大化薄葬令と高松塚古墳等の終末期古墳、八角形墳にみる中国思想の採用)

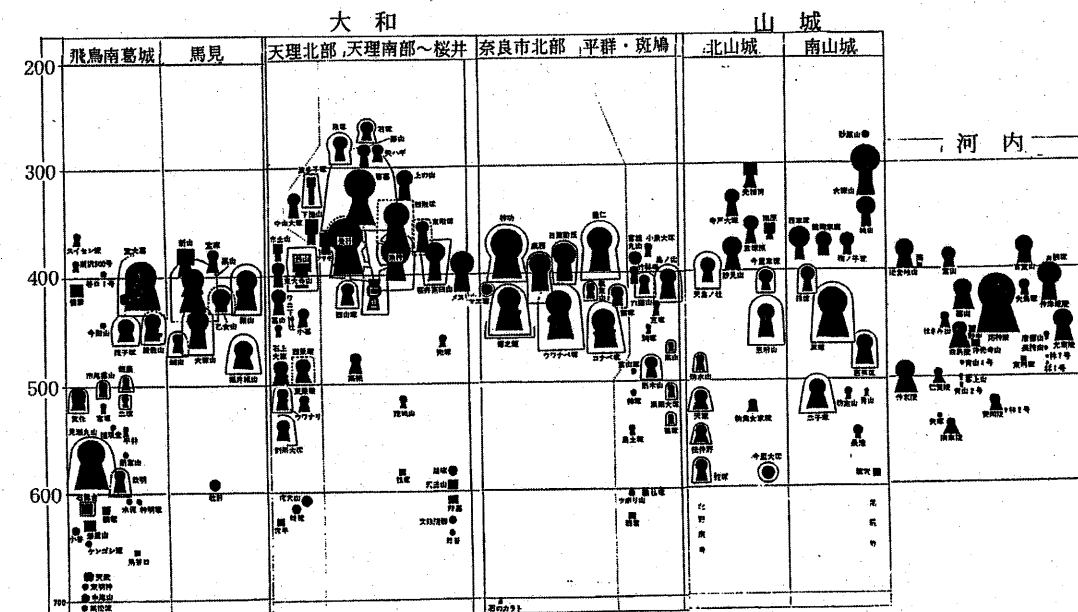
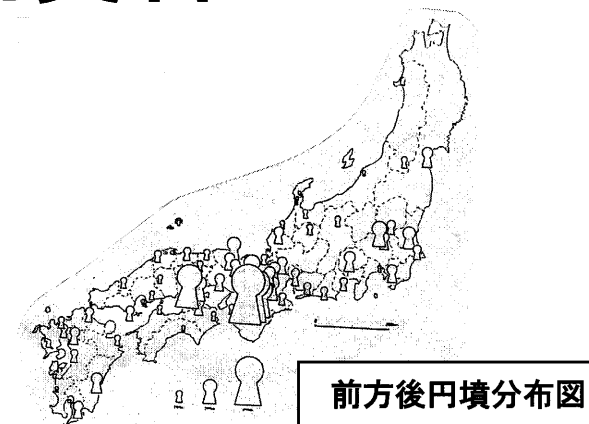
2 東アジアの政治的混乱と前方後円墳の成立

・A.D.25年中国前漢滅亡→→184年中国黄巾の乱勃発→→220年後漢滅亡により魏・呉・蜀三国時代成立→

→263年蜀滅亡→→265年武帝西晋皇帝に→→280年呉滅亡・・316年西晋滅亡→八王の乱や永嘉の乱

その後、五胡十六国の戦乱などにより政治的・経済的難民の移動⇒⇒急速に社会構造の変革を急ぐ必要から

その政治的象徴として前方後円墳を築造し、全国に拡散した。



2、大和・山城・河内の主要古墳編年表

大和・山城・河内の主要古墳の編年表

1 東アジア年表 (東アジアの動乱期に呼応し、古墳時代が成立・終焉している)

